

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 増田 仁／中西 雪夫
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：中学校・高等学校における学習内容の理解を深めるとともに、授業実践に必要な技能を高める。			
授業の概要 中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：課題解決学習と家庭科 第3回：模擬授業の計画（1）学習指導要領と家庭科教科書の分析 第4回：模擬授業の計画（2）教育内容研究（教材研究） 第5回：模擬授業の計画（3）教材開発 第6回：模擬授業の計画（4）学習指導案の作成 第7回：模擬授業の計画（5）発問計画・板書計画の作成 第8回：模擬授業の実施（1）個人又はグループによる模擬授業1回目 第9回：模擬授業の実施（2）個人又はグループによる模擬授業2回目 第10回：模擬授業の実施（3）個人又はグループによる模擬授業3回目 第11回：模擬授業の改善（1）実施した模擬授業の課題の改善策検討 第12回：模擬授業の改善（2）改善模擬授業の実施1回目 第13回：模擬授業の改善（3）改善模擬授業の実施2回目 第14回：模擬授業の改善（4）改善模擬授業の実施3回目 第15回：総括 定期試験（またはレポート）			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）			

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等

中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

堀内かおる「生活をデザインする家庭科教育」世界思想社（2020）

学生に対する評価

模擬授業（50％）、定期試験またはレポート（50％）

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 八幡 彩子／中西 雪夫 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：中学校・高等学校における学習内容の理解を深めるとともに、授業実践に必要な技能を高める。			
中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：アクティブラーニングの意義と家庭科 第3回：模擬授業の計画（1）学習指導要領と家庭科教科書の分析 第4回：模擬授業の計画（2）教育内容研究（教材研究） 第5回：模擬授業の計画（3）教材開発 第6回：模擬授業の計画（4）学習指導案の作成 第7回：模擬授業の計画（5）発問計画・板書計画の作成 第8回：模擬授業の実施（1）個人又はグループによる模擬授業1回目 第9回：模擬授業の実施（2）個人又はグループによる模擬授業2回目 第10回：模擬授業の実施（3）個人又はグループによる模擬授業3回目 第11回：模擬授業の改善（1）実施した模擬授業の課題の改善策検討 第12回：模擬授業の改善（2）改善模擬授業の実施1回目 第13回：模擬授業の改善（3）改善模擬授業の実施2回目 第14回：模擬授業の改善（4）改善模擬授業の実施3回目 第15回：総括 定期試験（またはレポート）			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2009） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2008） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」開隆堂（2008） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2009）			

参考書・参考資料等

中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

学生に対する評価

模擬授業（50%）、定期試験またはレポート（50%）

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 増田 仁、中迫 由実／中西 雪夫 担当形態： クラス分け・オムニバス／単 独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：中学校・高等学校における学習内容の理解を深めるとともに、授業実践に必要な技能を高める。			
中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（中迫 由実／中西 雪夫） 第2回：専門性を踏まえた家庭科（中迫 由実／中西 雪夫） 第3回：教材研究（1）教材研究の方法（中迫 由実／中西 雪夫） 第4回：教材研究（2）教材の教育的価値（中迫 由実／中西 雪夫） 第5回：教材研究（3）中学校家庭科の教材研究（中迫 由実／中西 雪夫） 第6回：教材研究（4）高等学校教家庭科の材研究（中迫 由実／中西 雪夫） 第7回：教材研究（5）教材研究のまとめ（中迫 由実／中西 雪夫） 第8回：模擬授業の計画（1）学習指導要領と家庭科教科書の分析（増田 仁／中西 雪夫） 第9回：模擬授業の計画（2）学習指導案の作成（増田 仁／中西 雪夫） 第10回：模擬授業の計画（3）発問計画・板書計画の作成（増田 仁／中西 雪夫） 第11回：模擬授業の実施（1）個人又はグループによる模擬授業1回目（増田 仁／中西 雪夫） 第12回：模擬授業の実施（2）個人又はグループによる模擬授業2回目（増田 仁／中西 雪夫） 第13回：模擬授業の改善（1）改善模擬授業の実施2回目（増田 仁／中西 雪夫） 第14回：模擬授業の改善（2）改善模擬授業の実施3回目（増田 仁／中西 雪夫） 第15回：総括（増田 仁／中西 雪夫） 定期試験（またはレポート）			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）			

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等

中西雪夫ほか編著、小中学校家庭科の授業をつくる、学術図書出版社（2023）

学生に対する評価

模擬授業（50％）、定期試験またはレポート（50％）

授業科目名：英語音声学 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡崎 伸一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 音声学の基礎知識を理解し身につけ、英語の個々の音と単語・文レベルの発音ができる。音声指導のスキル・アイデアを豊富に有し、実践することができる。			
授業の概要 小・中・高等学校において、英語科教員（英語教師）として音声指導する際に必要とされる音声学の基礎知識を得ながら、音声指導のスキルとアイデアを実践する。演習形式時にはペアやグループワークで協働することを求める。			
授業計画 第1回：授業方針、音声指導力、国際共通語としての英語、アメリカ英語とイギリス英語 第2回：音声指導のモデルとゴール 第3回：音声学の基礎知識①（イントネーション、音節） 第4回：音声学の基礎知識②（強勢、リズム、両唇、歯茎、軟口蓋、母音） 第5回：音声学の基礎知識③（子音、音素、異音、英語のつづり字と発音） 第6回：音声指導の基本①（カタカナ表記、フォニックス） 第7回：音声指導の基本②（辞書、発音の評価、リスニングの素材） 第8回：談話レベルの発音①（イントネーション、文の区切り、強弱） 第9回：談話レベルの発音②（イントネーション群と焦点、リズム、リンキング） 第10回：談話レベルの発音③（英語の歌） 単語レベルの発音①（英単語の音声の3要素、語強勢） 第11回：単語レベルの発音②（/b/と/v/、/l/と/r/、/s/と/θ/、/ʃ/と/ʒ/の違い） 第12回：単語レベルの発音③（/h/と/f/、/p/と/t/と/k/、/i/と/i:/、/æ/と/ɛ/と/a/の違い） 第13回：単語レベルの発音④（/ə:/と/æ/, /o:/と /ɔ:/の違い、過去形edや複数形sの発音） 第14回：音声指導のデモンストレーション（ZOOMで実施） 第15回：テスト（音読）（各自動画ファイルを提出）と講義の総括と課題について			
テキスト 内田洋子・杉本淳子. (2020) . 『英語教師のための音声指導Q&A』. 研究社			
参考書・参考資料等 『中学英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL』高橋昌由（編集，著）大学教育			

出版

『高校英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL × ICT × UDL × PBL』高橋昌由（編集，著）大学教育出版

『英語授業「主体的・対話的で深い学び」を高めるために』高橋昌由（編集，著）大学教育出版

学生に対する評価

- 毎回のリフレクション（30%）
- 音読テスト（15%）
- 模擬授業（15%）
- 期末レポート（40%）

授業科目名： 英語学 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村里 泰昭/MOXON JONATHAN PETER 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 1. 様々な視点から英語を言語学的に考え、仕組みをより理解を深めることができる。			
授業の概要 「英語学」というのは、英語という言葉がどのような仕組みになっているかを考える言語学の一領域です。その仕組みから規則を明らかにして英語を深いレベルで理解しようとしています。つまり英語の音や単語、文や会話、様々な視点から英語がどのルールに沿って使用されているかを理解しようとする分野です。この科目では、その「音」（音素など）の組み立てを明らかにする音韻論、「単語」の仕組みを明らかにする形態論、「文」の仕組みを明らかにする統語論、などの観点から英語を考え、これから児童や生徒に教える教員として英語に関する理解をより深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、コース概要の説明 第2回：音韻論：音素の仕組み 第3回：形態論：派生形態論の仕組み 第4回：形態論：派生と複合から見えてくるもの 第5回：統語論：生成文法一句構造と名詞句の役割 第6回：統語論 生成文法一移動 第7回：統語論 機能的構文論一文の情報構造 第8回：統語論 機能的構文論一視点 第9回：語彙意味論：語の意味、意味関係、多義 第10回：語彙意味論：名詞の意味一可算と不可算の意味 第11回：認知意味論：カテゴリとタイプ、プロフィールとベース 第12回：認知意味論：概念メタファー 第13回：語用論：発話の論理形式、表意 第14回：語用論：推移と様々な情報を持つ表現 第15回：コースのまとめ、復習 定期試験			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

英語学の基礎、三原健一他、くろしお出版

学生に対する評価

- 授業への参加、ディスカッションにおける発言、プレゼンテーションの技能など平常点
50%（関心、態度、スキル）
- 期末試験 50%（理解、スキル）

授業科目名： 英語学演習 【シラバス共通（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村里 泰昭/MOXON JONATHAN PETER 担当形態： クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 1. 様々な視点から英語を言語学的に考え、仕組みをより理解をより深めることができる。			
授業の概要 「英語学」で構築された知識をもとに英文による英語学の解説を通じて様々な視点から英語を言語的に考え、仕組みをさらに理解を深める。この理解を用いて教科書に使われている英文を分析しクラスルームプラクティスに繋げていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、コース概要の説明 第2回：言語と言語学の本質 第3回：音韻論：子音と母音、音素規則 第4回：形態論：語の内部構造 第5回：文法範疇 第6回：語彙意味論（1）意味成分 第7回：語彙意味論（2）プロトタイプと比喻 第8回：句構造と動詞の補文 第9回：副詞句と文の種類 第10回：句構造 第11回：文の意味論 第12回：情報構造と発話行為（1）語用論と統合論 第13回：情報構造と発話行為（2）言語行為論 第14回：言語教育における言語学 第15回：復習とまとめ 定期試験			
テキスト 「The Linguistic Structure of Modern English」 (Brinton, J.B. & Brinton, D.M. John Benjamins出版)			

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

- 授業への参加、ディスカッションにおける発言、プレゼンテーションの技能など平常点 25%（関心、態度、スキル）、
- オンライン学習 25%（理解、スキル）
- 期末試験 50%（理解、スキル）

授業科目名： 英語音声学演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 浩司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業の到達目標及びテーマ 日本人英語からの脱却を目指して、発音の基礎的知識を身に着け、さらにその知識を実践によって確かなものとするのが目標である。			
授業の概要 日本人による英語発音(日本人英語)の特徴を明らかにしたうえで、日本人英語の弊害を理解する。授業では、日本人英語の原因を一つ一つ取り除き、正しい英語の発音を身に着けるようにしてゆく。			
授業計画 第1回：発音チェック：英語の正しい発音ができているか 第2回：日本人英語の特徴と矯正(1)：母音編 第3回：日本人英語の特徴と矯正(2)：子音編 第4回：日本人英語の特徴と矯正(3)：音節とモーラー母音挿入 第5回：綴り字と発音(1)：フォニックスと英語の綴り字 第6回：綴り字と発音(2)：フォニックスと英語の母音・子音 第7回：綴り字と発音(3)：フォニックスの問題点 第8回：日本人英語の特徴と矯正(4)：カタカナ発音の弊害 第9回：日本人英語の特徴と矯正(5)：強形と弱形 第10回：日本人英語の特徴と矯正(6)：音のつながり 第11回：日本人英語の特徴と矯正(7)：ピッチ言語とストレス言語 第12回：日本人英語の特徴と矯正(8)：イントネーション(1)：平板調と抑揚調 第13回：日本人英語の特徴と矯正(9)：イントネーション(2)：英語のイントネーションと意味 第14回：日本人英語の特徴と矯正(10)：マザーグースを読む(1)：英語のストレスを身につける 第15回：日本人英語の特徴と矯正(11)：マザーグースを読む(2)：英語のリズムを身につける 定期試験			
テキスト 授業時指示する			
参考書・参考資料等			

川越いつえ著『英語の音声を科学する』、深澤俊昭著『英語の発音パーフェクト学習辞典』

学生に対する評価

定期試験（60%）、平常点（授業への積極的参加、発表などを総合的に判断）（40%）

授業科目名：第二言語習得論【独自科目(佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>第二言語習得研究の研究テーマごとに最新の知見のまとめてもらい、各回のテーマについて議論を深めながら課題について学習していく。</p> <p>(1) 第二言語習得論に影響を及ぼす要素について理解を深めることができる。</p> <p>(2) 第二言語習得論をどのように教育現場で生かすへの理解を深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第二言語習得研究とは何か、どのような研究成果があり、どのような仮説が提案されているかを整理・分析して理解することで、英語科教育における教授法の内容について、どこまでが事実として認められているか、どのような仮説が提案され、どのような内容が認められているかを概観する。英語教育に必要な第二言語習得の基礎的内容を知ることによって理論的実践的に対応できる知識と技能を身につける。コース前半は理論、先行研究を中心に学修し、コース後半はどのように小中高の英語教育現場に行かせることができるかについて考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、第二言語習得論とは</p> <p>第2回：母語の影響</p> <p>第3回：年齢要因</p> <p>第4回：母語のフィルターとバイリンガリズム</p> <p>第5回：個人差と適性</p> <p>第6回：動機づけ</p> <p>第7回：SLAから見た効果的学習法とは</p> <p>第8回：言語ができるとはどういうことか</p> <p>第9回：言語習得の本質とは何か</p> <p>第10回：SLAから見た日本の英語教育（1）迎えている課題</p> <p>第11回：SLAから見た日本の英語教育（2）解決のための取り組み</p> <p>第12回：小学校英語教育のこれから</p> <p>第13回：中学校英語教育のこれから</p> <p>第14回：高校英語教育のこれから</p>			

第15回：まとめと復習

テキスト

「英語教師のための第二言語習得論」(白井恭弘 大修館書店出版)

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

- 定期試験 50%
- 発表・リフレクションを含む授業課題の達成 50%

授業科目名：英文法演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教科書を精読し、高校まで学んだ基礎的な英文法知識を確認し、ディスカッションやペアワークでニュアンスや言語使用領域への理解深める。</p> <p>（１）科目で学習した英文法の基礎的知識を確認し、その内容を他者に説明できる。</p> <p>（２）科目で学習した英文法の語法的応用への理解を深めることはできる。</p> <p>（３）科目で学習した英文法の適切な言語使用領域への理解を深めることはできる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英文法の本質的な特徴を理解することにより、コミュニケーションをする上での言語の果たす役割 についての理解を深めていく。高校で習った個々の文法項目への理解を確認し、コミュニケーション上必要な使い分けのニュアンスや使用領域についての理解まで発展させる。日本語と比較しながら理解を深め、英文法の基礎的な知識を確認し、他者にわかりやすく説明できることを目標とする。その結果、コミュニケーションの中で場面に合った自然で正確なアウトプットができるようになると共に、中高の英語授業担当者として、必要なメタ言語知識を育成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、コース概要の説明</p> <p>第 2 回：現在形と過去形の形式と用法</p> <p>第 3 回：現在完了形と過去形の形式と用法</p> <p>第 4 回：未来形の形式と用法</p> <p>第 5 回：受動態の形式と用法</p> <p>第 6 回：間接話法の形式と用法</p> <p>第 7 回：動名詞と不定詞の違いと用法</p> <p>第 8 回：理解確認と解説</p> <p>第 9 回：冠詞と名詞の形式と用法の形式と用法</p> <p>第 10 回：代名詞と限定詞の形式と用法</p> <p>第 11 回：関係詞節の形式と用法</p> <p>第 12 回：形容詞と副詞の形式と用法</p>			

第13回：接続詞と前置詞の形式と用法

第14回：前置詞の形式、意味、用法

第15回：句動詞の形式と用法

テキスト

「Grammar in Use Intermediate」 (Murphy, R Cambridge出版)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- オンライン復習 30% (到達目標1)
- 授業内の発表 30% (到達目標1)
- 中間テスト 20% (到達目標1, 2, 3)
- 定期試験 20% (到達目標1, 2, 3)

授業科目名： 英語学課題研究 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村里泰昭 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 (1)英語学に関わる高度な知識の習得を目指す。 (2)英語教育と英語学との接点を適切に理解した上で、英語学の知見を英語教育実践へ応用する方略を探求できる。			
授業の概要 英語教育における語彙・文法と英語学との関わりについての討議・演習を中心に進めていく。 教育実践への応用を前提とした英語学論文及び学術図書の批判的読解の方法も指導する。			
授業計画 第1回：英語学とは何か 第2回：英語学の諸理論 第3回：英語学の研究手法 第4回：英語教育の中の英語学 1（先行研究文献の読み方） 第5回：英語教育の中の英語学 2（先行研究が示唆するもの） 第6回：英語教育の中の英語学 3（実践への応用と研究の限界とはなにか） 第7回：英語教育実践への応用 1（英語学データの種類） 第8回：英語教育実践への応用 2（英語学データ収集と分析） 第9回：語彙・文法 1（研究成果に基づいた語彙・文法の取り扱いへの具体的な提案） 第10回：語彙・文法 2（その改善案の実現可能性の検証） 第11回：英語教育現場と英語学 第12回：英語教師が持つべき思考・認知と言語との関係について 第13回：英語学における引用（筆者の意見・解釈と他者の意見・解釈を区別する手法） 第14回：理論と実践の往還を可能にする英語学の貢献とは 第15回：英語教師に必要な英語学の専門知識について 定期試験			
テキスト ハンドアウト			
参考書・参考資料等 適宜指示する。			

学生に対する評価 討議・演習への参加・貢献度（20%）、レポート課題への取り組み等（80%）を基に総合的に評価する。

授業科目名： 英語文学概論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉村 圭
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 多用な英語文学作品に触れながら、そこで使用されている英語表現について理解し、その作品が書かれた国や地域の文化について理解を深める。			
授業の概要 この授業では、『不思議の国のアリス』『ナルニア国物語』『ハリー・ポッター』といった、有名なイギリスの児童文学作品の読解を行う。そして作品鑑賞を通し、文学作品の多様な批評方法について講義を行う。授業では映像化作品等を用いおおまかなストーリーを確認し、ポイントとなる箇所の原文を精読する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：英語文学作品で用いられる表現の面白さ 第3回：Lewis Carrollについて 第4回：Alice's Adventures in Wonderland：だじゃれの翻訳 第5回：Alice's Adventures in Wonderland：同音異義語の翻訳 第6回：Alice's Adventures in Wonderland：文法の相違による困難さ 第7回：作品に反映された文化的背景（キリスト教聖書の影響） 第8回：The Chronicle of Narnia：終末世界としてのナルニア 第9回：The Chronicle of Narnia：救済の預言と救世主の到来 第10回：The Chronicle of Narnia：死と復活の描かれ方 第11回：作品に反映された社会問題 第12回：J. K. Rowlingについて 第13回：Harry Potter：ジェンダーから作品を読み解く 第14回：Harry Potter：人種・階級差別を読み解く 第15回：授業総括 定期試験なし			
テキスト			

テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

- 小林真大. 2020. 『文学のトリセツ：「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.
中村邦生他. 1994. 『たのしく読めるイギリス文学：作品ガイド150』 ミネルヴァ書房.
神山妙子. 1989. 『はじめて学ぶイギリス文学史』 ミネルヴァ書房.
川端有子他. 2015. 『映画になった児童文学』 玉川大学出版部.
日本イギリス児童文学学会編. 2001. 『英米児童文学ガイド：作品と理論』 研究社.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、最終課題・プレゼン50%
ただし、3分の2以上出席しなければ評価を不可とする

授業科目名： 英語文学演習 I 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN／吉村 圭
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 異文化の文学先品に触れることで異文化の知識を修得し、文化的素養を身に付ける。また文化の違いを認識し、それらの価値を認めることで他者の立場で物事を考察する。			
授業の概要 この講義では、英語圏の文学作品について、同一の作品であっても多様な角度から異なる読み方ができることを学ぶ。また講義を通して学んだ観点をもとに、学生自身が主体的に作品を精読し、先行研究を踏まえながら作品を分析する。最終課題としてその成果はプレゼン等の形でアウトプットする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：作品鑑賞 第3回：著者と時代背景について 第4回：作品の文化的背景 第5回：作品に用いられる文学的な英語表現とその読みについて 第6回：登場人物に関する考察 第7回：登場人物に関する従来の研究における議論 第8回：物語に着目した議論 第9回：物語の構造に関する従来の研究における議論 第10回：派生作品や映像化作品との比較 第11回：アダプテーション作品に関する従来の研究における議論 第12回：課題作成：使用作品の選定、精読 第13回：課題作成：先行研究を用いた情報収集 第14回：課題作成：情報整理、最終課題の作成 第15回：最終課題に関するプレゼン 定期試験なし			
テキスト			

テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ：「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.

中村邦生他. 1994. 『たのしく読めるイギリス文学：作品ガイド150』 ミネルヴァ書房.

神山妙子. 1989. 『はじめて学ぶイギリス文学史』 ミネルヴァ書房.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、最終レポート50%

ただし、出席回数が全体の3分の2に満たない場合は不可とする。

授業科目名： 英語文学演習Ⅱ 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN／吉村 圭 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 このクラスの目標は、1)アメリカ文学やイギリス文学の選りすぐりの作品を分析し、鑑賞する能力を養うこと、2)英語の読解力とライティング力を向上させることです。			
授業の概要 私たちは、1) テキストの言語と文字通りの意味を理解すること、2) 文字通りの意味を超えたより深い理解を養うこと、2) 作品のテーマ、構造、スタイルを理解することを目指します。学生はグループディスカッションに積極的に参加することが求められます。			
授業計画 第1回：クラスの紹介、ポリシー・期待事項開示。「文学とは何か」についてクラスで議論 第2回：文学と第1著者の紹介 第3回：第1話の紹介 第4回：第1話のグループディスカッション 第5回：第1話の議論を終える 第6回：第2著者とストーリーの紹介 第7回：第2話のグループディスカッション 第8回：物語と作者のレビュー、中間試験 第9回：第3著者とストーリーの紹介 第10回：第3話のグループディスカッション 第11回：第4話の紹介 第12回：第4話のグループディスカッション 第13回：第3話と第4話の作者のレビュー 第14回：学期中に取り上げたすべての作家と物語についての議論 第15回：すべての読書、著者、テーマ、その他の文学用語についての最終的な議論 定期試験			
テキスト <i>20th Century American Short Stories, Volume 1.</i> Jean McConochie. ISBN 978-0-8384-4850-2			
参考書・参考資料等 文学用語、歴史的背景に関するハンドアウト			

学生に対する評価 授業への積極的な参加（授業準備を含む） 30%、中間試験30%、期末試験40%

授業科目名： 英語文学講読 I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉村 圭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 異文化の文学先品に触れることで異文化の知識を修得し、文化的素養を身に付ける。また文化の違いを認識し、それらの価値を認めることで他者の立場で物事を考察する。			
授業の概要 この授業では、1920年代にイギリスの小説家A. A. ミルンが著したWinnie-the-Pooh及びThe House at the Pooh Cornerを用い、多様な文学批評の方法について講義を行う。また、Milneによる原文の読解はもちろんであるが、ディズニーによって生み出されたアニメーション作品等も重要なテキストとして、授業の題材として扱う。各回資料を配布するため教科書は用いないが、対象となる2冊の小説（Winnie-the-Pooh、The House at the Pooh Corner 講談社英語文庫等）は各自で購入し、あらかじめ目を通しておくことが望ましい。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、作家A. A. ミルンについて 第2回：伝記的アプローチ：ミルンの平和思想 第3回：アダプテーション批評①：ディズニー映画の背景 第4回：アダプテーション批評②：キャラクター比較 第5回：アダプテーション批評③：行動の比較 第6回：アダプテーション批評④：ミルンの思想との比較 第7回：フェミニズム批評 ①：「プー」に見る母親たち 第8回：フェミニズム批評 ②：唯一の女性キャラクターカンガ 第9回：フェミニズム批評 ③：ディズニー映画に描かれた女性像の変遷 第10回：キリスト教聖書の影響①：100エーカーの森の救世主は誰か 第11回：キリスト教聖書の影響①：「プー」における楽園とその喪失 第12回：語り手の問題：物語を語るのは誰？ 第13回：ポストコロニアル批評：「ヨーロッパならざるもの」はどう描かれるのか 第14回：現代における「プー」：実写化映画『プーと大人になった僕』の創造的価値 第15回：総括			
テキスト テキストは使用しない。毎回資料を配布する。			

参考書・参考資料等

A. A. Milne. 1997. 『クマのプーさん—Winnie - the - Pooh』 講談社英語文庫.

A. A. Milne. 1998. 『プー横丁にたった家—The house at Pooh Corner』 講談社英語文庫.

アン・スウェイト. 2018. 『グッバイ・クリストファー・ロビン : 『クマのプーさん』の知られざる真実』 国書刊行会.

小野俊太郎. 2020. 『「クマのプーさん」の世界』 小鳥遊書房.

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ : 「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、最終レポート50%

ただし、出席回数が全体の3分の2に満たない場合は不可とする。

授業科目名： 英語文学講読Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉村 圭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 異文化の文学先品に触れることで異文化の知識を修得し、文化的素養を身に付ける。また文化の違いを認識し、それらの価値を認めることで他者の立場で物事を考察する。			
授業の概要 本講義では、SwiftのGulliver's Travels、DickensのChristmas Carolといった英文学を代表する作家の作品を鑑賞する。その際には、作家の伝記的背景や、宗教的な影響などを探りながら、重要な箇所の原文読解を行う。授業終盤では受講者自身が自ら読解する作品を選定し、その読解箇所に関する講義を行ってもらう。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：イギリス小説誕生の背景 第2回： Gulliver's Travels：Swiftのジャーナリスト精神 第3回： Gulliver's Travels：卑小化された小人の国「イングランド王国」 第4回： Gulliver's Travels：巨人が嗤う「イングランド王国」 第5回： Gulliver's Travels：陰謀の国「イングランド王国」 第6回： Gulliver's Travels：「馬の国」を介した人間批判 第7回： A Christmas Carol：作家ディケンズと貧困 第8回： A Christmas Carol：作品に見るキリスト教性 第9回： A Christmas Carol：スクルージの死と復活 第10回： A Christmas Carol：アダプテーション作品の比較 第11回： プレゼン準備：作品の選定 第12回： プレゼン準備：先行研究の分析 第13回： プレゼン準備：読解のポイントと読解箇所の選定 第14回： プレゼン準備：パワーポイントの作成 第15回： プレゼン			
テキスト テキストは使用しない。毎回資料を配布する。			
参考書・参考資料等 中村邦生他. 1994. 『たのしく読めるイギリス文学：作品ガイド150』 ミネルヴァ書房.			

神山妙子. 1989. 『はじめて学ぶイギリス文学史』 ミネルヴァ書房.

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ：「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.

塩谷清人. 2016. 『ジョナサン・スウィフトの生涯』 彩流社.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート40%、課題・プレゼン60%

なお、3分の2以上出席しなければ評価を不可とする

授業科目名： 英語文学特論 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉村 圭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 英語文学作品について多様な観点から深く学び、そこで使用されている英語表現について理解し、その作品が書かれた国や地域の文化についてさらに理解を深める。			
授業の概要 本講義では、Peter and Wendy (1911) の読解を通して、フェミニズムやポストコロニアリズムといった多様な文学作品へのアプローチ方法を講義する。その際には、Barrieの英文学作品と、後年ディズニーによって映像化されたアニメーション (1952) 及び最新の映像作品 (2023) の比較を通し、批評理論の理解をさらに深める。授業後半では本講義で身に付けた内容をもとに、Harry Potterシリーズを題材とした英語文学講読の教材作成を行ってもらう。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：作家James Mathew Barrieについて 第2回：フェミニズム：ウエンディの両面性 第3回：フェミニズム：家庭の天使・新しい女としてのウエンディ 第4回：フェミニズム：「お母さん」というジェンダーロール 第5回：フェミニズム：男たちを戦いへといざなう女神 第6回：ポストコロニアル：野蛮に表象されるインディアン 第7回：ポストコロニアル：物言わぬ他者たち 第8回：アダプテーション：Peter Pan (1952) に見る女性差別・人種差別 第9回：アダプテーション：Peter Pan and Wendy (2023) に見る差別のアダプテーション 第10回：アダプテーション：Peter Pan and Wendy (2023) の創造的価値 第11回：教材作成：作品の精読と読解の観点の決定 第12回：教材作成：先行研究の収集 第13回：教材作成：読解のポイントとなる箇所抽出 第14回：教材作成：プレゼン準備 第15回：発表&総括			
テキスト テキストは使用しない。ただし、講義開講後に課題として決定した作品を購入してもらうことになるため、その点は了解のうえ受講すること。			

参考書・参考資料等

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ：「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.

川端有子他. 2015. 『映画になった児童文学』 玉川大学出版部.

日本イギリス児童文学学会編. 2001. 『英米児童文学ガイド：作品と理論』 研究社.

ジャッキー ヴォルシュレガー. 1997. 『不思議の国をつくる—キャロル、リア、バリー、グレアム、ミルンの作品と生涯』 河出書房新社.

アンドリュー・バーキン. 1991. 『ロスト・ボーイズ：J・M・バリとピーター・パン誕生の物語』 新書館.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、レポート・プレゼン50%

なお、3分の2以上出席しなければ評価を不可とする

授業科目名： 英米文学課題研究 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： OSHIMA KAREN 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 英語による文学作品を解説、分析し、批評方法を確立する。それによって、現代社会を分析し批評できるような能力を養うことができる。そしてそのような英語文学作品の理解を英語教育に活かす方法を考えることができる。			
授業の概要 各自の課題を設定し、教員も含めてお互いに討論しながら文学作品を読み進めていく。関連する英語論文を読み、形式に慣れるようにする。ほぼ毎回レジメを使つての発表・討論が中心となる。			
授業計画 第1回：ガイダンス（ガイダンスおよび授業の進め方） 第2回：英語文学の歴史概説 第3回：韻文と散文 第4回：小説の誕生 第5回：登場人物の分析（家族） 第6回：登場人物の分析（コミュニティー） 第7回：時代背景の分析（平時） 第8回：時代背景の分析（戦時） 第9回：思想の分析 第10回：文化の分析 第11回：英語教育と文学（登場人物） 第12回：英語教育と文学（時代背景） 第13回：英語教育と文学（思想） 第14回：英語教育と文学（文化） 第15回：この授業のまとめ 定期試験			
テキスト ハンドアウト			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 発表（40%）とレポート（60%）を中心にして評価する。			

授業科目名： 英語コミュニケーション論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 効果的なコミュニケーションの在り方に関して学び、様々な人の意見を聞くことによって、自らにあったコミュニケーション活動・能力を探し出すというのがこの授業の開講意図です。 (1) 英語によるコミュニケーションについて批判的思考ができる。 (2) 英語を含む言語をさまざまな学問の方向から考えることができる			
授業の概要 英語によるコミュニケーションは英語を母語を使うものとのコミュニケーションと限らず、現在においてはアカデミア、医療、ビジネス等の「共通語の英語」として使われています。国境を越えたコミュニケーションでも、たとえサブカルチャー内のコミュニケーションでも、広い意味での文化と文化の間のコミュニケーションをどう図るかも効果的な英語によるコミュニケーションの大事な要素の一つです。その手助けとして、コミュニケーションの取り方の背景にある心理学、社会心理学、言語学、人類学などの知識と理解を深め、より効果的な英語コミュニケーションにつなげていきたいです。この科目ではこういった背景について英語の文章の解読から学び、ディスカッションからその理解を深め、学生自身の考えを作文で整理する流れになります。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、コース概要の説明 第2回：現代社会における異文化間コミュニケーション：世界でどこでどのように共通語として英語がしようされているかについて知る。 第3回：異文化間コミュニケーションのための英語： World Englishesと明瞭性について理解する。 第4回：人間のコミュニケーションの重要な特徴：コミュニケーション理論に基づいた英語コミュニケーションについて知り、自身の英語についての考えを文にまとめる。 第5回：「文化」という概念：文化人類学の基礎を知り、世界の中の日本文化についての考えを文にまとめる。 第6回：言語と思考：Sapir-Whorf仮説を基に文化と言語の深い関係について知り、その観点から日本語と英語の違いについての考えを文にまとめる。			

- 第7回：コミュニケーション・スタイル：high contextとlow context文化の特徴について知り、その違いについてディスカッションに繋げる。
- 第8回：人間の心理とコミュニケーション：コミュニケーションにおける「自立を保ちたい」と「承認してもらいたい」気持ちの兼ね合いについてしり、異文化コミュニケーションにおいてどのように影響するかを考え、その考えについてディスカッションに繋げる。
- 第9回：文化を越えた発話行為：SATに基づくコミュニケーション論についてしり、speech actが言語をシフトしたときどのように変化するかを考え、その考えについてディスカッションに繋げる。
- 第10回：ステレオタイプと異文化間コミュニケーション：CLT理論に基づくステレオタイプの考え方を知り、ディスカッションして、考えを文書化する。
- 第11回：文化的適応と異文化間コミュニケーション：聞き手に応じてコミュニケーションの工夫を考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
- 第12回：高等教育におけるコミュニケーション：これまでの理論、自己分析を用いて様々な国の教育現場におけるコミュニケーションを考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
- 第13回：留学と異文化適応：これまでの理論、自己分析を用いて留学先での生活とコミュニケーションを考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
- 第14回：未来のための異文化能力：これまで学習した理論、行なった自己分析を用いてこれから教員として必要な英語コミュニケーション能力を考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
- 第15回：最終復習と振り返り

定期試験

テキスト

「Intercultural Communication for English Language Learners in Japan」 (McConachy, T et al Nan'Un-Do出版)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- (1) 発表、授業参加度 20%
- (2) 定期試験 50%
- (3) 宿題 30%

授業科目名： 英語アカデミックライ ティング 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN/MOXON JONATH AN PETER 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 英語の小論文や卒業論文を作成することができるようになるための、基本的な知識と技能を修得し、応用できるようになる。</p> <p>(2) 論文構成の基礎として、アカデミックスキルズを確認し、アカデミックライティングの準備から完成までを理解し、英語論文着手ができるようになる。</p> <p>(3) アカデミックライティングに適切な言い回しと表現を理解し、文書作成に応用できるようになる。</p>			
授業の概要			
英語でアカデミックな文章を作成する際の、情報収集、情報整理、構成の方法、英文構成、パラグラフライティング、アウトライン、文章のまとめまでを演習形式で進める。また、口語的な表現や言い回しを超えたアカデミックな文章で使われる語彙や表現を学修します。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、コース概要の説明			
第2回：段落構造を考える			
第3回：段落構造を意識した実践			
第4回：記述式段落の特徴を考える。			
第5回：記述式段落の特徴をを意識した実践			
第6回：データ、事例に基づいた主張の展開を考える			
第7回：データ、事例に基づいた主張の展開を意識した実践			
第8回：課題の指導：Writing Assignment 1			
第9回：一貫性を考える。			
第10回：一貫性を意識した実践			
第11回：エッセイの構造を考える			
第12回：プロセスライティング			
第13回：因果関係を明確にするライティング			
第14回：効果的に意見を述べる			
第15回：課題の指導：Writing Assignment 2			

定期試験
テキスト 「Longman Academic Writing Series: 3 Paragraphs to Essays」 (Oshima, Alice & Hogue, Ann. Pearson出版)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 <ul style="list-style-type: none">▪ Writing Assignment 1: 20%▪ Writing Assignment 2: 30%▪ オンライン学習: 20%▪ 授業参加度: 10%

授業科目名： 英会話 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN、島谷 浩 担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 1) 会話力を向上させ、語彙を増やす。2) 言語の使用における文化の役割を認識する。3) 英語を話すことに自信をつけ、他国の英語話者と交流できるようにする。			
授業の概要 学生はペアワークやグループワークに参加し、日常の会話や議論でよく使われる慣用表現の語彙と知識を広げる。また、さまざまなトピックについて理由を添えて意見を述べる能力や、イントネーション・ジェスチャーを適切に使用してより明確なコミュニケーションを促進する能力も向上させる。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 1 My interest 第3回：Unit 2 Descriptions 第4回：Unit 3 Rain or shine 第5回：Unit 4 Life at home 第6回：Unit 5 Health 第7回：単元の復習、中間試験の説明・練習 第8回：中間試験、試験内容の解説 第9回：Unit 6 What's on TV? 第10回：Unit 7 Shopping 第11回：Unit 8 Fun in the city 第12回：Unit 9 People 第13回：Unit 10 In a restaurant 第14回：対象ユニットすべての復習 第15回：期末試験の説明・練習 定期試験			
テキスト <i>Four Corners, Level 2</i> . Jack C. Richards, David Bohlke. Cambridge, 2019. ISBN 97810092863			

参考書・参考資料等	ハンドアウト
学生に対する評価	授業への積極的な参加30%、中間試験30%、期末試験40%

授業科目名：英語オーラルコミュニケーションⅠ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>リーディング、リスニング、語彙、クリティカル・シンキングの分野において、アカデミックな英語の口頭表現力を強化すること。</p> <p>学生は以下のことができるようになります：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アカデミックな語彙を増やす。 (2) 関連するアカデミックなトピックに関するリスニング力を養う。 (3) アカデミックな言語を口頭で使う際の流暢さと自信を身につける。 (4) 英語での対人コミュニケーション能力をさらに向上させる。 			
<p>授業の概要</p> <p>アカデミックな場面やその他の状況における口頭コミュニケーション能力の向上に特に重点を置きながら、一般的なアカデミック・リテラシーとコミュニケーション能力の向上を目的とした実践的な英語の授業です。</p> <p>学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うためのリーディングおよびリスニング練習、ペアや個人での口頭コミュニケーション活動、そしてクラス内プレゼンテーションが含まれます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション</p> <p>第2回：ユニット1A：変化をもたらす</p> <p>第3回：ユニット1B：影響を与える</p> <p>第4回：ユニット2A：身の回りのトレンド</p> <p>第5回：ユニット2B：トレンドを見極める</p> <p>第6回：ユニット3A：健康を大切にする</p> <p>第7回：ユニット3B：アルツハイマー病への対応策</p> <p>第8回：プレゼンテーション1</p> <p>第9回：理解確認と解説</p> <p>第10回：ユニット4A：テクノロジーとデザイン</p>			

第1 1回：ユニット4B：大規模なウェブサイトデザイン

第1 2回：ユニット5A：地域発展のための取り組み

第1 3回：ユニット5B：ベアフット・カレッジ

第1 4回：プレゼンテーション2

第1 5回：Consolidation & Final Test

総まとめと期末確認

テキスト

「Keynote 3」 (Dummet, P. et al. National Geographic Learning出版)

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

- 宿題：20%
- (目標 (1)、(2))
- 中間確認：20%
- (目標 (1)、(2))
- プレゼンテーション1&2：30%
- (目標 (3)、(4))
- 期末試験：30%
- (目標 (1)、(2))

授業科目名：英語オーラルコミュニケーションⅡ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>リーディング、リスニング、語彙、クリティカル・シンキングの分野において、アカデミックな英語の口頭表現力を強化すること。</p> <p>学生は以下のことができるようになります：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アカデミックな語彙を増やす。 (2) 関連するアカデミックなトピックに関するリスニング力を養う。 (3) アカデミックな言語を口頭で使う際の流暢さと自信を身につける。 (4) 英語での対人コミュニケーション能力をさらに向上させる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」での学習を基礎とし、アカデミックな場面における口頭コミュニケーション能力の向上に特に重点を置きながら、アカデミック・リテラシーとコミュニケーション能力の全般的な向上を目指す実践的な英語の授業です。</p> <p>学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うためのリーディングおよびリスニング練習、流暢さを高めるためのクラス内プレゼンテーションやグループワークが含まれます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション</p> <p>第2回：ユニット6A：良好なコミュニケーション</p> <p>第3回：ユニット6B：デジタル時代のコミュニケーション</p> <p>第4回：ユニット7A：アイデンティティ</p> <p>第5回：ユニット7B：グローバルな移住</p> <p>第6回：ユニット8A：日々の通勤</p> <p>第7回：ユニット8B：交通の未来</p> <p>第8回：プレゼンテーション1</p> <p>第9回：理解確認と解説</p> <p>第10回：ユニット9A：言語の再生</p> <p>第11回：ユニット9B：言語の変化</p>			

第12回：ユニット10A：感情を理解する

第13回：ユニット10B：テクノロジーにおける感情

第14回：プレゼンテーション2

第15回：Consolidation & Final Test総まとめと最終確認

テキスト

「Keynote 3」 (Dummet, P. et al. National Geographic Learning出版)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- 宿題：20%
- (目標 (1)、(2))
- 中間確認：20%
- (目標 (1)、(2))
- プレゼンテーション1&2：30%
- (目標 (3)、(4))
- 期末試験：30%
- (目標 (1)、(2))

授業科目名：英語アカ デミックスピーキング I 【独自科目（佐 大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な専門内容を学術的に述べ、質疑応答に対応する力を育成する。 (1) 基礎的なプレゼン英語を発信することができる。 (2) 基礎的なプレゼン英語を理解することができる。 (3) 簡単な内容をまとめプレゼンすることができる。 (4) 簡単なプレゼンを聞き、その内容に対して質問ができる。			
授業の概要 アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、これらをするための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポスティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に教育学関連の内容のプレゼンで実践する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、コース概要の説明 第2回：導入編：伝えるべき情報とは？ 第3回：導入編：実践練習・フィードバック 第4回：良い印象を与える：気を付けるべきこと 第5回：良い印象を与える：実践練習・フィードバック 第6回：要点を伝える：各種類のプレゼンを考える 第7回：要点を伝える：プレゼンの構造とサインポスティング 第8回：視覚的に伝える情報を伝える：資格情報の特徴と利用方法 第9回：視覚的に伝える情報を伝える：グラフやデータを説明する 第10回：視覚的に伝える情報を伝える：スライド言語を口頭言語の工夫 第11回：理解されるための工夫：明瞭性を高める工夫ーイントネーション編 第12回：理解されるための工夫：明瞭性を高める工夫ーストレス編 第13回：メッセージを締めくくる：どの情報を伝えるか			

第14回：メッセージを締めくくる：どの言語を利用して伝えるか

第15回：質問への対応

テキスト

「English Presentations Today」(Pond, C Nan'Un-Do出版)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- 1 プレゼンテーション 40% : 到達目標の(1)(2)(3)
- 2 表現クイズ 30% : 到達目標の(1)(2)
- 3 定期試験 (exam) 30% : 到達目標の(3)(4)

授業科目名：英語アカ デミックスピーキング II 【独自科目(佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英 語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 様々な分野についての英語表現を学び、これらについての自分の考えをまとめ発表する (1) 基礎的なプレゼン英語を発信することができる。 (2) 基礎的なプレゼン英語を理解することができる。 (3) 簡単な内容をまとめ英語でプレゼンを作成することができる。 (4) 簡単なプレゼンを聞き、その内容に対して質問ができる。			
授業の概要 アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、アカデミックスピーキングIで学んだ基礎的な英語プレゼンテーションスキルを発展させ、日本の現代社会に関連する「文化」、「食」、「社会」、「言語」などの様々な分野のプレゼンのための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポスティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に内容のプレゼンで実践する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、コース概要の説明 第2回：マンガのキャラクターの目から学ぶこと 第3回：日本の儀式と神々への供物 第4回：日本のアニメーション 第5回：大衆小説と変化する読書のかたち 第6回：和食のグローバル化 第7回：人間と動物の関係の発展 第8回：評価対象プレゼンテーション 第9回：日本における芸能界の変遷 第10回：食におけるポップカルチャー 第11回：猫と日本文化への強い影響			

第12回：言語と日本のメディア

第13回：人権と日本文化

第14回：カワイイ文化

第15回：評価対象プレゼンテーション

テキスト

「Japanese Popular Culture in English - Discussions and Critical Thinking」 (Sheridan, R et al. Nan'Un·Do出版)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- 1 プレゼンテーション 50% : 到達目標の(1) (2) (3)
- 2 表現クイズ 20% : 到達目標の(1) (2)
- 3 定期試験 (exam) 30% : 到達目標の(3) (4)

授業科目名： 異文化理解 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化と自分自身の文化に対する理解と尊敬を育む。 ・自分の文化で標準とされていることが、必ずしも他の文化でも標準とされているわけではないことを認識する。 ・言語を学ぶときに文化の重要性を理解する。 ・コミュニケーションは言葉だけでなく、身振り、姿勢、表情、沈黙などの非言語的手段を通じても行われることを認識する。 			
授業の概要 文化、言語的および非言語的コミュニケーション、価値観の多様性、認識の違いについて探求する。			
授業計画 第1回：イントロダクション（文化とコミュニケーションの関係について） 第2回：トピック1 コミュニケーションとは何か？（文化がその決定要因になる仕組み） 第3回：異なる背景を持つ人々との交流による、多様性の体験的理解に役立つパラ言語について 第4回：トピック2 文化とは何か？（その文化の幅広い意味と獲得方法を探る） 第5回：文化的アイデンティティと国籍・民族・社会階級・性別等の要因が果たす役割（異文化交流による、多様性を体験的に理解することへのそれらの貢献度） 第6回：トピック3 非言語コミュニケーションについて 第7回：多様な文化を持つ人々との交流により体験的に理解できる非言語コミュニケーションの重要性と文化によるその解釈の違い 第8回：トピック1-3（コミュニケーションとは・文化とは・非言語コミュニケーション）の復習 第9回：トピック4 明確な異文化間コミュニケーションの重要性と実践 第10回：異文化間コミュニケーションの崩壊事例を体験的に学ぶ 第11回：トピック5 文化と価値観について 第12回：国別の価値観の違いがコミュニケーションスタイルに与える影響について（より良い国際関係を築くための文化交流の重要性を体験的に学ぶ） 第13回：トピック6 文化とそれを通じた認識の形成について 第14回：国別の認識の違いが文化に与える影響について（世界文化の多様性を認識することの重要			

性を体験的に学ぶ)

第15回：トピック4-6（明確なコミュニケーションとは・文化と価値観・文化と認識）の復習
定期試験

テキスト *Speaking of Intercultural Communication*. Peter Vincent. Nan'undo. ISBN
978-4-523-17804-8.

参考書・参考資料等 ハンドアウト

学生に対する評価 授業への積極的な参加30%、中間試験35%、期末試験35%

授業科目名： 英米文化事情 I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原 誠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>文化の主体（記憶）は、文化をしるしづける境界（周縁）に宿る。このことは、「しるし付け」のことをポリネシア語で「タブー」と呼ぶことから推し量ることができる。タブーこそ各テーマを差異化すると同時に、人間の各内面の個性を形づくるものだからである。文化を差異化するタブー＝境界がどこに、そしてどのように引かれているかを発見する方法の習得、それが学習の到達目標である。テーマは文化のしるしとしての境界線である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>西洋には、「ヨーロッパ」という地中海の波の周期を意味する美しい名前のほかに、秘められたもう一つの名前がある—「オクシデント（日の没する地・没落の地）」。ヨーロッパの精神は、この呪われた名（表象）を12世紀後半、極西アイルランドの北西ドニゴール州・ダーツ湖に浮かぶある小島（悪霊島）の洞窟の中に密かに封印した。以後、この島は生前の罪を贖う煉獄巡礼地とされ、今日に至っている。本授業では、ヨーロッパ文化史を周縁（極西）の地アイルランドから眺め直すことで、文化のもう一つの側面、闇の相貌に迫ってみたい。この試みは、いわば<知の冒険>にほかならないが、小島の穴の奥には知の秘宝が隠されていることを想えば、価値のある行為である。ダンテ、シェイクスピア、ラブレールもこの冒険に挑み、宝を密かに持ち帰った者たちなのである。彼らに倣い、洞窟から宝を持ち帰り、身に付けること、それが本授業の目的である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：妖精の誕生—アイルランドと侵略の歴史</p> <p>第3回：世の初めから隠されていること—タブーに宿るキリスト教の精神</p> <p>第4回：世の初めから隠されていること—タブーに宿るカトリックの精神</p> <p>第5回：煉獄の誕生</p> <p>第6回：煉獄と幽霊の誕生</p> <p>第7回：煉獄と中世都市伝説</p> <p>第8回：『ハムレット』と都市伝説—「煉獄は存在するか否か、それが問題である」</p> <p>第9回：煉獄を巡る宗教戦争—アイルランド/北アイルランド紛争の闇の奥へ</p> <p>第10回：W. B. イェイツと煉獄—アイルランドとタタラ場</p> <p>第11回：W. B. イェイツと煉獄—内なる炎</p> <p>第12回：めぐり逢う幽霊たち—モダニズムと幽霊</p> <p>第13回：めぐり逢う幽霊たち—夢幻能の中の幽霊</p> <p>第14回：オリエントの地獄巡礼—鎌倉の幽霊伝説</p> <p>第15回：総括</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>未定 ただし、毎授業でプリント配布する予定</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

参考書『周縁学』木原誠共編著 資料は毎回の授業で配布する。

学生に対する評価

定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解演習I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原誠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 授業の到達目標はヨーロッパ文化の背後にある文化・精神史・歴史的背景、その基礎的知識を身につけること。テーマはヨーロッパ文化と歩みとその行方。			
授業の概要 学生に馴染み深い現代の英米の音楽の歌詞を精読しながら、その背後にある英米を中心としたヨーロッパ文化の特質を学んでいく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：“Puff the Magic Dragon”の背景にある英米文化の特質 第3回：“I just called to say I love You”の背景にある英米文化の特質 第4回：“Dancing Queen”の背景にある北欧文化の特質 第5回：“Last Christmas”の背景にある英文化の特質 第6回：“Englishman in New York”の背後にある英米文化の特質 第7回：“Hey Jude”の背後にある英米文化の特質 第8回：“Bohemian Rhapsody”の背後にある英米文化の特質 第9回：“Let it Be”の背後にある英米文化の特質 第10回：“Alone Again”の背後にあるアイルランド文化の特質 第11回：“Danny Boy”の背後にある英米文化の特質 第12回：“Blowing in the Wind”の背後にある英米文化の特質 第13回：“Take me Home Country Road”の背後にある英米文化の特質 第14回：“Part Time Lover”の背後にある英米文化の特質 第15回：総括 定期試験			
テキスト プリント			
参考書・参考資料等 授業中に、適宜、紹介する			
学生に対する評価 定期テストと発表点との総合によって評価する。			

授業科目名： 異文化理解論I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原 誠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ 授業の到達目標は異文化理解の基礎的な理論を習得すること。テーマは他者（他文化）に映る自己（自文化）を認識する方法、合わせ鏡の方法である。なお、この合わせ鏡の方法が異文化理解の基礎的な理論ということになる。			
授業の概要 <p>魚にとってもっとも理解できないもの、おそらくそれは水であろう。同様に、自己（自文化）にとってもっとも理解できないもの、それは他者（他文化）であるまえに、自己自身であろう。自己の瞳にけっして映りえないものは自己の瞳にほかならないからである。本授業では、異文化理解の根本命題を自文化の認識—自文化を深く理解するためにこそ他文化を学ぶ—におき、その方法（基礎理論）を具体的に提示していく。その方法とは異文化という逆説の合わせ鏡に自文化を映すというものである。合わせ鏡として想定しているものは、「オリエント」＝日本文化の対極に位置する「オクシデント」＝ヨーロッパ文化である。自文化を映す鏡は対極（逆説）であればあるほどよいからである。このことは箸の文化を認識することから考えれば、理解がいくだろう。中国、韓国は箸の文化をもっている。したがって、それらの文化の鏡によって、箸の形態の違いやその使い方の違いはそこに映る。ただし、日本が箸の文化であることは、箸を使わないヨーロッパ文化の鏡のなかにはじめて映し出されるのである。そういうわけで、本授業では、ヨーロッパのなかの極西アイルランド文化を鏡として主に用いる。極東の日本にとって対極の地理的位相＝表象の対極に位置するからである。</p>			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：文化（“culture”）の語源と意味の変容 第3回：異文化理解論の方法（基礎理論）としての合わせ鏡 第4回：「オリエント」に映る「オクシデント」＝ヨーロッパ 第5回：「オクシデント」のなかの「オクシデント」＝アイルランド 第6回：アイルランド文化という鏡に映る日本文化 第7回：日本文化という鏡に映るアイルランド文化 第8回：アイルランドと周縁的思考 第9回：周縁、アイルランドに宿るヨーロッパの主体 第10回：生の逆説の鏡としての死			

第11回： 死の国=煉獄のアイランド (アイランドの死生観)

第12回： アイランドの妖精V日本の妖怪

第13回： もうひとつのアイランドの諸相=テロリズム

第14回： 南北の境界線に宿る文化の主体

第15回： 総括

定期試験

テキスト

『周縁学—九州／ヨーロッパの近代を掘る』木原誠共編著 昭和堂

参考書・参考資料等

参考書『歴史と虚構のなかの<ヨーロッパ> - 国際文化学のドラマツルギー - 』木原誠共編著 資料は毎回の授業で配布する。

学生に対する評価

定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 英米文化事情II 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原 誠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ 授業の到達目標は英語圏の文学作品を通して、その背後にある文化・精神史・歴史的背景、その深い知識を身につけること。テーマはヨーロッパ文化の深層。			
授業の概要 <p>「英米文化事情」とは広範にすぎる。そのため、本授業ではヨーロッパ文化の古層に横たわるケルト/アイルランド文化に絞って講義を行う。テーマはヨーロッパ文化固有の死生観である煉獄の概念である。とくに、煉獄の中世都市伝説が誕生した地、アイルランド・ドニゴール・ダーク湖の小島にある「聖パトリックの煉獄の穴」は注目点となるだろう。この煉獄の穴が英文学に与えた大いなる影響をW. B. イェイツのいくつかの詩、戯曲、シェイマス・ヒーニーのいくつかの詩とシェイクスピア作『ハムレット』を中心に精読していくことになるだろう。</p>			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：『ハムレット』に表れる死生観について概説 第3回：煉獄のハムレット（『ハムレット』読解1第一幕） 第4回：「煉獄は存在するのか否か、それが問題である」（『ハムレット』読解2第二幕） 第5回：「幽霊は存在するのか否か、それが問題である」（『ハムレット』読解3第三幕） 第6回：「供犠は存在するのか否か、それが問題である」（『ハムレット』読解4第四幕） 第7回：煉獄のイェイツ1（「イニシフリー湖島」を読む） 第8回：煉獄のイェイツ2（「ビザンティウム」を読む） 第9回：煉獄のイェイツ3（「彫像」を読む） 第10回：煉獄のイェイツ4（「揺れ動く」を読む） 第11回：煉獄のイェイツ5（『鷹の井戸』を読む） 第12回：煉獄のイェイツ6（『星から来た一角獣』を読む） 第13回：煉獄のヒーニー1（「掘る」を読む） 第14回：煉獄のヒーニー2（「トゥームブリッジ」を読む） 第15回：総括 定期試験			

テキスト

Hamlet, Cambridge University Press

参考書・参考資料等

参考書『周縁学』木原誠共編著 資料は毎回の授業で配布する。

学生に対する評価

定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解演習II 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原 誠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ 授業の到達目標は異文化の背後にある文化・精神史・歴史的背景、その基礎的知識を身につけること。テーマはヨーロッパの周縁としてのアイルランド文化とその行方。			
授業の概要 通常、アイルランド文化は「イギリス」内部の周縁とみなされることが多い。だが、アイルランドはイギリスとは異なる民族（ケルト）、言語（ゲール語）、精神性を有しており、そこから当然のことながら、イギリスとは全く異なる固有の文化・文学を生み出してきた。本授業では、イギリス文化との比較をとおし、このことを確認していくことで、文化のもつ固有性と普遍性について学んでいく。テキストは、主にW. B. イェイツの作品（詩・戯曲）を用いて精読を試みる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：世界文化としてのイェイツ詩-比較文学の視点から 第3回：世界文化としてのイェイツ詩-間文化学の視点から 第4回：世界文化としてのイェイツ戯曲-比較文学の視点から1 第5回：世界文化としてのイェイツ戯曲-間文化学の視点から2 第6回：ヨーロッパ文化としてのイェイツ詩 第7回：ヨーロッパ文化としてのイェイツ戯曲 第8回：イギリス文化としてのイェイツ詩 第9回：イギリス文化としてのイェイツ戯曲 第10回：アイルランド文化としてのイェイツ詩-前期の詩を読む 第11回：アイルランド文化としてのイェイツ詩-後期の詩を読む 第12回：アイルランド文化としてのイェイツの前期戯曲 第13回：アイルランド文化としてのイェイツの後期戯曲 第14回：アイルランドの詩魂とイェイツの作品 第15回：総括 定期試験			
テキスト <i>W. B. Yeats, Collected Poems, Macmillan Press</i>			
参考書・参考資料等			

参考書『周縁学』木原誠共編著 資料は毎回の授業で配布する。

学生に対する評価

定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解論II 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木原 誠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ：授業の到達目標は、文化における虚構の作用、その基礎的メカニズムを理解すること。テーマは文化の周縁としてのアジールである。			
<p>授業の概要 国家とはひとつの概念であって、本質的に実在しているわけではなく、ひとつの表象、すなわち虚構である。文化もまたそうである。だが、一度、虚構から発生した文化はしだいに実体化していく。本授業では、表象がどのようにして発生し、それが現実の歴史とていつたかの事例を日本＝オリエントからみて極西に位置するアイルランド＝オキシデントの国家成立までのプロセスとその後の歴史・文化をみていく。そのうえで、比較文化学の立場から、今度は逆にオキシデントの対極をオリエント日本の東の関所、鎌倉幕府成立のプロセスを文化・文学＝虚構の視点からみていく。そのことで、虚構の力が現在にまでおよんでいることが分かるだろう。その際の注目点は、アジールとしての鎌倉・東慶寺である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：歴史（事実）と文学（虚構）の関係性</p> <p>第2回：表象とは何か。</p> <p>第3回：表象としてのオリエントとオキシデント</p> <p>第4回：アイルランド独立蜂起の背後にある虚構作用</p> <p>第5回：パトリック・ピアスの死の意味について</p> <p>第6回：虚構の戦いーイエイツとピアス</p> <p>第7回：オリエントのなかのオリエント、鎌倉</p> <p>第8回：アジールとしての鎌倉</p> <p>第9回：アジールとしての東慶寺</p> <p>第10回：東慶寺が近代に与えた影響</p> <p>第11回：東慶寺と夏目漱石</p> <p>第12回：もうひとつの鎌倉、切通しを読む</p> <p>第13回：鎌倉文化と桑田佳祐</p> <p>第14回：オキシデント/アイルランドとオリエント/鎌倉</p> <p>第15回：総括</p>			

定期試験

テキスト『ヨーロッパ文化と＜日本＞』田村栄子編著、昭和堂

参考書・参考資料等 『周縁学—九州／ヨーロッパの近代を掘る』木原誠共編著 昭和堂

学生に対する評価

定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名：中等英語 科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 島谷 浩／林 裕子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初等・中等・高等英語教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。 2. 単元構成・授業実践などの演習課題に応用できる指導実践の諸問題についての基礎知識を修得することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>各回のテーマについてテキストを中心とした文献を読み、日本の小・中・高等学校における外国語教育についての理解・考察を深めていく。また、言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては演習形式で検討していくことにより、授業指導の基礎を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、学習指導要領（小・中・高等学校）</p> <p>第2回：英語の国際化、異文化理解の指導</p> <p>第3回：学習者要因、習熟度への対応</p> <p>第4回：第二言語習得理論から見た英語教育</p> <p>第5回：文字（発音と綴り字）の指導</p> <p>第6回：語彙・表現指導</p> <p>第7回：教材研究（教科書、指導書の活用）、学習指導案作成</p> <p>第8回：聞くことの指導（オーラルイントロダクション、デジタル教材の活用）</p> <p>第9回：話すこと（発表）の指導</p> <p>第10回：話すこと（やりとり）の指導</p> <p>第11回：読むことの指導Ⅰ（教材導入、内容理解、発問計画）</p> <p>第12回：読むことの指導Ⅱ（音読、発音指導）</p> <p>第13回：書くことの指導（語順、構成、修正的フィードバック）</p> <p>第14回：技能統合型の言語活動とその指導、模擬授業Ⅰ（読むことの指導）</p> <p>第15回：模擬授業Ⅱ（書くことの指導）、まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）</p>			

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）
「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」
」（中村典生 他著 東京書籍）（2022）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年 文部科学省）

学生に対する評価

- 期末試験（50%）
- 授業課題の達成度（50%）

授業科目名： 中等英語科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡崎 伸一／林 裕子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 小・中・高等学校における外国語（英語）教育の指導実践や学習評価などの諸問題について複眼的に理解・考察を深めることができる。</p> <p>2. 単元の指導計画作成・実践を通して指導技術を高めると同時に、指導案作成や模擬授業などの演習を通して、指導実践スキルの基礎を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語の国際化、単元設計、コミュニケーション能力、4技能の統合、ICTの利活用、Team Teachingなどのテーマに関する講義と演習課題に取組み、英語の学習・指導に関する知識の向上と授業実践及び学習評価についての基礎の修得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、学習指導要領（小・中・高等学校）</p> <p>第2回：第二言語習得、単元設計、学習指導案の作成</p> <p>第3回：言語能力の測定と評価</p> <p>第4回：ICTの利活用、教材研究（指導技術の変遷、ICT利活用例の概観）</p> <p>第5回：ICTの利活用、教材研究（模擬授業）</p> <p>第6回：文法指導</p> <p>第7回：聞くことを中心とする指導（オーラルイントロダクション、デジタル教材の活用）</p> <p>第8回：話すことを中心とする指導（英語によるインタラクション、即興性のあるやり取り）</p> <p>第9回：読むことを中心とする指導（教科書本文の内容理解、発問計画）</p> <p>第10回：書くことを中心とする指導（発表・やり取りのためのライティングについて）</p> <p>第11回：技能統合型の言語活動（アプトプット活動、パフォーマンス課題）</p> <p>第12回：語彙指導</p> <p>第13回：Team Teaching</p> <p>第14回：模擬授業Ⅰ（Team Teaching 中学校編）</p> <p>第15回：模擬授業Ⅱ（Team Teaching 高校編）、まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）

「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」（中村典生 他著 東京書籍）（2022）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

学生に対する評価

- 期末試験（模擬授業や発表などのパフォーマンスを含む）（50%）
- 授業課題の達成度（50%）

授業科目名： 中等英語科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 岡崎 伸一／林 裕子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 初等・中等・高等英語教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。</p> <p>2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の指導計画作成・実践を含む演習を通して指導技術を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における英語指導についての理解・考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討していくことにより、英語指導技術の定着及び指導力の更なる向上を達成させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、学習指導要領（中・高等学校）</p> <p>第2回：第二言語習得、単元設計、指導案作成</p> <p>第3回：言語能力の測定と評価</p> <p>第4回：教材研究・ICT等の利活用（言語活動の実践、教材開発）</p> <p>第5回：教科用図書、語彙・表現指導（語彙知識の多面性、語彙の導入、理解・表現語彙の習得）</p> <p>第6回：教科用図書、語彙・表現指導語彙指導（実践演習）</p> <p>第7回：文法を中心とした指導（文法の導入、語順指導、言語活動）</p> <p>第8回：文法を中心とした指導（模擬授業）</p> <p>第9回：リーディング（音読・読解）を中心とした指導（音声指導、発問計画）</p> <p>第10回：リーディング（音読・読解）を中心とした指導（模擬授業）</p> <p>第11回：ライティングを中心とした指導（プロセスライティング指導、フィードバックの提供）</p> <p>第12回：ライティングを中心とした指導（模擬授業）</p> <p>第13回：技能統合型の言語活動、タスク型・パフォーマンス課題（ディベート、ディスカッションの指導）</p> <p>第14回：技能統合型の言語活動、タスク型・パフォーマンス課題（ディベート、ディスカッションの実践）</p> <p>第15回：技能統合型の言語活動、タスク型・パフォーマンス課題（模擬授業、まとめ）</p>			

定期試験

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）

「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」
（中村典生 他著 東京書籍）（2022）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

学生に対する評価

- 定期試験（模擬授業や発表などのパフォーマンスを含む）（50%）
- 授業課題の達成度（50%）

授業科目名：中等英語 科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 島谷 浩／林 裕子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 初等・中等・高等英語教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論や論文批評を行うことができる。 2. 単元の指導計画作成・実践を通して指導技術の更なる向上を図ると同時に、指導法の効果を検証するための外国語教育研究の基礎的知識とスキルを身につけることができる。 			
授業の概要			
各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における外国語教育について複眼的な視点から考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討し、指導力及び外国語教育研究の知識・スキルの更なる向上を達成する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、 学習指導要領（中・高等学校）			
第2回： 指導案の作成、単元設計、評価方法・内容の設定			
第3回： 第二言語習得理論			
第4回： 指導を受けた第二言語習得（指導法と効果の検証について（ディスカッション））			
第5回： 指導を受けた第二言語習得（指導法と効果の検証について（発表））			
第6回： 領域統合型の言語活動（リスニング・スピーキングを中心とする指導方法と実践例の概観）			
第7回： 領域統合型の言語活動（模擬授業）			
第8回： 領域統合型の言語活動（読解活動における発問・インタラクション）			
第9回： 領域統合型の言語活動（ライティング）			
第10回： 領域統合型の言語活動（プロセスライティング、修正的フィードバックに関する先行研究・実践例の概観）			
第11回： 領域統合型の言語活動（模擬授業）			
第12回： 小・中・高連携の外国語教育（外国語教育の動向、小中高連携の現状と課題）			
第13回： 小・中・高連携の外国語教育（単元設計、評価のあり方）			
第14回： 小・中・高連携の外国語教育（模擬授業 中学校入門期編）			
第15回： 小・中・高連携の外国語教育（模擬授業 高校入門期編、まとめ）			
定期試験			

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）

「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」
（中村典生 他著 東京書籍）（2022）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年 文部科学省）

学生に対する評価

- 期末試験（模擬授業や発表などのパフォーマンスを含む）（50%）
- 授業課題の達成度（50%）

授業科目名：英語科教育課題研究 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡崎 伸一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語科教育に関する課題を発見し、論理的思考に基づいて解決策を提案する能力を養う。 ①課題設定から分析・発表までの一連のプロセスの習得、②調査手法の適切な選択・活用、 ③データに基づいた提案力、④効果的なプレゼンテーション能力の獲得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語教育学に関わる討議・演習を通して、学生が自ら設定した課題について体系的に取り組む。前半で課題設定・調査設計の基礎を学び、中盤でデータ収集・分析を実施、後半で成果発表を行う。講義・演習・発表を組み合わせ、2回の中間発表を通じて継続的な指導を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・課題解決とは何か、問題解決手法の基礎 第2回：課題テーマの設定方法・関連資料の調査と情報検索 第3回：企画書の作成・目標設定と仮説の立案 第4回：定量的調査手法・アンケート設計とサンプリング 第5回：定性的調査手法・インタビューと観察による情報収集 第6回：データ収集方法・調査における倫理的配慮 第7回：中間発表①・企画内容の発表と相互評価 第8回：統計解析の基礎・データ分析ツールの使用方法 第9回：質的データの分析・内容分析とコーディング 第10回：調査結果の整理・図表作成と可視化技法 第11回：報告書執筆の基本・構成と引用ルール 第12回：中間発表②・取り組み進捗状況の報告と指導 第13回：成果発表準備・プレゼンテーション技法 第14回：最終発表・課題解決成果発表と質疑応答 第15回：総括・取り組みの振り返りと今後の展望</p>			
<p>テキスト</p> <p>廣森友人編著.2020.『英語教育論文執筆ガイドブック—ジャーナル掲載に向けたコツとヒント』.大修館書店</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

浦野研他. 2016. 『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』 研究社

学生に対する評価

- 毎回のディスカッション (40%)
- 文献レポート (30%)
- 課題計画書 (30%)

授業科目名： 書道史 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口 将一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道史		
授業のテーマ及び到達目標 中国・日本における書文化史の流れを把握し、書体の変遷や書風の展開について理解する。また、手書き文字文化の現代的意義について自らの考えを述べるができる。			
授業の概要 「書の歴史」について、代表的な書体の変遷と、主要な書人をとりあげてその書風や、各時代の書の捉え方、展開について論じる。さらに、我々が現在使用している文字の成り立ちや芸術性、その指導の重要性についても考える。			
授業計画 第1回：書道史について 第2回：甲骨文の発見と漢字の字源研究について 甲骨文の内容やその特徴についてみていく。また、甲骨文字以前の文字史料についても触れる。 第3回：金文について 青銅器（來盤）の発掘報告から青銅器がどのように保管され、発見されたのかを考える。また、殷から西周、春秋戦国期の金文の特徴をみていく 第4回：篆書（石鼓文、泰山刻石など）の石刻文字について 石鼓文、泰山刻石の諸拓本について検討を加える。 第5回：木簡竹簡、帛書にみる肉筆書について 金文、刻石とは異なる中国古代における肉筆資料と書体の変遷について考える。 第6回：隸書（古隸、八分、草隸）について 磨崖書、漢碑の隸書について、肉筆資料との比較しながらその美について考える。また、書体の変遷についても検討する。 第7回：王羲之の登場、草書・行書の美を探る 王羲之とそれ以前の書から、王羲之登場の意義を考える。 第8回：楷書の完成：唐代の楷書の書風について 唐代楷書の作品とその変遷についてみていく。さらに、その背景について検討する。 第9回：楷書の古典：南北朝の楷書、石碑と墓誌について 南北朝楷書の石碑と墓誌をみて、その違いについて考える。			

第10回：宋代における書風の展開

宋の書風の展開について、三大家を中心にみていく。

第11回：元から明代の書と、明末清初における長条幅の流行

元、明と明末清初の書の違いについて考える。

第12回：清代碑学派の登場とその書について

清代碑学派の書論と代表的作品についてみていく。

第13回：三筆の書、三蹟と仮名の美

日本の書の歴史について、三筆、三蹟から仮名の書についてみていく。

第14回：篆刻の歴史、文房四宝について

古璽から漢印、清から近代の印についてみていく。

第15回：現代の書とその源流

現代の書の源流について検討し、今後の書のあり方について考える。

定期試験：授業ごとに小レポートを提出すること。最終課題として、書の変遷、展開をテーマにレポートを作成する。

テキスト

プリントを配布する。授業はスライドを用いて行い、スライドはオンラインで事前に閲覧できるようにする。

参考書・参考資料等

西林昭一『中国書道文化辞典』（柳原出版）、同『書の文化史』、『中田勇次郎著作集』、『西川寧著作集』（ともに二玄社）

学生に対する評価

授業内での取り組み（20%）と小レポート（20%）、提出課題（20%）、最終課題（40%）で行う。

授業科目名： 書論・鑑賞 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口 将一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校 書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「書論、鑑賞」		
授業のテーマ及び到達目標 書論に関する基礎事項が説明でき、代表的な書論の講読を通して、自らの考えを述べることができる。書作品の鑑賞の歴史と古人の品評、論題のあとをたずね、自らの鑑賞につなげることができる。なお、取りあげる書論や鑑賞作品については、基本的には高等学校芸術科書道教科書に掲載される範囲とするが、新出土の資料や近年発表の論文、従前とは異なった書道観による書作品もとりあげる。			
授業の概要 歴代書論の理解と、制作における理論の把握についての重要性は、学習指導要領にも示されており、それらの素養を身につける授業である。代表的な書論の講読力を身につけるとともに、代表書跡に付せられた題跋等の講読を通じた書跡理解力や鑑賞力も養成する科目である。また、鑑賞については、書跡の歴史的・技法的深化を踏まえ、直観力を身につけることに繋げていく。 ＊ 高等学校芸術科書道 学習指導要領内容B 鑑賞 ・書の美の多様性と作品の特徴、書論による書の理解と鑑賞の深化をはかる。 ・日本及び中国の書の伝統と諸文化との関連をはかり、書文化の継承と創造への関心を高める。			
授業計画 第1回：はじめに、書の鑑賞 「書論・鑑賞」の授業の説明。書の鑑賞についての概論 第2回：文房四宝：鑑賞と体験 文房四宝のついての学習と鑑賞。実物の鑑賞と体験を通して、文房四宝についての理解する。 第3回：文房四宝（Ⅱ）、拓本 文房四宝のついての学習と鑑賞（Ⅱ）と拓本について学習。拓本の鑑賞と実践を行い、拓本について理解する。 第4回：王羲之と蘭亭序 双鉤填墨について、喪乱帖ほか 王羲之の代表作・蘭亭序を鑑賞し、その複製方法と言われる双鉤填墨について学習、実践する。書道の古典がどのように伝来したのか理解する。			

第5回：王羲之と蘭亭序Ⅱ 李柏尺牘ほか

王羲之に対する評価や同時代の作品について学習し、王羲之が「書聖」と呼ばれる理由を検証する。

第6回：顔真卿と祭姪文稿

顔真卿とその代表作・祭姪文稿を鑑賞し、その人と書について学習する。また顔真卿に対する評価から書と人の関係性を学ぶ。

第7回：宋の三大家：蘇軾、黄庭堅、米芾

蘇軾、黄庭堅、米芾の書と書論を鑑賞し、書のあり方の変化を学習する。

第8回：唐代の楷書① 欧陽詢と虞世南、書風の比較

第9回：唐代の楷書② 褚遂良と顔真卿

初唐の三大家と顔真卿に対する書論を鑑賞し、歴代書論の品評について学習する。課題として、歴代書論の品評法を参考に、実際に初唐の三大家の品評を行う。

第10回：北魏の楷書と碑学

碑学派の書論の展開と、その対象となった北魏の楷書を鑑賞する。

第11回：篆書、隸書の古典と清朝名家の書

篆書、隸書の古典を鑑賞し、呉昌碩の臨書と比較する。

第12回：草書の古典：非草書、十七帖

第13回：草書の古典：書譜、自叙帖

草書の古典を鑑賞し、その内容（書論）についても精読する。

第14回：日本の書：三筆と三跡、仮名

空海と最澄の手紙を読み、二人の交流、人となり、作品を鑑賞する。

第15回：現代の書表現：少字数書、漢字仮名交じりの書

現代の書を鑑賞し、実際に現代書の制作方法に基づいて実践する。

定期試験：授業ごとに小レポートを提出すること。最終課題として、書の鑑賞ガイドを作成し、公開する。

テキスト

プリントを配布する。授業はスライドを用いて行い、スライドはオンラインで事前に閲覧できるようにする。

参考書・参考資料等

『中国書論大系』、『中国法書ガイド』（ともに二玄社）

学生に対する評価

授業内での取り組み（20%）と小レポート（20%）、提出課題（20%）、最終課題（40%）で行う。

授業科目名： 書道科指導法 I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤木 香江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校 書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校学習指導要領書道の目標と内容を理解し、学習指導案の作成を通して、単元構成や模擬授業ができるようにする。			
授業の概要 書道科年間指導計画の作成や、漢字の書の「楷書と行書」の教材を使用し、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）授業実践の研究に取り組みさせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 【高等学校書道教員の資質と能力について考える】 第2回：書道教育の理論と実践【書道の授業について考える】 第3回：学習指導要領の解説 【現代の書道教育について考える①】 第4回：学習指導要領の解説 【現代の書道教育について考える②】 第5回：学習指導要領の解説 【現代の書道教育について考える③】 第6回：学習指導案の作成（書道 I 「漢字の書」楷書or行書）【年間指導計画を作成する】 第7回：学習指導案の作成（書道 I 「漢字の書」楷書or行書）【年間指導計画を作成し、発表する】 第8回：学習指導案の作成（書道 I 「漢字の書」楷書or行書）【学習指導案を作成する】 第9回：板書の書き方 【板書計画の立て方について】 第10回：学習指導案の作成（書道 I 「漢字の書」楷書or行書） 第11回：学習指導案の作成（書道 I 「漢字の書」楷書or行書） 第12回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕 模擬授業①および合評会 第13回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕 模擬授業②および合評会 第14回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕 模擬授業③および合評会 第15回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕 模擬授業④および合評会 書道科教育法 I の総括 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）			

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等 書の古典と理論 改訂版、授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価 年間指導計画の作成（5%）、指導案・教材研究の内容（20%）、
模擬授業（10%）、授業記録・レポート等（31%）、
意見交換・合評会（34%）
：学習指導案の作成と模擬授業の状況を評価の基準とする

授業科目名： 書道科指導法Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤木 香江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校学習指導要領書道の目標と内容を理解し、学習指導案の作成を通して、単元構成や模擬授業ができるようにする。			
授業の概要 「仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻・刻字」の教材を使用して、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）、授業実践法研究に取り組みさせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 【書道科教育法Ⅱの概要】 第2回：学習指導案の作成法と学習内容 「仮名の書」の学習内容、仮名の書の鑑賞と演習 第3回：学習指導案の作成法と学習内容 仮名の書の授業展開について 第4回：学習指導案の作成法と学習内容 「漢字仮名交じりの書」の学習内容、漢字仮名交じりの書の鑑賞と演習 第5回：学習指導案の作成法と学習内容 「漢字仮名交じりの書」の学習内容、漢字仮名交じりの書の授業展開について 第6回：学習指導案の作成法と学習内容 「篆刻・刻字の書」の学習内容、篆刻・刻字の書の鑑賞と演習、篆刻・刻字の書の授業展開について 第7回：教材による作品制作 作品制作（仮名・漢仮名・篆刻より選択） 第8回：教材による作品制作 作品制作（仮名・漢仮名・篆刻より選択） 第9回：教材による作品制作 作品研究発表 第10回：教材による学習指導案作成 演習：指導案・教材の作成（添削） 第11回：教材による学習指導案作成 演習：指導案・教材の作成（添削） 第12回：教材による学習指導案作成 演習：指導案・教材の作成（添削） 第13回：模擬授業の実践と研究（情報通信技術の活用を含む。） 模擬授業①および合評会 第14回：模擬授業の実践と研究（情報通信技術の活用を含む。） 模擬授業②および合評会			

第15回：模擬授業の実践と研究（情報通信技術の活用を含む。）

模擬授業③および合評会

書写書道教育の課題と今後の取り組み

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等 書の古典と理論 改訂版、授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価 作品研究（10%）、指導案・教材研究の内容（20%）、模擬授業（10%）、
授業記録・レポート等（30%）、意見交換・合評会（30%）
：学習指導案の作成と模擬授業の状況を評価の基準とする

授業科目名： 職業指導 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大塚 芳生、 田口 浩継 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・職業指導		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これまで日本において行われてきた職業指導やその理論について学び、生徒が自らの進路を適切に選択し、自己実現を図るために、教師がなすべき指導・助言の在り方や指導法を身につける。高等学校における職業指導（進路指導）を支える基礎知識や役割の理解、及びキャリア教育の意義を踏まえ、高等学校の工業教育における職業教育やキャリア教育の現状と課題について考察することで、教育現場における実践的な態度の育成に向けて取り組むことを狙いとす。また、現代の生徒が抱えている問題や学校環境・家庭環境を深く分析し、その問題点を多面的にとらえて、これからの進路指導（職業指導）の課題と望ましいあり方について深く考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>諸外国との比較を交えながら、日本の社会、経済、教育制度、産業構造の変化および学校が抱えている課題をしっかりと捉え、持続可能な開発のための教育として、高等学校における工業を学ぶ生徒への職業指導（進路指導、キャリア教育含む）のあり方や自己の適性をふまえた的確な職業選択能力の養成手法について考えを深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：職業指導のガイダンス（担当：田口 浩継） 第2回：職業指導の歴史（担当：田口 浩継） 第3回：人間の発達と職業（担当：田口 浩継） 第4回：職業指導における個別的生徒理解（担当：田口 浩継） 第5回：職業選択のための自己分析の目的・方法（担当：田口 浩継） 第6回：職業指導の組織と運営（担当：田口 浩継） 第7回：学校と家庭・地域・関係機関との連携（担当：大塚 芳生） 第8回：職業観・勤労観の育成（担当：大塚 芳生） 第9回：カウンセリング（面接）の理論（担当：大塚 芳生） 第10回：カウンセリング（面接）の方法（担当：大塚 芳生） 第11回：職業指導の現状と課題(1)貧困、ワーキングプア、フリーター（担当：大塚 芳生） 第12回：職業指導の現状と課題(2)不登校、ひきこもり、ニート（担当：大塚 芳生） 第13回：職業指導の現状と課題(3)精神疾患、発達障害、障がい者の働き方（担当：大塚 芳生）</p>			

第14回：進路指導における生徒・保護者との関わり（担当：大塚 芳生）

第15回：学習のまとめ（これからの職業指導の在り方）（担当：大塚 芳生）

定期試験

テキスト

高等学校学習指導要領解説 工業編，文部科学省

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会

参考書・参考資料等

高等学校キャリア教育の手引、文部科学省、教育出版

学生に対する評価

レポートが30%，試験が70%により成績評価を行う。レポートは，課題の把握，課題への取り組みに対する独自の手法，実効性，柔軟な思考の項目で評価する。考えを深めていくことが重要である。

授業科目名： 工業科指導法Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大塚 芳生、 田口 浩継 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 工業高校の現状と課題から、工業高等学校教育のあり方について理解し、工業高校における授業を実施できるようになる。			
授業の概要 工業高校の現状と課題、諸外国との比較などによって知識を獲得するとともに、工業高校訪問から実体験を得る。			
授業計画 第1回：ガイダンス（本講義の目的と概要説明）（担当：田口 浩継） 第2回：学校教育と教師の役割（担当：田口 浩継） 第3回：工業高校の実態（工業高校の見学）（担当：大塚 芳生） 第4回：高等学校教育の現状と課題（担当：大塚 芳生） 第5回：工業高等学校教育の課題と活性化策（担当：大塚 芳生） 第6回：わが国の工業教育の歩み（担当：大塚 芳生） 第7回：諸外国の工業教育の現状（担当：大塚 芳生） 第8回：教育実習と生徒理解（担当：田口 浩継） 第9回：工業高等学校教育の実際（施設、設備、進路指導など）（担当：大塚 芳生） 第10回：工業高等学校教育の実際（学習指導要領と教育課程編成）（担当：大塚 芳生） 第11回：工業高等学校教育の実際（学習指導法と学習評価）（担当：大塚 芳生） 第12回：学習指導案の作成と演習（担当：大塚 芳生） 第13回：工業高等学校教育の実際（開かれた学校づくりなど）（担当：大塚 芳生） 第14回：今後の工業高等学校のあり方と課題、（現場教師を囲んで）（担当：田口 浩継） 第15回：全体のまとめ（担当：田口 浩継）			
定期試験			
テキスト 教職必修 工業科・技術科教育法 教職課程研究会 実教出版 また、適宜プリントを使用する。			
参考書・参考資料等 小山田 了三著 「実践 工業科教育法」 東京電機大学 1999年			

学生に対する評価

講義中に課すレポートおよび指導案の作成、期末試験および授業への参加意欲を総合的に評価する。授業への参加意欲（30%）、レポート（30%）、試験（40%）

授業科目名： 工業科指導法Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大塚 芳生、 田口 浩継 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「工業科指導法Ⅰ」を基礎にして、より実用的な授業法（情報機器及び教材の活用を含む）、生徒指導、進路指導、教育評価について考えを深め、「工業」教師としての総合的な実践力を身につける。			
授業の概要 工業高等学校が抱える課題と解決策について学生間で討論と考察を重ね、豊かな発想と表現力およびコミュニケーション力を身に付ける。さらに、学生間で模擬授業を展開しながら教科指導上の諸問題を考察し合い、実践的能力と学生自身のプレゼンテーション技法を養う。また、常に生徒の立場になって考えを深め、生徒の学習意欲の向上と自らの指導法の改善の必要性を学ぶ。			
授業計画 第1回：工業科教育の現状（担当：田口 浩継） 第2回：熊本県の工業科教育の課題（現職高校教員による説明）（担当：田口 浩継） 第3回：工業科教育の課題と対策（担当：田口 浩継） 第4回：課外活動と工業科教育（担当：大塚 芳生） 第5回：その他の活動と工業科教育（担当：大塚 芳生） 第6回：実用的な「課題研究」の指導法と評価（担当：大塚 芳生） 第7回：工業高校における生徒指導（担当：大塚 芳生） 第8回：工業高校における進路指導（担当：田口 浩継） 第9回：職業と工業科教育（担当：大塚 芳生） 第10回：SDGsと工業科教育（担当：大塚 芳生） 第11回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【建築】（担当：田口 浩継） 第12回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【機械】（担当：大塚 芳生） 第13回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【電気】（担当：大塚 芳生） 第14回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【情報】（担当：大塚 芳生） 第15回：全体のまとめ（担当：田口 浩継） 定期試験			
テキスト			

教職必修 工業科・技術科教育法 教職課程研究会 実教出版
高等学校学習指導要領解説 工業編（平成30年5月 文部科学省）

参考書・参考資料等

小山田 了三著 「実践 工業科教育法」 東京電機大学 1999年

学生に対する評価

授業後のレポートが20%，模擬授業が30%，試験50%により成績評価を行う。レポートは，専門用語の説明ではなく，経済・産業，工業高校，工業科の教科，生徒や保護者が抱えている課題について毎回の授業で考えを深めることで，高得点につながる。模擬授業は，課題の把握，課題への取り組みに対する独自の手法，実効性，柔軟な思考の項目で評価する。

授業科目名： 生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤知己
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学・栄養学 ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」 養護に関する科目 ・解剖学・生理学		
授業のテーマ及び到達目標 養護教諭として必要な病気についての知識を学ぶ前に、正常では人体はどのように成り立ち、機能しているのかについて学ぶ事を目的とする。異常を学び理解するためには、まず正常を学ぶ必要がある。			
授業の概要 解剖学と関連づけながら、各器官系の機能と、その調節機構を講義する。各器官系は有機的に連携しながら体内の恒常性の維持に働いているので、実際の講義では、各器官系の相互関係に触れながら講義を進めて行く。そのため各項目は完全に独立したものではない。			
授業計画 第1回：内分泌系とホルモン1（ホルモンとは、ホルモンの分類・化学構造と作用機序） 第2回：内分泌系とホルモン2（全身のホルモン分泌調節機構、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン） 第3回：内分泌系とホルモン3（甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎ホルモン、性ホルモン、その他） 第4回：膵臓ホルモンによる代謝調節機構（インスリン、グルカゴン、糖尿病） 第5回：呼吸器系1（呼吸器系の機能と構造） 第6回：呼吸器系2（呼吸器系の調節機構、酸塩基平衡の調節） 第7回：消化管の構造と機能1（消化吸収、口腔、歯、咽頭、食道） 第8回：消化管の構造と機能2（胃・小腸・大腸の構造と機能） 第9回：消化管の構造と機能3（排便機能、栄養分の消化吸収機構） 第10回：肝臓・胆管系・膵臓1（肝臓の解剖と機能、肝臓によるホメオスタシスの調節機構） 第11回：肝臓・胆管系・膵臓2（肝臓・胆道系の消化吸収における役割、膵臓の外分泌系） 第12回：運動・骨格系1（筋肉の構造と機能、筋肉収縮機構、骨の構造と骨形成機構）			

第13回：運動・骨格系2（筋肉各論、骨格系各論）

第14回：感覚器系1（視覚系の構造と機能、視覚中枢）

第15回：感覚器系2（聴覚系・平衡感覚系・味覚系・嗅覚系の構造と機能）

定期試験（筆記試験）

テキスト

系統看護学講座 専門基礎系統看護学講座 専門基礎1 解剖生理学 人体の構造と機能（医学書院）

ぜんぶわかる人体解剖図（坂井建雄・橋本尚詞、成美堂出版）

参考書・参考資料等

講義のつど、重要な点をまとめたプリントを配布する。

学生に対する評価

筆記試験と授業への参加態度から総合的に評価する。

授業科目名： 生理学実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤知己、仲里仁史、 佐藤伸子 担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学・栄養学 ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」 養護に関する科目 ・解剖学・生理学		
授業のテーマ及び到達目標 養護教諭の職務に密接に関連する基本的な生理機能検査を理解し、体験することで自ら実施できるようになることを実習の目的とする。			
授業の概要 5～6人の班に別れ、授業テーマに記載した検査項目をローテーションしながら、お互いを被験者として、あるいは自らの検体を用い、実施する。実習終了後は、班ごとに実習を振り返り、考察する。それをレポートにまとめ、提出する。			
授業計画 (各回とも3人の教員が、協力して担当する。) 第1回：オリエンテーション 第2回から第13回： 以下の項目を各班ローテーションで実習する。 ① 血圧測定（安静時と運動負荷）、②血圧測定（起立試験）、③心電図、④検尿、⑤聴力検査、視力検査、口腔内検査、⑥皮膚感覚、重量感覚、と骨学実習 第14回：実習のふりかえりと考察（反省を含む） 第15回：実習のまとめ（追加説明を含む）、実習室・使用器具の片付け・清掃 定期試験（筆記試験）			
テキスト 「生理学実習書」を配布する。 浅野伍朗 監修 「からだのしくみ事典」成美堂出版			
参考書・参考資料等 坂井建雄・岡田隆夫 著 系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院			

金井正光 編著 臨床検査学提要 金原出版

学生に対する評価

筆記試験と提出されたレポートから総合的に評価する。

授業科目名：栄養学（食品学を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学・栄養学 ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」 養護に関する科目 ・栄養学（食品学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：健康な体を維持するために必要な栄養素とその代謝について、また栄養素を含む食品について基礎的な事項を理解する。			
授業の概要：食品学、栄養学の基礎的な内容を説明する。食品成分の化学構造、人体内での変化と作用を概説する。食品の種類、機能性や安全性についても説明する。			
授業計画 第1回：食品の成分と健康 身体に必要な食品成分について 第2回：炭水化物とは 炭水化物の種類、化学構造、含まれる食品について 第3回：炭水化物の代謝Ⅰ 糖質の消化、吸収 第4回：炭水化物の代謝Ⅱ 身体部位別の代謝について 第5回：脂質とは何か 脂質の種類、化学構造、含まれる食品について 第6回：脂質の代謝Ⅰ 脂質の消化、吸収 第7回：脂質の代謝Ⅱ 脂質の生合成について 第8回：たんぱく質とは たんぱく質の種類、化学構造、含まれる食品 第9回：たんぱく質の代謝 たんぱく質の代謝について 第10回：ビタミンの種類とその機能 ビタミンの種類、化学構造、含まれる食品および機能 第11回：ミネラルの種類とその代謝 ミネラルの種類、化学構造、含まれる食品および代謝 第12回：機能性成分と消費者の食嗜好 機能性成分の種類と日本における取扱 第13回：食品の安全性 有害な食品成分と日本におけるリスクマネジメント 第14回：ライフステージ別の食生活 ライフステージ別の食事内容について 第15回：学校給食と食教育 / まとめ 学校給食の概要、学童期・思春期の栄養教育 / まとめ 定期試験			
テキスト 栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学、 田地陽一編、羊土社			
参考書・参考資料等			

わかりやすい食品機能栄養学 吉田勉 監修 三共出版

学生に対する評価

事前学習・事後学習など (20%)、レポート、ならびに試験 (80%)

授業科目名：衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学 養護に関する科目 ・衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：ヒトの健康に影響を及ぼす要因としての自然環境や社会的環境について理解し、環境衛生について説明できるようになる。			
授業の概要：空気、水、環境汚染などの自然環境の概要と現状、健康への影響を学習する。また労働に関する内容を中心に産業の健康への影響について学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 導入-シラバスの説明</p> <p>第2回：環境保健について 衛生学・公衆衛生学・公衆衛生行政について</p> <p>第3回：環境衛生科学について 環境の定義・環境保健・環境と適応</p> <p>第4回：物理的環境因子-1 温熱環境と圧力環境について</p> <p>第5回：物理的環境因子-2 磁場・騒音の健康への影響</p> <p>第6回：物理的環境因子-3 放射線の種類と特徴・粒子線</p> <p>第7回：物理的環境因子-4 放射線の環境への影響</p> <p>第8回：化学的因子-1 毒性・量反応関係</p> <p>第9回：化学的因子-2 化学物質の影響</p> <p>第10回：環境リスクと統計 環境保全・統計学の概要</p> <p>第11回：疫学による健康問題の理解 オッズ・リスク管理・環境リスク評価</p> <p>第12回：環境の汚染-1 日本における四大公害病-①（総論・水俣病関連）</p> <p>第13回：環境の汚染-2 日本における四大公害病-②（四日市ぜんそく・イタイイタイ病）</p> <p>第14回：環境媒体による分類 大気・水・土壌・食物</p> <p>第15回：講義のまとめ 授業全体の復習・演習問題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要な資料は講義の際に配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「やさしい保健統計学」（縣俊彦、南江堂）</p>			

学生に対する評価

事前学習・事後学習など (20%)、レポート、ならびに試験 (80%)

授業科目名：公衆衛生学 I	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学 養護に関する科目 ・衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：養護教諭に必要な、集団における健康について、その概要や解析方法を理解する。			
授業の概要：公衆衛生という概念について成立の歴史や、現代における問題点を踏まえ学習する。さらに疫学を中心とした保健統計の考え方、やり方について学ぶ			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 導入ーシラバスの説明</p> <p>第2回：公衆衛生学概論ー1 公衆衛生学の概念・健康の定義</p> <p>第3回：公衆衛生学概論ー2 集団における健康・疫学の定義</p> <p>第4回：健康と環境ー1 公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動・健康と環境</p> <p>第5回：健康と環境ー2 人口・疫学的方法・スクリーニング</p> <p>第6回：感染症について 感染症の成立要因・種類・予防法</p> <p>第7回：食品保健と栄養ー1 食中毒について・細菌性食中毒</p> <p>第8回：食品保健と栄養ー2 ウイルス性食中毒・自然毒・国民の栄養</p> <p>第9回：生活環境保全ー1 環境基準・環境保全対策</p> <p>第10回：生活環境保全ー2 環境汚染要因について</p> <p>第11回：医療・介護の保障制度 医療保障制度・介護保険制度</p> <p>第12回：母子保健（統計） 生命表・平均寿命・母子保健サービス</p> <p>第13回：学校保健 学校保健法・養護教諭の職務・学校における保健管理業務</p> <p>第14回：保健統計の基礎 保健統計の概略・平均・偏差・相関</p> <p>第15回：全体のまとめ 公衆衛生の倫理・問題演習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>わかりやすい公衆衛生学（清水 忠彦・佐藤 拓代 編、ヌーヴェルヒロカワ）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>国民衛生の動向（厚生統計協会） やさしい保健統計学（縣俊彦、南江堂）</p>			

学生に対する評価

事前学習・事後学習など (20%)、レポート、ならびに試験 (80%)

授業科目名：公衆衛生学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 長谷真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学 養護に関する科目 ・衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：公衆衛生学Ⅰに引き続き、公衆衛生の各領域を具体的に学習する。集団を対象とする様々な公衆衛生活動について学習し、それぞれの意義を深く理解する。			
授業の概要：生活習慣病や難病といった疾病に対する公衆衛生活動について制度や活動の場に着目して学習する。また健康教育や精神保健福祉などについても理解する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活習慣病　生活習慣病の現状と予防・健康日本21・老人保健</p> <p>第2回：難病について　難病の定義と対策・社会参加支援</p> <p>第3回：健康教育とヘルスプロモーション　健康教育・ヘルスプロモーションの実際</p> <p>第4回：精神保健福祉　精神保健福祉法・人間発達</p> <p>第5回：産業保健について　労働安全環境　職業性疾病</p> <p>第6回：生活習慣病　生活習慣病の概念・現状</p> <p>第7回：産業保健　労働環境・労働衛生管理・職業病</p> <p>第8回：公衆衛生学Ⅱのまとめ　各章のまとめ・練習問題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>わかりやすい公衆衛生学（清水 忠彦・佐藤 拓代 編ヌーヴェルヒロカワ）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>国民衛生の動向（厚生統計協会）　やさしい保健統計学（縣俊彦、南江堂）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>事前学習・事後学習など（20%）、レポート、ならびに試験（80%）</p>			

授業科目名：公衆衛生学実習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷真・仲里仁史
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学 養護に関する科目 ・衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：・学校環境衛生基準の設定根拠について理解し、実際に教室環境や飲料水、衛生害虫等の測定技術を習得し自ら実施できるようになる。			
授業の概要：これまで授業で学んできた環境衛生上の要因の含有成分を取り上げそれらの測定実験を実際に行い学校環境衛生管理について学ぶ。また関連施設等の活動を見学・講話によって理解する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションシラバスの説明 実験の心得について</p> <p>第2回：飲料水試験－1 水素イオン濃度（pH） 濁度 硬度 残留塩素</p> <p>第3回：飲料水試験－2 アンモニア性窒素 亜硝酸性窒素 硝酸性窒素</p> <p>第4回：学校屋内環境の測定－1 気温 気湿 気流 カタ冷却力 感覚温度 熱輻射</p> <p>第5回：学校屋内環境の測定－2 照明条件（教室・黒板）</p> <p>第6回：学校屋内環境の測定－3 大気の成分測定（二酸化炭素・一酸化炭素）</p> <p>第7回：学校屋内環境の測定－4 騒音測定（室内・室外）</p> <p>第8回：学校屋内環境の測定－5 室内空気中の落下細菌測定－培地作成</p> <p>第9回：学校屋内環境の測定－6 室内空気中の落下細菌測定－コロニー計測</p> <p>第10回：衛生害虫についてダニアレルギーの検査</p> <p>第11回：保健所等施設について－1 保健所について－講話1（概論）</p> <p>第12回：保健所等施設について－2 保健所について－講話2（災害対策他）</p> <p>第13回：保健所施設等の見学－1 市役所各部署の見学実習</p> <p>第14回：保健所施設等の見学－2 こども発達支援センター等の見学実習</p> <p>第15回：全体のまとめ総合演習問題 学校環境衛生活動の法的根拠について</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>手引書をプリントして配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：土木学会関西支部（編）、「水のなんでも小事典」、講談社 小倉紀雄他著、「調べる身近な環境」、講談社</p>			

学生に対する評価：実験の方法、手順、課題の理解度や保健所関連施設に関するレポートならびに筆記試験を行う。概ね6割以上を修めたものを合格とする。

授業科目名：予防医学	教員の免許状取得のための 必修科目（養護） 選択科目（中学校及び高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名：仲里仁史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学 養護に関する科目 ・衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ① 子どもの健康増進と疾病予防について実践的な内容を通じて理解する。 ② 将来、養護教諭として学校現場で有用な予防医学の知識を習得する。			
授業の概要 この授業では、健康の概念、実態とその規定要因について学ぶ。さらに、一次予防（健康増進、特異的予防）、二次予防（早期診断、早期治療）、三次予防（悪化の防止、リハビリテーション）について、感染症や生活習慣病、慢性疾患、がんなどの疾病を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：予防医学総論 第2回：疫学と保健統計 第3回：がんとその予防 第4回：DOHaD説と次世代への影響 第5回：生活習慣病とその予防 第6回：性感染症とその予防 第7回：子どもの健康と母子保健 第8回：予防医学まとめ 定期試験			
テキスト ・「シンプル衛生公衆衛生学」（上島通浩・大久保孝義 編、南江堂）			
参考書・参考資料等 ・文部科学省・厚生労働省ホームページ内の資料			
学生に対する評価 ・本授業の理解度を試験（100%）により評価する。			

授業科目名：学校保健I (小児保健を含む。)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲里仁史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・学校保健		
授業のテーマ及び到達目標 ① 学校保健安全法など学校教育における保健と安全に関わる法的根拠について理解できる。 ② 児童生徒の成長発達、健康診断、健康観察、学校で問題となる疾患や課題について理解し説明できる。			
授業の概要 本授業は、学校保健の意義と構造、児童生徒の現状、小児の心身の成長・発達、学校保健計画、保健室経営、保健主事の職務、保健教育と保健指導、健康相談、健康観察、健康診断、疾病の予防と管理、感染症の予防、食物アレルギーとアナフィラキシーの対応、学校環境衛生基準、発達障害、学校安全と事故防止について学ぶ。			
授業計画 第1回：学校保健の意義と構造 第2回：学校保健とヘルスプロモーション 第3回：学校保健計画、保健室経営 第4回：保健教育と保健指導 第5回：学校における健康相談 第6回：学校における健康観察 第7回：学校における健康診断 第8回：学校における疾病の予防と管理 第9回：学校における感染症の予防 第10回：食物アレルギーとアナフィラキシー 第11回：学校環境衛生基準 第12回：保健主事の職務 第13回：発達障害（ADHD、学習障害、自閉症） 第14回：学校安全と事故防止 第15回：学校保健まとめ 定期試験			

テキスト

- ・「養護教諭のための学校保健」（出井 美智子・采女 智津江・佐藤 紀久榮・松野 智子、少年写真新聞社）
- ・「新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション」（徳山美智子ら編著、東山書房）

参考書・参考資料等

- ・文部科学省HPの「学校保健・学校安全・食育」の各文書

学生に対する評価

- ・授業目標の到達度を筆記試験(90%)、毎回のレポート(10%)により評価する。

授業科目名：学校安全	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校及び高等学校） 選択科目（養護）	単位数： 1単位	担当教員名：仲里仁史、 大沼久美子、佐藤伸子 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・学校保健		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>養護教諭として、学校安全の考え方を習得し現状分析と対処のための基本を身に付ける。目標は、</p> <p>① 学校安全、安全管理について理解し、説明することができる。</p> <p>② 養護教諭として必要な学校安全の現状分析と対処のための基本を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この科目はオムニバスで行われ、最終の報告会は教員3名が共同で関わる。まず、仲里から学校安全の概念を学ぶ（2回）。次に、大沼から学校現場での実際の安全管理を学び（2回）、佐藤から学校管理下の災害の実態と事故防止を学ぶ（2回）。さらに、文部科学省「教職員のための学校安全e-learning」により理解を深める（1回）。その後、学生自ら事例を選択し、養護教諭として学校安全の現状分析と基本的な対処法をレポートにまとめる。学んだ事例を発表し、学生全員で情報共有・理解を深める（1回）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校安全の概念（仲里）</p> <p>第2回：学校安全と養護教諭（1）養護教諭の職務と学校安全との関係を中心に（大沼）</p> <p>第3回：学校安全と養護教諭（2）学校安全に果たす養護教諭の役割を中心に（大沼）</p> <p>第4回：学校管理下の災害（負傷・疾病・死亡・障害）の実態（佐藤）</p> <p>第5回：学校管理下の死亡・障害事例と事故防止（佐藤）</p> <p>第6回：学校安全と安全管理（仲里）</p> <p>第7回：教職員のための学校安全e-learning（仲里）</p> <p>第8回：事例報告会（教員全員）</p>			
<p>テキスト</p> <p>・資料（適宜配布）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・「新版・養護教諭執務の手引き」（監修:植田誠治・河田史宝、石川県養護教育研究会 編、東山書房）</p> <p>・「安全心理学」（恒星社厚生閣）</p>			

・「学校の管理下の災害 [令和3年版]」（独立行政法人日本スポーツ振興センター）

学生に対する評価

・課題レポート(90%)、事前事後学習および事例報告会参加態度(10%)にて評価する。

授業科目名：学校保健Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：仲里仁史 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・学校保健		
授業のテーマ及び到達目標 養護教諭として学校保健に関する知識を習得するために、 ①学校保健Iを基本的に理解した上で、さらに児童生徒の健康的課題を深く学ぶ。 ②自ら学ぶ力を身に付ける。			
授業の概要 学校感染症（結核、麻疹など）、児童虐待、いじめ・自殺、災害時の心のケア、現代的健康課題（ギャンブル依存症含む）、食育、教職員の健康管理などについて学ぶ。 また、文部科学省HP「学校保健・学校安全・食育」の手引きを各自理解し、その中から特に役立った3つの文書を各自選択し、要約をレポートとして提出する。			
授業計画 第1回：学校感染症（結核、麻疹） 第2回：児童虐待の現状 第3回：いじめ、自殺 第4回：災害と心のケア 第5回：現代的健康課題（ギャンブル依存症など） 第6回：食育と学校給食 第7回：教職員の健康管理 第8回：学校保健まとめ 定期試験			
テキスト ・「養護教諭のための学校保健」（出井 美智子・采女 智津江・佐藤 紀久榮・松野 智子、少年写真新聞社） ・「新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション」（徳山美智子ら編著、東山書房）			
参考書・参考資料等 ・文部科学省HPの「学校保健・学校安全・食育」の各文書			
学生に対する評価 ・授業目標の到達度を筆記試験(90%)、レポート(10%)により評価する。			

授業科目名： 学校保健Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・学校保健		
授業の到達目標及びテーマ 1. 児童生徒の定期健康診断全般についてフィールドワークにより体験的に理解することができる。 2. 定期健康診断に果たす養護教諭の役割について理解することができる。 【テーマ】 児童生徒定期健康診断（保健調査、学校が実施する検査、委託検査機関が実施する検査、学校医検診等）について、事前準備、実施、事後措置、評価の一連の過程を参加型フィールドワークにより学び、養護教諭になった自身をイメージする。			
授業の概要 養護教諭養成課程における「養護に関する科目」の中で学校保健に分類される科目である。中でも定期健康診断は4月から6月の時期に実施される児童生徒の健康実態の把握と安心安全な学校教育活動に必要な健康状態の把握であり、養護教諭が中心となって企画立案運営評価する重要な職務である。そのため体験的に学ぶことで自身が1年後に養護教諭になった際のイメージと具体的な職務を学ぶ			
授業計画 第1回：オリエンテーション及び定期健康診断項目及び技術的基準の復習 第2回：附属小・中学校等における健康診断参加①（学校が実施する検査（発育測定、視力、聴力等の準備）） 第3回：附属小・中学校等における健康診断参加②（学校が実施する検査（発育測定、視力、聴力等の実施と事後措置）） 第4回：附属小・中学校等における健康診断参加③（委託検査機関による検査（心電図検査、尿検査等の準備）） 第5回：附属小・中学校等における健康診断参加④（委託検査機関による検査（心電図検査、尿検査等の実施と事後措置）） 第6回：附属小・中学校等における健康診断参加⑤（校医検診（内科、眼科、耳鼻科、歯科検診等の準備）） 第7回：附属小・中学校等における健康診断参加⑥（校医検診（内科、眼科、耳鼻科、歯科検			

診等) の実施と事後措置)

第8回：健康診断の振り返りと評価、学校保健統計調査の集計方法

テキスト

児童生徒等の健康診断マニュアル（平成27年度改定）（公財日本学校保健会）

参考書・参考資料等

新訂版学校保健実務必携（学校保健・安全実務研究会 編著、第一法規）、養護概説＜第6次改訂＞（三木とみ子／編集代表・大沼久美子／企画協力、ぎょうせい）

学生に対する評価

フィールドワークへの参加状況及び健康診断の準備、実施、評価の方法、手順が概ね理解され(70%)、レポート内容(30%)により総合的に評価する。

授業科目名： 精神保健学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤瀬 昇
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・精神保健		
授業のテーマ及び到達目標 精神障害についての理解を深め、メンタルヘルス不調者に対する支援の重要性について学習する。			
授業の概要 各種精神疾患について、症例を提示しながら、診断、症状、病態、治療・対応について講義する。社会的な背景などについてもできるだけ触れたい。			
授業計画 第1回：精神医学総論 第2回：気分障害（うつ病、双極性障害） 第3回：統合失調症 第4回：神経症性障害 第5回：依存症（ア依存症（アルコールコールなど）ルなど） 第6回：発達障害について 第7回：社会的ひきこもり 第8回：精神保健福祉法について 第9回：睡眠障害について 第10回：摂食障害について 第11回：大学における障がい学生支援 第12回：思春期のレジリエンス 第13回：精神科薬物療法 第14回：精神療法について 第15回：メンタルヘルスについて 定期試験（筆記試験）			
テキスト プリントや資料を適宜配布します。。			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

筆記試験、授業への参加態度から総合的に評価する。

授業科目名： 学校救急処置 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤伸子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1.養護教諭が行う救急処置の目的、範囲、過程について説明できる。 2.学校で発生する主な外傷に関する観察ポイントおよび処置方法について説明できる。 3.傷病に関する緊急性、重症度の判断ができる。			
授業の概要 学校で行う救急処置の基本を概説し、代表的な外傷に対する問題分析・判断・救急処置・保健指導・事後処理について理解を図る。			
授業計画 第1回：学校で行う救急処置の基本（1）：目的、緊急時の対応、学校救急処置の特徴 第2回：学校で行う救急処置の基本（2）：救急処置の過程と展開上の留意点、救命処置 第3回：四肢の開放性損傷（切り傷、擦り傷、熱傷、化学傷ほか） 第4回：四肢の閉鎖性損傷（打撲、捻挫、脱臼、骨折） 第5回：頭部および頸部外傷 第6回：顔部外傷（眼、鼻、口、耳、骨） 第7回：胸部外傷・腹部外傷・溺水・誤飲・誤嚥 第8回：まとめ 定期試験			
テキスト 保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント 山内豊明監修 東山書房			
参考書・参考資料等 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版			
学生に対する評価 毎回の課題（学び・質問）の記述内容と提出状況（30%）、ミニテスト（30%）、テーマ別課題（40%）を総合して評価する。結果の概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名： 学校救急処置Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤伸子
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する専門的事項（中学校および高等学校 保健） 養護教諭に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健・精神保健・学校安全及び救急処置を含む。） 養護に関する科目 ・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1.学校で見られる主な内科的症状の観察ポイントおよび処置方法について説明できる。 2.緊急性の高い病状、症状、対処法について説明できる。			
授業の概要			
学校で行う救急処置の基本を理解していることに加え、学校生活において児童生徒が訴える内科的 症状に対する問題分析・判断・救急処置・保健指導・事後処理について理解を図る。			
授業計画			
第1回：学校で行う救急処置の基本（内科的主訴の特徴）、腹痛、嘔気・嘔吐			
第2回：頭痛、発熱、熱中症			
第3回：かぜ、発疹性疾患、掻痒			
第4回：息苦しい（喘息、過呼吸、アナフィラキシーなど）			
第5回：失神、痙攣性疾患、てんかん			
第6回：気持ちが悪い、突然死			
第7回：傷病に応じた救急処置演習1（事例検討）			
第8回：傷病に応じた救急処置演習2（事例への対応演習）			
定期試験			
テキスト			
保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント 山内豊明監修 東山書房			
参考書・参考資料等			
看護過程に沿った対症看護 第5版 高木永子監修 学研			
改訂第10版 救急救命士標準テキスト 救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版			
学生に対する評価			
毎回の課題（学び・質問）の記述内容と提出状況（30%）および最終試験（70%）を総合 して評価する。結果の概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名： 中等保健科指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 小学校、中学校、高等学校における保健科教育の意義、教育目標、教育内容、指導計画並びに指導方法、指導上の留意点、評価方法について理解し、説明できる。			
授業の概要 保健科教育の歴史、背景を概観した上で保健教育における位置づけについても理解する。各校種における「保健」の教育目標や教育内容と、その系統性を学習する。他教科との関連と学習者の実態把握、情報リテラシー等についても理解し、保健科教育を実践するための基礎知識と技術を修得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、教科の背景（疾病構造・健康課題の変化と健康増進施策の実際、学校保健活動の推進） 第2回：保健科教育（歴史、教育課程における保健科教育の位置づけ、保健教育における位置づけ、他教科との関連） 第3回：小学校体育（保健領域）の教育目標と教育内容 第4回：小学校体育（保健領域）の指導計画・指導方法・指導上の留意点 第5回：中学校保健体育（保健分野）の教育目標と教育内容 第6回：中学校保健体育（保健分野）の指導計画・指導方法・指導上の留意点 第7回：高等学校保健体育（科目保健）の教育目標と教育内容 第8回：高等学校保健体育（科目保健）の指導計画・指導方法・指導上の留意点 第9回：保健科授業の評価 第10回：学習者の発達段階や実態に応じた教材、教具の工夫（障害のある学習者への留意点を含む）、保健科授業でのICT機器の活用 第11回：授業形態と学習効果 第12回：学習指導案の意義・作成方法 第13回：学習指導案の作成 第14回：学習指導案・授業の評価、授業研究の意義 第15回：授業の振り返りとまとめ 定期試験 テキスト			

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領と指導要領解説<体育, 保健体育,特別活動>(文部科学省), 中学保健体育(学研),小学校体育科(新しい保健3・4年, 5・6年東京書籍)

参考書・参考資料等

養護教諭が行う保健学習(川上直子 ほか,東山書房), 小学校の保健学習(遠藤かおる 他,健学社), 養護教諭の授業づくり(松本敬子 ほか,東山書房)

学生に対する評価

成績評価は、授業への積極的参加度及び筆記試験により総合的に評価し、その結果概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。

授業科目名： 中等保健科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 高等学校「保健」の目標や内容について説明できる。指導計画、学習指導案作成により模擬授業を実践または観察し、自己評価ならびに他者評価を通して実践的な指導力を修得する。			
授業の概要 高等学校「保健」の目標・内容に基づいた指導計画、学習指導案について学習し、実践例に学ぶ。その後、個人またはグループで、1単位時間の指導計画、学習指導案作成、模擬授業の実践に取り組み、自己評価・他者評価から授業評価を行う。担当授業以外の時間は、学習者あるいは観察者として模擬授業に参加し、授業者とともに授業研究を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（本授業の目的、概要説明、模擬授業・授業観察・授業研究の進め方等） 第2回：高等学校「保健」指導計画・学習指導案作成の実際 第3回：高等学校「保健」の授業観察と授業研究 第4回：高等学校「保健」学習指導案作成の実際：担当授業の研究1 第5回：高等学校「保健」教材作成の実際：担当授業の研究2 第6回：模擬授業「現代社会と健康」：健康の考え方、健康の保持増進と疾病予防 第7回：模擬授業「現代社会と健康」：精神の健康 第8回：模擬授業「現代社会と健康」：交通安全 第9回：模擬授業「現代社会と健康」：応急手当 第10回：模擬授業「生涯を通じる健康」：障害の各段階における健康 第11回：模擬授業「生涯を通じる健康」：保健・医療制度及び地域の保健医療機関、保健活動と対策 第12回：模擬授業「社会生活と健康」：環境と健康 第13回：模擬授業「社会生活と健康」：環境と食品の保健 第14回：模擬授業「社会生活と健康」：労働と健康 第15回：授業の振り返りとまとめ定期試験			
テキスト 高等学校学習指導要領と指導要領解説 保健体育・体育編(文部科学省), 現代高等保健体育改訂版(大修館書店)			
参考書・参考資料等 養護教諭が行う保健学習(川上直子 ほか,東山書房), 養護教諭の授業づくり(松本敬子 ほか,東山			

書房)

学生に対する評価

成績評価は、授業への積極的参加度(30%)と模擬授業の実施状況(40%)、係の遂行状況(10%)及びレポート等の提出物(20%)により総合的に評価し、その結果概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。

授業科目名： 中等保健科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子、 秋月百合 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校「保健分野」の目標や内容について説明できる。指導計画、学習指導案作成により模擬授業を実践または観察し、自己評価ならびに他者評価を通して実践的な指導力を修得する。			
授業の概要 中学校「保健分野」の目標・内容に基づいた指導計画、学習指導案について学習し、実践例に学ぶ。その後、個人またはグループで、1単位時間の指導計画、学習指導案作成、模擬授業の実践に取り組み、自己評価・他者評価から授業評価を行う。担当授業以外の時間は、学習者あるいは観察者として模擬授業に参加し、授業者とともに授業研究を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（本授業の目的、概要説明、模擬授業・授業観察・授業研究の進め方等） 第2回：中学校「保健分野」指導計画・学習指導案作成の実際 第3回：中学校「保健分野」の授業観察と授業研究 第4回：中学校「保健分野」学習指導案作成の実際：担当授業の研究 1 第5回：中学校「保健分野」の教材作成の実際：担当授業の研究 2 第6回：模擬授業「心身の機能の発達と心の健康」：身体機能の発達 第7回：模擬授業「心身の機能の発達と心の健康」：生殖にかかわる機能の成熟（生理的変化） 第8回：模擬授業「心身の機能の発達と心の健康」：生殖にかかわる機能の成熟（適切な対応） 第9回：模擬授業「心身の機能の発達と心の健康」：精神機能の発達と自己形成 第10回：模擬授業「心身の機能の発達と心の健康」：欲求やストレスへの対処と心の健康 第11回：模擬授業「健康と環境」：身体对环境に対する適応能力 第12回：模擬授業「健康と環境」：身体对环境に関する至適範囲 第13回：模擬授業「健康と環境」：飲料水や空気の衛生的管理 第14回：模擬授業「健康と環境」：生活に伴う廃棄物の衛生的管理 第15回：授業の振り返りとまとめ 定期試験			
テキスト 中学校の学習指導要領と指導要領解説 保健体育編(文部科学省)、中学保健体育(学研)			
参考書・参考資料等			

養護教諭が行う保健学習(川上直子 ほか,東東山書房),養護教諭の授業づくり(松本敬子 ほか,東山書房)

学生に対する評価

成績評価は,授業への積極的参加度(30%)と模擬授業の実施状況(40%),係の遂行状況(10%)及びレポート等の提出物(20%)により総合的に評価し,その結果概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする.

授業科目名： 中等保健科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子、 秋月百合 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校「保健分野」の目標や内容について説明できる。指導計画、学習指導案作成により模擬授業を実践または観察し、自己評価ならびに他者評価を通して実践的な指導力を修得する。			
授業の概要 個人またはグループで、中学校「保健分野」の目標・内容に基づいた、1単位時間の指導計画、学習指導案作成、模擬授業の実践に取り組み、自己評価・他者評価から授業評価を行う。担当授業以外の時間は、学習者あるいは観察者として模擬授業に参加し、授業者とともに授業研究を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（本授業の目的、概要説明、模擬授業・授業観察・授業研究の進め方等） 第2回：模擬授業「傷害の防止」：交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 第3回：模擬授業「傷害の防止」：交通事故などによる傷害の防止 第4回：模擬授業「傷害の防止」：自然災害発生による傷害と二次災害による傷害 第5回：模擬授業「傷害の防止」：自然災害への備えと傷害防止 第6回：模擬授業「傷害の防止」：応急手当による傷害の悪化防止 第7回：模擬授業「傷害の防止」：心肺蘇生ほか応急手当（実習） 第8回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：健康の成り立ちと疾病の発生要因 第9回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：生活行動・生活習慣と健康 第10回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：喫煙、飲酒、薬物乱用の心身への影響 第11回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：喫煙、飲酒、薬物乱用と心身の健康（個人の心理状態や人間関係、社会環境などの要因に対する適切な対処） 第12回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：感染症の予防 第13回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：保健・医療機関や医薬品の有効利用 第14回：模擬授業「健康な生活と疾病の予防」：個人の健康を守る社会の取り組み 第15回：授業のまとめ（授業の振り返りとまとめ） 定期試験			
テキスト 中学校の学習指導要領と指導要領解説 保健体育編(文部科学省)、中学保健体育(学研)			

参考書・参考資料等

養護教諭が行う保健学習(川上直子 ほか,東東山書房),養護教諭の授業づくり(松本敬子 ほか,東山書房)

学生に対する評価

成績評価は,授業への積極的参加度(30%)と模擬授業の実施状況(40%),係の遂行状況(10%)及びレポート等の提出物(20%)により総合的に評価し,その結果概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする.

授業科目名： 性に関する指導	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：秋月百合 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における性に関する指導について、基本的な考え方および進め方を理解する。 ・ 児童生徒が直面する、および将来直面するかもしれないリプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）の課題について理解する。 ・ 事例を通して必要な性に関する指導を立案することができる。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における性に関する指導について、基本的考え方（意義、必要性等）、進め方（全体構想、内容等）を概説する。 ・ 今日の児童・生徒の性と生殖に関する健康課題について概説する。 ・ 性に関する指導の実践例を、集団指導、個別指導別に例示する。また自ら指導計画を立案し検証する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、「性」や「性教育」の概念に関するグループワーク</p> <p>第2回：学校における性に関する指導の歴史、基本的考え方・進め方</p> <p>第3回：学習指導要領に基づく性に関する指導内容</p> <p>第4回：児童・生徒の性や生殖の現代的健康課題</p> <p>第5回：性に関する指導（集団指導）の実践例</p> <p>第6回：性に関する指導（個別・小集団）の計画立案</p> <p>第7回：性に関する指導（個別・小集団）の実践と評価</p> <p>第8回：学校における性に関する指導についてのまとめ、筆記試験</p>			
<p>テキスト 毎回資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>学習指導要領、総則編、解説（小学校、中学校、高等学校：保健体育、理科、道徳、特別活動等）および関連教科書</p> <p>文部省「学校における性教育の考え方、進め方」文部省平成11年</p> <p>文部科学省「健やかな体を育む教育という観点から、今後、学校教育活動全体で取り組むべき課題について（1）性教育」</p> <p>http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/022/siryo/06092114/001/004/003.htm</p> <p>文部科学省「学校教育全体（教科横断的な内容）で取り組むべき課題（食育、安全教育、性教育）と学習指導要領等の内容」平成17年</p> <p>https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1395097.htm</p>			

日本学校保健会「保健教育における個別指導の考え方、進め方」 令和5年度

文部科学省 小学校、中学校、高等学校保健教育参考資料「改訂『生きる力』を育む小学校保健教育の手引」

熊本市性に関する指導（指導案集） 令和6年度改訂

学生に対する評価

筆記試験、授業への参加態度、グループワークへの参加態度、出席状況等により、総合的に評価する。

授業科目名： 解剖学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤知己
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」 養護に関する科目 ・解剖学・生理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>養護教諭として必要な病気についての知識を学ぶ前に、正常では人体はどのように成り立ち、機能しているのかについて学ぶ事を目的とする。異常を学び理解するためには、まず正常を学ぶ必要がある。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人体の構造（肉眼レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベル）と特徴を学ぶ。各器官系は有機的に連携しながら体内の恒常性の維持に働いているので、実際の講義では、各器官系の相互関係に触れながら講義を進めて行く。そのため各項目は完全に独立したものではない。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：細胞の構造と機能（生物とは、細胞とは、細胞膜、核、細胞小器官）</p> <p>第2回：人体を構成する分子群（タンパク質、脂質、炭水化物、その他の生体構成分子、水の重要性）</p> <p>第3回：生体機構の概略1（呼吸器系、循環器系、血液系、腎泌尿器系）</p> <p>第4回：生体機構の概略2（消化器系、神経系、内分泌系、筋骨格系）</p> <p>第5回：解剖生理学を学ぶための基礎知識1（細胞、遺伝、代謝、興奮伝達）</p> <p>第6回：解剖生理学を学ぶための基礎知識2（人体の層構造、人体各部の名称、解剖学の用語）</p> <p>第7回：血液造血系1（血液の組成と構成、骨髄、赤血球）</p> <p>第8回：血液造血系2（白血球、血小板、血液凝固・線溶系、血液型）</p> <p>第9回：循環器系1（循環器系の構成、心臓の構造）</p> <p>第10回：循環器系2（心臓の拍出機能、心電図、不整脈）</p> <p>第11回：循環器系3（末梢循環系、血液の循環とその調節）</p> <p>第12回：体液の調節と腎泌尿器系1（腎臓の解剖と機能、体液調節機構）</p> <p>第13回：体液の調節と腎泌尿器系2（血圧調節機構、腎臓とホルモンとの関係、排尿路）</p> <p>第14回：自律神経系1（自律神経とは、自律神経系とホメオスタシス）</p> <p>第15回：自律神経系2（自律神経の構造と機能、自律神経の作用機序、自律神経と神経伝達物</p>			

質)

定期試験（筆記試験）

テキスト

系統看護学講座 専門基礎系統看護学講座 専門基礎1 解剖生理学 人体の構造と機能（医学書院）

ぜんぶわかる人体解剖図（坂井建雄・橋本尚詞、成美堂出版）

参考書・参考資料等

講義のつど、重要な点をまとめたプリントを配布する。

学生に対する評価

筆記試験と授業への参加態度から総合的に評価する。

授業科目名： 微生物学・免疫学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤知己
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」 養護に関する科目 ・「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校現場でも地域でも、最も頻度の高い疾患は感染症である。その感染症は多様な微生物により引き起こされる。また、免疫系は感染防御にとどまらず様々な疾患から体を守っている。また、学校現場でしばしば問題となるアレルギーは、免疫系の働きの異常によりおこる。そのため、養護教諭の職務と感染症、免疫との関連は深く、感染症、アレルギーの児童・生徒の状態を正しく把握し、対処するためには、微生物学・免疫学の知識が不可欠である。この講義では、感染症の原因としての微生物と免疫系の基本を知るという立場から講義する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>感染症の原因となる微生物は様々である。そのため、それらが引き起こす感染症も様々であり、必然的に予防対策、感染した場合の対処も、原因微生物によって異なる。それらの特徴、引き起こす疾患の概要、感染への生体の防御機構の概要を学ぶとともに、予防や治療の基本概念を学ぶ。また、生体防御を担うとともに、その破綻が疾患につながる免疫系の概略について講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生体防御機構と、その破綻1（免疫組織、免疫担当細胞、免疫に関与する分子、自然免疫、免疫応答の概略）</p> <p>第2回：生体防御機構と、その破綻2（アレルギー、自己免疫疾患、腫瘍免疫、免疫不全）</p> <p>第3回：感染症学 総論1（感染症の概念、微生物の分類、生物としての特徴）</p> <p>第4回：感染症学 総論2（食中毒、感染流行、学校感染症）</p> <p>第5回：感染症の予防と治療</p> <p>第6回：細菌学 総論1（細菌の分類、特徴、感染症発症機構）</p> <p>第7回：細菌学 総論2（抗菌剤、耐性菌、感染予防）</p> <p>第8回：細菌学 各論1（グラム陽性菌と感染症）</p> <p>第9回：細菌学 各論2（グラム陰性菌と感染症）</p>			

第10回：細菌学 各論3（結核菌など、その他の細菌と感染症）

第11回：ウイルス学 総論

第12回：ウイルス学 各論1（DNAウイルスと感染症）

第13回：ウイルス学 各論2（RNAウイルスと感染症）

第14回：真菌学 総論、各論

第15回：寄生虫学 総論、各論

定期試験（筆記試験）

テキスト

講義ごとに必要な資料や図表を記載したプリントを配布する。

参考書・参考資料等

病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症（医療情報科学研究所 編、Medic. Media）

学生に対する評価

筆記試験と授業への参加態度から総合的に評価する。

授業科目名： 養護学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・養護概説		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護の原理や哲学、養護教諭制度の歴史の変遷などの基礎的な知識を理解することができる。 2. 養護教諭に必要とされる資質・能力、職務と役割について理解することができる。 3. 保健室の役割と機能について理解することができる。 4. 養護教諭の職務を推進するための基本的事項及びその実際についての知識を修得することができる。 <p>【テーマ】</p> <p>養護教諭の歴史や職制の歴史の変遷をふまえ、養護教諭の専門性や独自性、職務と役割の基本、保健室の機能・保健室経営について学修することで自身が目指す養護教諭像をイメージする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>養護教諭養成課程における「養護に関する科目」の中で養護概説に分類される核となる必須科目である。養護教諭制度の成り立ち、養護教諭の職務と役割、専門性・独自性、養護教諭に関わる法的根拠、保健室経営等、職務に関わる基礎的な知識を理解すると共に、養護教諭としての自己の適性を自覚し目指す養護教諭像をイメージする。具体的な授業方法としては、事例や保健室訪問などを通じて具体的な職務、保健室経営の展開を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・養護の本質と概念（1）</p> <p>第2回：養護の本質と概念（2）</p> <p>第3回：養護教諭制度の遠隔、歴史と変遷（1） 養護教諭制度の変遷</p> <p>第4回：養護教諭制度の遠隔、歴史と変遷（2） 養護教諭養成制度の変遷</p> <p>第5回：養護教諭制度の遠隔、歴史と変遷（3） 教育職員養成審議会答申と教育職員免許法</p> <p>第6回：養護教諭の職務と教育に果たす役割</p> <p>第7回：保健室の機能（保健室の法的根拠、保健室が持つ機能） （保健室に必要とされる設備・備品、保健室の配置、レイアウトの留意点）</p> <p>第8回：養護教諭の職務推進の基本と実際（1）（保健室訪問フィールドワーク事前指導①進め方）</p> <p>第9回：養護教諭の職務推進の基本と実際（2）（保健室訪問フィールドワーク事前指導②インタビューガイドの作成など）</p>			

第10回：養護教諭の職務推進の基本と実際（3）（保健室訪問フィールドワーク）
第11回：養護教諭の職務推進の基本と実際（4）（保健室訪問フィールドワーク発表準備）
第12回：養護教諭の職務推進の基本と実際（5）（保健室訪問の成果発表①グループ別）
第13回：養護教諭の職務推進の基本と実際（6）（保健室訪問の成果発表②代表者発表、総括）
第14回：養護教諭の職務推進の基本と実際（7）（自身が目指す養護教諭とは：発表準備）
第15回：私が目指す養護教諭とこれからの展望

定期試験

テキスト

養護概説＜6次改訂＞（三木とみ子／編集代表・大沼久美子／企画協力、ぎょうせい）

参考書・参考資料等

新訂版学校保健実務必携（学校保健・安全実務研究会 編著、第一法規）

学生に対する評価

成績評価は、授業やグループワーク・発表への積極的参加度（30%）及び毎回の授業の振り返りの課題記入（20%）と筆記試験（50%）により総合的に評価する。

授業科目名： 養護学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・養護概説		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1. 養護教諭の具体的な職務の基本と実際及び学校保健を取り巻く教職員の役割を理解することができる。</p> <p>2. 養護教諭の職務全般について、P D C Aサイクルに基づき展開することを理解できる。</p> <p>3. 養護教諭の職務に関わる法的根拠と職務の関連、学校保健情報の取り扱い、公務文書の知識について理解することができる。</p> <p>【テーマ】 組織の中での養護教諭の役割や教育職としての専門性を理解するとともに職務全般について計画と評価の実施や職務に関わる教育法規及び公文書の取り扱い、個人情報の保護等の保健事務についての知識を習得し実践的な理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>養護教諭の職務全般についてP D C Aサイクルの基づき実施することの重要性を理解すると共に職務に関わる教育法規及び公文書、学校保健情報の管理などについて模擬保健室での講義及び実際にパソコン等を操作し、事務処理や手続きなどについて実践的に学習する。また、国際社会における日本の養護教諭の独自性や教育職としての役割を理解することにより専門職としての自覚と意識を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・養護教諭の職務推進の基本と実際（1）（学校保健情報及びその取り扱い、健康実態の把握）</p> <p>第2回：養護教諭の職務推進の基本と実際（2）（健康観察）</p> <p>第3回：養護教諭の職務推進の基本と実際（3）（健康診断①：法的根拠・目的・計画立案）</p> <p>第4回：養護教諭の職務推進の基本と実際（4）（健康診断②：検査・検診項目の技術的基準）</p> <p>第5回：養護教諭の職務推進の基本と実際（5）（健康診断③：結果の取り扱いとその活かし方）</p> <p>第6回：養護教諭の職務推進の基本と実際（6）（健康相談活動の基本と構造）</p> <p>第7回：養護教諭の職務推進の基本と実際（7）（保健管理活動・危機管理：傷病、感染症・食物アレルギー・心のケアなど）</p> <p>第8回：養護教諭の職務推進の基本と実際（8）（保健管理活動：学校環境衛生、学校安全活動）</p> <p>第9回：養護教諭の職務推進の基本と実際（9）（保健教育活動：集団指導と個別指導）</p> <p>第10回：養護教諭の職務推進の基本と実際（10）（学校組織活動：学校保健委員会、家庭・地域社会との連携）</p> <p>第11回：養護教諭の職務推進の基本と実際（11）（保健主事の役割及び学校保健活動における養護教</p>			

論の役割)

第12回：養護教諭の職務推進の基本と実際 (12) (保健室経営の構造と保健室経営計画)

第13回：養護教諭の職務推進の基本と実際 (13) (保健室計画の作成：グループワーク)

第14回：養護教諭の職務推進の基本と実際 (14) (保健室経営計画の作成②：発表)

第15回：養護教諭の職務推進の基本と実際 (15) (個人情報の保護と養護教諭の倫理綱領)

筆記試験

テキスト

養護概説<6次改訂> (三木とみ子／編集代表・大沼久美子／企画協力、ぎょうせい)

参考書・参考資料等

新訂版学校保健実務必携 (学校保健・安全実務研究会 編著、第一法規)

学生に対する評価

成績評価は、授業やグループワーク・発表への積極的参加度 (20%) 及び毎回の授業の振り返りの課題記入 (20%) と筆記試験 (60%) により総合的に評価する。

授業科目名： 健康相談活動の理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1. 健康相談・健康相談活動の歴史の変遷、健康相談の意義や目的、健康相談のプロセス、心身相関や精神疾患などの病態、ヘルスアセスメントの方法を理解することができる。</p> <p>2. 健康相談の対象、機会、方法、健康相談・健康相談活動と個別の保健指導の関連及び法的根拠、関係機関との連携、記録と評価について理解することができる。</p> <p>【テーマ】</p> <p>現代の急激な社会背景の中で、いじめや不登校、薬物乱用、性の逸脱行動、生活習慣病、新たな感染症の出現等、児童・生徒の健康の維持・増進を阻害する深刻な要因が増加している。養護教諭は児童・生徒の心身の健康問題にいち早く気づくことのできる立場にある。養護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談活動の基礎・基本を学び、理解することを目的とする。</p>			
授業の概要			
<p>養護教諭養成課程における「養護に関する科目」の中で健康相談活動の理論・健康相談活動の方法に分類される科目である。健康相談・健康相談活動は養護教諭の中核となる職務であり、心と体の両面から児童生徒支援できる資質・能力を育成するため、健康相談活動の歴史の変遷、健康相談活動の理論を中心に学び、「健康相談活動の方法」の授業につなぐ。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：健康相談活動・健康相談の基本的理解			
第3回：児童生徒の心身の健康問題の現状と背景			
第4回：健康相談活動の原理・構造			
第5回：健康相談活動に求められる資質・能力・技能			
第6回：保健室の機能を生かした健康相談活動①（主にフィジカルアセスメントに視点をあてて）			
第7回：保健室の機能を生かした健康相談活動②（主に保健室の施設設備備品の活用に視点をあてて）			
第8回：健康相談活動の諸理論①（心身相関、タッチング理論、ブランケットケア他）			
第9回：健康相談活動の諸理論②（カウンセリング理論）			
第10回：健康相談活動の諸理論③（カウンセリングの機能を生かすとは）			
第11回：健康相談活動の諸理論④（心理療法）			

第12回：健康相談活動の諸理論⑤（ヘルスアセスメント：心理社会的アセスメントに視点をあてて）

第13回：健康相談活動の諸理論⑥（ヘルスアセスメント：生活習慣アセスメントに視点をあてて）

第14回：健康相談活動の諸理論⑦（多職種多機関連携）

第15回：健康相談活動における子どもの人権と倫理

定期試験

テキスト

養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践（＜編集代表＞ 三木とみ子・徳山美智子 ＜企画編集＞ 大沼久美子 ＜編集協力＞ 遠藤 伸子・平川 俊功、ぎょうせい）

参考書・参考資料等

健康相談活動学－実践から理論、そして学問へ－（一社日本健康相談活動学会）

養護概説＜第6次改訂＞（三木とみ子／編集代表・大沼久美子／企画協力、ぎょうせい）

教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和3年度改訂―（公財日本学校保健会）

学生に対する評価

授業への積極的参加度(30%)、毎回の授業振り返りの課題記入(20%)、筆記試験及びレポート等の提出物(50%)により総合的に評価する。

授業科目名： 健康相談活動の方法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1. 健康相談の進め方及び学校内外の関係機関及び他職種との連携、支援体制づくりについて健康相談・健康相談活動を実践するために必要な知識を生かして、模擬事例を通じて実践的に理解することができる。</p> <p>2. 発達段階に即した健康相談・健康相談活動について、ケース会議の持ち方や、健康相談の記録の仕方などについて実践的に学ぶことができる。</p> <p>3. 保健室頻回来室者の背景要因について類推し支援計画を立てることができる。</p> <p>【テーマ】</p> <p>「健康相談活動の理論」で学修した基本的な考え方とその進め方を踏まえ、健康相談活動の進め方及び学校内外の関係機関及び他職種との連携、支援体制づくり、ケース会議の持ち方等の実践力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>養護教諭養成課程における「養護に関する科目」の中で健康相談活動の理論・健康相談活動の方法に分類される科目である。健康相談・健康相談活動は養護教諭の中核となる職務であり、心と体の両面から児童生徒支援できる資質・能力を育成するため、健康相談活動の模擬事例を通じて、発達段階に即して対応を考え、ロールプレイ等で体験的に学ぶとともに省察することで対応力の向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・健康相談・健康相談活動の目的</p> <p>第2回：健康相談活動・健康相談の模擬事例に対するシナリオ作成</p> <p>第3回：健康相談・健康相談活動事例の検討（1）日常的な訴えへの対応</p> <p>第4回：健康相談・健康相談活動事例の検討（2）心の問題が存在する可能性のある判断の視点</p> <p>第5回：健康相談・健康相談活動事例の検討（3）（自傷行為、パニック症、うつ等）</p> <p>第6回：健康相談・健康相談活動事例の検討（4）（保健室登校・不登校）</p> <p>第7回：健康相談・健康相談活動事例の検討（5）（児童虐待）</p> <p>第8回：健康相談・健康相談活動事例の検討（6）（いじめ）</p> <p>第9回：健康相談・健康相談活動事例の検討（7）（自殺企図、自殺願望）</p> <p>第10回：健康相談・健康相談活動事例の検討（8）（発達に特性がみられる）</p> <p>第11回：健康相談・健康相談活動事例の検討（9）（慢性疾患、病弱児、医療的ケア児）</p>			

第12回：健康相談・健康相談活動の進め方と支援体制づくり①多職種連携（医療）
 第13回：健康相談・健康相談活動の進め方と支援体制づくり②多職種連携（福祉）
 第14回：健康相談・健康相談活動の進め方と支援体制づくり③多職種連携（地域、NPO など）
 第15回：健康相談・健康相談活動の評価と振り返り（総合レポート）

テキスト

養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践（＜編集代表＞ 三木とみ子・徳山美智子
 ＜企画編集＞ 大沼久美子 ＜編集協力＞ 遠藤 伸子・平川 俊功、ぎょうせい）

参考書・参考資料等

健康相談活動学－実践から理論、そして学問へ－（一社日本健康相談活動学会）
 養護概説＜三木とみ子／編集代表・大沼久美子／企画協力、第6次改訂＞（ぎょうせい）
 教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和3年度改訂―（公財日本学校保健会）

学生に対する評価

授業への積極的参加度(30%)、毎回の授業振り返りの課題記入(20%)、レポート等の提出物(50%)により総合的に評価する。

授業科目名： 生化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤知己
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・解剖学・生理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>養護教諭として必要な病気についての知識を学ぶ前に、正常では人体はどのように成り立ち、機能しているのかについて物質の面から学ぶ事を目的とする。異常を学び理解するためには、まず正常を学ぶ必要がある。また、健康維持のために重要な食事・栄養について学ぶための事前の必須知識として、人体を構成する基礎となる種々の栄養素について物質レベルで学習する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この生化学の講義では、人体の生理的な機能を生化学的な物質レベルの相互関係、変化の面から講義する。そのため、個々の化学反応よりは、全体的に生理的な機能が、どのように果たされているのかを理解することを重視する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：タンパク質の構造と機能</p> <p>第2回：酵素の構造と機能、役割1（酵素とは、生体内化学反応、酵素の構造、酵素の種類）</p> <p>第3回：酵素の構造と機能、役割2（酵素の作用機構、酵素の機能調節、酵素の利用）</p> <p>第4回：糖質の構造と糖質代謝</p> <p>第5回：脂質の構造と脂質代謝</p> <p>第6回：アミノ酸およびタンパク質代謝と窒素代謝</p> <p>第7回：遺伝子工学と社会</p> <p>第8回：核酸と分子遺伝学</p> <p>第9回：体液の組成と調節機構</p> <p>第10回：ビタミンの構造と役割1（ビタミンとは、水溶性ビタミンの構造と機能）</p> <p>第11回：ビタミンの構造と役割2（脂溶性ビタミンの構造と機能）</p> <p>第12回：消化吸収と栄養学の基礎1（五大栄養素の消化・吸収機構）</p> <p>第13回：消化吸収と栄養学の基礎2（栄養学の基礎、必要熱量の計算、肥満とやせ）</p> <p>第14回：免疫機構の概略と役割1（免疫とは、自然免疫、獲得免疫）</p> <p>第15回：免疫機構の概略と役割2（液性免疫、細胞性免疫、アレルギー、自己免疫、免疫不全、予防接種、免疫系の発達）</p> <p>定期試験（筆記試験）</p>			

テキスト

わかりやすい 生化学 石黒伊三雄 監修 スーヴェルヒロカワ

参考書・参考資料等

講義のつど、重要な点をまとめたプリントを配布する。

学生に対する評価

筆記試験と授業への参加態度から総合的に評価する。

授業科目名：薬理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久恒昭哲 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>薬の一般的性質を知り、疾病の治療に用いる薬が生体にどのように作用するかを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学や生理学、病理学で学んだことをベースに、疾病の薬物治療における有用性と有害性（副作用）を理解する。 ・上記理解により、治療薬を用いながら学校生活を送っている子どもの支援（観察、指導）ができるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、養護教諭を目指す学生を対象にした授業であることから、身体の生理作用に対して、薬がどのように関与し治療効果を発揮するか、キーポイントを中心に講義する。また、好ましい面だけでなく、必ず副作用が伴うこと等を講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：薬物とはなにか</p> <p>第2回：薬が作用する仕組み</p> <p>第3回：薬の体内の挙動</p> <p>第4回：薬物の有効性と有害性</p> <p>第5回：末梢での神経活動に作用する薬物</p> <p>第6回：心臓・血管系に作用する薬物</p> <p>第7回：炎症と痛みの原理</p> <p>第8回：抗炎症、鎮痛に作用する薬物</p> <p>第9回：呼吸器・消化器に作用する薬物</p> <p>第10回：中枢神経系に作用する薬物</p> <p>第11回：物質代謝に作用する薬物</p> <p>第12回：免疫の仕組みと治療法、抗感染症薬、消毒薬</p> <p>第13回：がん、漢方薬、救急の際に使用される薬</p> <p>第14回：薬物の基礎的事項のまとめ</p> <p>第15回：薬物治療のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座・専門基礎分野・薬理学(吉岡充弘/泉剛/井関健/横式尚司/菅原満、医学書院) 			

参考書・参考資料等

- ・その他必要な資料は随時配付

学生に対する評価

- ・筆記試験(100%)の結果、概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。

授業科目名：看護学概説 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秋月百合
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・看護に関する理論や概念、思考方法を学び、養護活動に応用する方法について理解する。 ・疾患を持つ子どもの健康を守るための基礎知識を習得し、学校と医療機関がどのように連携できるか考えることができる。 			
授業の概要			
保健室対応ができるよう、疾患を持つ子どもの健康を守ることができるよう、講義ならびにグループワークを行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業の展開について			
第2回：健康の概念、看護の概念、看護理論			
第3回：看護過程（1） 看護を展開するための思考方法（看護過程）-情報収集、アセスメント、看護問題の抽出方法			
第4回：看護過程（2） 看護を展開するための思考方法（看護過程）-看護計画			
第5回・第6回：抄読会準備：看護理論家フローレンスナイチンゲールの著書「看護覚書」について、著者の主張、要点、保健室経営や養護教諭の職務への応用についてグループで検討整理する。			
第7回・第8回：フローレンスナイチンゲール抄読会：「看護覚書」をまとめ、発表する。			
第9回：看護過程と養護活動			
第10回：養護過程の養護活動への応用（演習1）：事例から学ぶ（1）（グループワーク演習）			
第11回：養護過程の養護活動への応用（演習2）：事例から学ぶ（2）（グループワーク演習）			
第12回：臨床看護学～成人看護学各論～			
第13回：臨床看護学～小児看護学各論～			
第14回：医療機関と学校の連携（1）：疾患を持つ児童生徒の健康を守るための医療機関等との連携について（講義）			
第15回：医療機関と学校の連携（2）：疾患を持つ児童生徒の健康を守るための医療機関等との連携について（グループワーク）			
定期試験			
テキスト			

資料配付

科目「養護概論」で使用する教科書

参考書・参考資料等

新訂 養護概説, 三木とみ子編, ぎょうせい

学生に対する評価

筆記試験 (80%) 事前課題・ワーク・レポート (20%)

授業科目名： 看護学概説Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤 伸子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 養護教諭に必要な看護技術（観察技術、安全管理技術、創傷の処置に関わる技術）について理解できる。			
授業の概要 学校現場において養護教諭に求められる基礎看護技術（観察、環境整備、安全管理、巻法、感染予防、包帯法）の理論について概説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、学校看護・看護技術、生活環境の調整、ボディメカニクス 第2回：観察（検診）の技術1：ヘルスアセスメント技術であるバイタルサインズの観察法ほか 第3回：巻法（あんぼう）：氷枕、氷嚢、冷湿布、保冷剤、湯たんぽ、温湿布等の取り扱い 第4回：外傷の処置に用いる技術（創処置、包帯法） 第5回：安全を守る技術（感染予防） 第6回：観察（検診）の技術2：問診、触診、聴診、検査ほか 第7回：統合実習（児童生徒の傷病に応じた処置・看護の実際）：事例検討・支援計画立案 第8回：まとめ（自身の体温・脈拍・呼吸の継続観察・アセスメント）			
テキスト 養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護-すべての子供の健康実現を目指して-, 遠藤伸子ほか編著, 東山書房			
参考書・参考資料等 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第18版), 任和子ほか, 医学書院 基礎看護技術（第8版）, 阿曾洋子ほか, 医学書院			
学生に対する評価 毎回の課題（学び、問題意識）（50%）、講義への積極的な取り組み（10%）、課題（40%）から総合的に評価する。なお、結果の概ね6割を以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名： 看護学概説Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤 伸子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 養護教諭に必要な看護技術（日常生活援助技術）について理解できる。			
授業の概要 学校現場において養護教諭に求められる基礎看護技術（日常生活援助、医療的ケア等）の理論について概説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、日常生活における援助の意義、体位、体位変換1、移動の援助1（歩行）、ボディメカニクス 第2回：体位変換2（ショック、意識障害ほか）、移動の援助2（車椅子、ストレッチャー、担架） 第3回：食事の援助 第4回：排泄の援助 第5回：清潔の援助 第6回：医療的ケアを受けている児童生徒の支援1（薬物療法、酸素療法） 第7回：医療的ケアを受けている児童生徒の支援2（認定特定行為、自己導尿ほか） 第8回：まとめ・定期試験（筆記試験）			
テキスト 養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護-すべての子供の健康実現を目指して-, 遠藤伸子ほか編著, 東山書房			
参考書・参考資料等 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第18版), 任和子ほか, 医学書院 基礎看護技術（第8版）, 阿曾洋子ほか, 医学書院 臨床看護セレクション11「小児在宅移行指導マニュアル」, 谷川睦子監, へるす出版			
学生に対する評価 筆記試験（70%）、講義への積極的参加態度（10%）、課題への取り組み（20%）から総合的に評価する。なお、結果の概ね6割を以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名： 看護学実習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤 伸子、秋月百合
			担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>看護学概説Ⅱで学習した看護技術について実習を通して修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体面の観察技術を習得し、収集した身体情報をアセスメントできる。 2. 保健室で用いる看護技術を習得できる。 3. 看護（処置）を受ける経験を通して、よりよい看護について考察できる。 			
授業の概要			
<p>初回に衛生的な環境を整備し、感染予防の基本となる手指衛生を習得する。その後は保健室で必須となる観察や救急処置時に実践する看護技術を体験的に学ぶ。最後に事例に応じて必要な看護技術を選択・実践する必要性を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業ガイダンス 生活環境の調整・環境整備（清掃、整頓）、手指衛生（手洗い・手指消毒）</p> <p>第2回：生活環境の調整と援助技術：ベッドメイキング</p> <p>第3回：観察（検診）の技術：1（バイタルサインの観察、視診、聴診ほか）</p> <p>第4回：巻法（あんぼう）：氷枕、氷嚢、冷湿布、保冷剤、湯たんぽ、温湿布等の取り扱い</p> <p>第5回：安全を守る技術（感染予防）、包帯法（1）： 傷の洗浄、傷の保護（衛生材料、絆創膏の取り扱い）、無菌操作</p> <p>第6回：包帯法（2）：三角巾および巻軸包帯の取り扱い</p> <p>第7回：観察（検診）の技術2：（視診、触診、聴診、各種検査ほか）</p> <p>第8回：統合実習（児童生徒の傷病に応じた処置・看護の実際） ・定期試験(実技試験)</p>			
テキスト			
<p>養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護-すべての子供の健康実現を目指して-, 遠藤伸子ほか編著, 東山書房</p>			
参考書・参考資料等			
<p>基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第18版), 任和子ほか, 医学書院</p> <p>基礎看護技術(第8版), 阿曾洋子ほか, 医学書院</p>			

学生に対する評価

実習への積極的な参加状況（10%）、毎回の実習レポートの内容および提出状況(60%)、最終試験（30%）の総計で評価する。その結果の概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする

。

授業科目名： 看護学実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤 伸子、秋月百合
			担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>看護学概説Ⅲで学習した看護技術について実習を通して修得する。</p> <p>1. 養護教諭として実践・指導しうる日常生活援助技術について習得する。</p> <p>2. 看護を受ける経験を通して、よりよい看護について考察できる。</p>			
授業の概要			
<p>児童生徒の病状や障がい、家族背景に応じて必要となる日常生活を支える技術を経験する。また、学校生活で自ら療養行動をとっていたり、医療的ケアを受けていたりする児童生徒の支援に必要な技術について理解を深める。最後に事例に応じて必要な看護技術を選択・実践する必要性を理解する。</p>			
授業計画			
第1回：安楽な体位の援助、移動の援助（1）：体位変換、歩行・松葉杖による移動の援助			
第2回：移動の援助（2）、生活環境の調整と援助技術(2)			
・車椅子による移動の援助 ・担架やストレッチャーを用いた移動の援助 ・シーツ交換			
第3回：食事の援助、清潔に対するニーズの充足と援助技術（1）：			
食事の援助、口腔の清潔援助			
第4回：排泄の援助：便器および尿器を用いた排泄の援助、多目的トイレでの排泄の支援			
（課題）紙おむつを用いた排泄体験			
第5回：清潔に対するニーズの充足と援助技術：汚染した皮膚の清拭・洗浄、更衣の援助			
第6回：医療的ケアに伴う支援：			
咽頭より手前の吸引、自己導尿の補助、経管栄養の注入、吸入時の支援			
第7回：まとめ1 生命を守る技術（心肺蘇生法、窒息の解錠、止血法など）			
第8回：まとめ2 対象の病状に応じた処置を実践し、評価考察する			
テキスト			
養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護-すべての子供の健康実現を目指して-, 遠藤伸子ほか編著, 東山書房			
参考書・参考資料等			
基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第18版), 任和子ほか, 医学書院			

基礎看護技術（第8版），阿曾洋子ほか，医学書院

臨床看護セクション11「小児在宅移行指導マニュアル」，谷川睦子監，へるす出版

学生に対する評価

実習への積極的な参加状況（10%）、毎回の実習レポートの内容や課題の提出状況(90%)を総合して評価する。その結果の概ね6割以上の成績を修めたものを合格とする。

授業科目名：臨床実習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3単位	担当教員名： 仲里仁史、秋月百合、佐藤伸子 担当形態：複数
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 疾病を持つ人の心身状態および入院生活を理解する</p> <p>(2) 疾病およびそれらに対する検査治療等医学的アプローチを理解する</p> <p>(3) 病院における看護の役割と具体的活動を理解する</p> <p>(4) 病院という場およびそれらとの連携のあり方を理解する</p> <p>(5) 上記の達成に伴い、養護教諭として必要な基本的技能を習得する</p>			
授業の概要			
<p>医療施設での臨地実習であり、講話および病棟実習から構成される。病棟実習は、二つの病棟で計2週間の実習を行う。講話は、看護部長、看護教育支援室看護師長、病棟実習を行う各病棟の看護師長による。</p>			
授業計画			
<p>事前事後指導、講話（1単位）は、12月～3月に熊本大学内または医療施設（熊本大学病院）にて行う。</p> <p>病棟実習（2単位）は、熊本大学病院の2つの病棟において、各1週間、計2週間行う。</p>			
テキスト			
配布資料			
<p>養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック、東山書房、中桐佐智子、岡田加奈子編著</p>			
参考書・参考資料等			
臨床実習要項			
看護学概説Ⅰ、看護学概説Ⅱ、看護学概説Ⅲ、看護学実習等の授業資料			
医学系科目の授業資料			
<p>養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護-すべての子供の健康実現を目指して-、遠藤伸子ほか編著、東山書房</p>			
学生に対する評価			
<p>実習目標の達成度、実習および講話への参加態度、レポート等提出物、これらから総合的に評価する。</p>			

授業科目名：臨床実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 仲里仁史、秋月百合、佐藤伸子 担当形態：複数
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 障がいを持つ子どもについて身体面、発達面、心理面、社会面から理解する</p> <p>(2) 障がいのある子どもへの療育について学ぶ</p> <p>(3) 障がいのある子どもに行われる看護（日常生活援助）について学ぶ</p> <p>(4) 障がいのある子どもの入所・通所施設および支援にあたる職員の役割を知る</p> <p>(5) 医療的ケアを受ける子どもの状態とケアの実際を知り、学校での保健管理の方法を考えることができる</p> <p>(6) 子どもを取り巻く支援者間の連携方法を学ぶ</p> <p>(7) 特別な支援を必要とする子どもを支援しようとする態度が醸成される</p>			
<p>授業の概要</p> <p>重症心身障がい児（者）施設において、施設の見学とオリエンテーション、専門家の講話ののち、入所・通所施設での実習を2日間行う。また、施設の利用者が受講する特別支援教育を見学する。これらにより、障がいのある子どもと療育支援、学校と医療福祉施設の連携等を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>(1) 事前指導（学内）3コマ</p> <p>(2) 重症心身障がい児（者）に関する講話 3コマ</p> <p>(3) 実習施設の見学およびオリエンテーション（半日）</p> <p>(4) 入所・通所施設実習（2日間）</p> <p>スタッフ（看護師ほか）による支援や療育を見学、または利用者との関わりを通して、障がいのある子どもの状態、発達、生活、ニーズなどを知り、学校での支援について考える。</p> <p>毎日のカンファレンスを通して、各実習場での学びをまとめ、疑問を解決するとともに、学生間で学びを共有する。また、最終カンファレンスでは、個人目標に沿って学びを総括する。</p> <p>(5) 施設利用者が受講する特別支援教育の見学 1・2時間</p>			
<p>テキスト</p> <p>配布資料</p> <p>養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック、東山書房、中桐佐智子、岡田加奈子編著</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>臨床実習要項</p>			

看護学概説Ⅰ、看護学概説Ⅱ、看護学概説Ⅲ、看護学実習等の授業資料

医学系科目の配布資料

養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護-すべての子供の健康実現を目指して-, 遠藤伸子ほか編著, 東山書房

学生に対する評価

実習目標の達成度、実習への参加態度、レポート等提出物、これらから総合的に評価する。

授業科目名： 教育実践フィールド演習 I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井 宏祐 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 配属校での様々な体験活動を通して教育への関心及び教職への意欲を高めることを目的とする。到達目標は以下のとおり。 ○子ども、学校、教師を知ることを通して、教職を目指す者としての自己理解を深める。			
授業の概要 配属校に3日間体験活動に行き、参与観察を行う。 グループで振り返りを行い、各自報告レポートを書き、気づきを共有する。			
授業計画 第1回：大学での事前指導（全体、担当教員別） 第2回：配属校での事前指導 第3回：配属校での体験活動①（1日目・午前①子どもの一日の始まり） 第4回：配属校での体験活動②（1日目・午前②子どもの授業中の姿（集団指導の視点）） 第5回：配属校での体験活動③（1日目・午後①子どもの授業中の姿（個別指導の視点）） 第6回：配属校での体験活動④（1日目・午後②子どもの休憩時間と放課後） 第7回：配属校での体験活動⑤（2日目・午前①教師の一日の始まり） 第8回：配属校での体験活動⑥（2日目・午前②教師のことば） 第9回：配属校での体験活動⑦（2日目・午後①教師の授業づくり） 第10回：配属校での体験活動⑧（2日目・午後②教師の休憩時間と放課後） 第11回：配属校での体験活動⑨（3日目・午前①学級づくりを知る） 第12回：配属校での体験活動⑩（3日目・午前②給食指導と清掃指導） 第13回：配属校での体験活動⑪（3日目・午後①配慮が必要な子どもの対応） 第14回：配属校での体験活動⑫（3日目・午後②記録と振り返り） 第15回：大学での事後指導			
テキスト 適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			

学生に対する評価

配属校の教員の評価及び報告レポートによる評価。

授業科目名： 教育実践フィールド演 習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 達富 洋二 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ： 授業づくりに必要な実践的知識・技能を修得するため、1 単位時間の授業づくりの課題に取り組む。到達目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題に応じた適切な学習指導案を作成できる。 ②前後の授業とのつながりや単元・題材の計画における位置づけを踏まえて適切な授業を考案することができる。 ③課題に応じた効果的な資料・教具を作成できる。 ④児童・生徒の実態を理解するとともに、実態に応じた授業をつくることができる。 ⑤ 課題に応じた効果的な発問・指示計画、板書計画、机間指導計画、ノート指導計画等を作成できるとともに、それらの技能を効果的に活用した模擬授業を実施できる。 ⑥模擬授業を客観的にふり返し、改善策を考案できる。 ⑦教育実習に向けて責任をもって課題に取り組むことができる。 ⑧授業を中心とする教育実践に関する問題意識を深めるとともに、教職への意欲を高める。 			
<p>授業の概要</p> <p>1 単位時間の授業づくりに関する課題に個人で取り組む。学習指導要領や教科書、先行の授業実践を検討し、課題に応じた学習指導案、授業で用いる資料や教具等を作成して模擬授業を行い、授業改善を重ねる。作成した学習指導案等によって教育実習において実地授業を行い、その成果と課題及び具体的改善案について個人でリフレクションレポートにまとめる。また、これらの活動を通し、小学校・中学校教育実践に関する問題意識と教職への意欲を高め、卒業研究につながる積極的な態度を培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：フィールド演習Ⅱ（個人課題）の実施計画について</p> <p>第2回：小学校におけるそれぞれの教科の授業実践の分析</p> <p>第3回：中学校におけるそれぞれの教科の授業実践の分析</p> <p>第4回：単元づくりや授業づくりの課題について</p> <p>第5回：単元づくりの構想</p> <p>第6回：授業づくりの構想</p> <p>第7回：授業観察（実習校）</p>			

第8回：実習校での課題説明

第9回：学習指導案・学習計画の概要の理解

第10回：学習指導案の作成

第11回：学習計画の作成

第12回：模擬授業の実施

第13回：模擬授業のリフレクションと総括

第14回：実習校における学習指導案の指導

第15回：学習指導案・学習計画の改善

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2008）

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」東洋館出版（2008）

中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

①作成した学習指導案、教具等 25%

②模擬授業 25%

③教育実践フィールド演習Ⅲノート 25%

④学修態度（協調性や自主性など） 25%

授業科目名： 熊本・学びの最前線 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 浩継、大塚 芳生、 前田 康裕 担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校現場でも活用できるプレゼンテーションに関する知識・技能の獲得をして、実際に活用できる力を修得できる。			
授業の概要 児童・生徒が効果的に情報活用能力を身につけるために教員として必要な技能・考え方の基礎概念を学習する。			
授業計画 第1回：本授業の概要説明と情報機器の基本操作の学習（担当：田口 浩継） 第2回：ネットの情報からポスターに必要な要件を調べてスライドにまとめる（担当：田口 浩継） 第3回：プレゼンテーション：パフォーマンス評価（担当：田口 浩継） 第4回：情報の収集：構想を練り熊本大学の写真を撮影（担当：前田 康裕） 第5回：撮影した写真を元にKeynoteを使ってポスターを完成（担当：前田 康裕） 第6回：テキストとコンテキスト、情報とデジタルデータの特性理解（担当：前田 康裕） 第7回：教科書を元にKeynoteとiMovieを使って動画教材の構想（担当：前田 康裕） 第8回：教科書を元にストーリーボードの作成（担当：前田 康裕） 第9回：教科書を元にKeynoteとiMovieを使った動画の撮影（担当：前田 康裕） 第10回：教科書を元にKeynoteとiMovieを使った動画の編集（担当：前田 康裕） 第11回：発表と相互評価（担当：前田 康裕） 第12回：スクラッチの基礎の学習とロボット（スフィロボルト）の操作方法（担当：大塚 芳生） 第13回：ロボット（スフィロボルト）の動画の撮影（担当：大塚 芳生） 第14回：ロボット（スフィロボルト）の動画の編集（担当：大塚 芳生） 第15回：作品の発表とまとめ、本授業の学習の総括（担当：大塚 芳生）			
テキスト テキストを配布します			
参考書・参考資料等 熊本大学教育学部情報教育研究会：イラストでつかむ 子どもに「学習プレゼン能力」を育てるノウ			

ハウ、明治図書、2002.

学生に対する評価

- ・ A水準（到達すれば「優」に相当）

ICTに関する知識と技能を修得し、学校現場で情報機器を用いて授業を行い、新たな視点からICT教育の存在意義について考察することができる。

- ・ C水準（到達すれば「可」に相当）

ICTに関する知識と技能を修得し、学校現場で情報機器を用いて授業を行うことができる。

授業科目名： 幼小連携・小中連携教育論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 名倉 一美、成松 美枝、石井 宏祐、栗山 裕至、達富 洋二、大林 将呉、中西 雪夫 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 小1 プロブレムや中1 ギャップなどの問題に対応できる教員としての資質・能力を修得するため、各発達段階の特徴や幼小連携教育、小中連携教育の課題と取組み事例等について理解するとともに、連携教育への問題意識を深め、教職への意欲を高める。			
授業の概要 前半は幼小連携教育の実態や課題について、教育制度、発達心理、認識論の視点から考察をする。後半は教科で異なる小中連携教育の実態や課題について考察するとともに、小中連携教育の展望について考察をする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（全員） 第2回：幼小連携とは何か（名倉 一美） 第3回：教育制度や教育行政から見た幼小連携（1）（成松 美枝） 第4回：教育制度や教育行政から見た幼小連携（2）（成松 美枝） 第5回：心の発達と人間関係から見た幼小連携（1）（石井 宏祐） 第6回：心の発達と人間関係から見た幼小連携（2）（石井 宏祐） 第7回：幼児の認識と遊び、小学校の教科学習と幼小連携（1）（栗山 裕至） 第8回：幼児の認識と遊び、小学校の教科学習と幼小連携（2）（栗山 裕至） 第9回：文系教科における小中連携の課題（達富 洋二） 第10回 文系教科における小中連携教育の在り方（達富 洋二） 第11回 理系教科における小中連携の課題（大林 将呉） 第12回 理系教科における小中連携教育の在り方（大林 将呉） 第13回 実技系教科における小中連携の課題（中西 雪夫） 第14回 実技系教科における小中連携教育の在り方（中西 雪夫） 第15回 小中連携教育のこれから（達富洋二・大林将呉・中西雪夫） 定期試験なし			
テキスト			

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

各授業における演習への取組み状況（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。

授業科目名： LD等学習指導法 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のため の 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高 茂暢
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
開講意図			
<p>学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害の心理・発達の特性を正しくとらえていくとともに、教育的アプローチに必要とされる心理的側面を理解しながら、根拠ある支援のあり方を学ぶことができるようにする。</p>			
到達目標			
<p>学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害の学習面、心理面、行動面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、その効果的な指導法や支援、配慮について理解する。</p>			
授業の概要：			
<p>学習や行動上の困難があり、支援を必要とする通常学級に在籍する児童生徒は8.8%にのぼり、通常学級において特別支援教育を行う事が当然の時代になっている。本講義では、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害や関連する実態のある子どもの理解を深め、アセスメントの方法、学級経営上の配慮や指導上の工夫の基礎を学ぶことを目標とする。また講義内容に応じて、ペアワーク・グループワークやICT機器を用いたアンケート等を適宜行う。</p>			
授業計画			
第1回：普通学校における特別支援教育のいま			
第2回：発達障害概論（LD、ADHD、ASD、DCD、境界知能）			
第3回：発達障害のある子どもの心理的疑似体験			
第4回：ユニバーサル・デザインの授業作り			
第5回：読みのアセスメント法			
第6回：書きのアセスメント法			
第7回：学習障害等のある子どもの読み書き指導			
第8回：読解の困難とその指導法			
第9回：学習障害等のある子どもの英語、計算・推論の指導			
第10回：ADHD等のある子どもの不注意による課題と指導			

第11回：自閉スペクトラム症等のある子どもの社会性の困難と指導

第12回：自閉スペクトラム症特性に合わせた環境調整

第13回：個別の指導計画の立案と実施

第14回：通級指導教室の指導と実際

第15回：発達障害のある子どもの支援と居場所論

定期試験

テキスト

配布資料に基づいて講義を進める。

参考書・参考資料等

勝二博亮ら「知的障害児の心理・生理・病理（第2版）エビデンスに基づく特別支援教育のために」北大路出版（2023）

村井敏宏・山田充「誤り分析で始める！学びにくい子への「国語・算数」つまずきサポート」明治図書（2015）

山田充「通級指導教室の実践 アセスメントから指導まで」かもがわ出版（2024）

栗本奈緒子「国語・算数の初歩でつまずく子への教え方と教材-個別でもみんなの中でも教えられる！」学研プラス（2020）

岡田智・田中康雄「暗黙のルールが身につく ソーシャルスキルトレーニング(SST)カード教材集」ナツメ社（2016）

岡田智ら「特別支援教育をサポートする ソーシャルスキルトレーニング(SST)実践教材集」ナツメ社（2014）

室橋春光・山下公司「発達障害のある子を読み解くワークショップ型事例研究 「アセスメント」研修のための課題20」明治図書（2023）

学生に対する評価：定期試験に基づいて評価する。なお、3分の1（5回）以上欠席した者は定期試験の受験資格を失う。

授業科目名： 大学生の道徳・倫理 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 足立佳菜 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳は「自己の生き方・あり方」「人間としての生き方・あり方」を問うものであり、小中学校段階の「特別の教科 道徳」での学びに閉じるものではない。知識の伝達者としてではなく学びの支援者・学びの専門家としての教師像が求められていることも鑑みれば、教師自身が道徳的問いを考え続ける力や態度、生活や社会に溢れる道徳的・倫理的問いを身近なものとして捉えることのできる力は教師の力量として不可欠である。そこで本授業では、小中学校の「道徳」の内容理解の深化をねらうとともに、これを発展させ、大学生自身が対峙する道徳的問いを個と協働で探求しながら道徳学習当事者としての態度を身につけることをねらいとする。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「特別の教科 道徳」で扱われている内容項目を、一定程度説明することができる。 ② 道徳的発達・成長のあり方について、長期的視点で捉えることができる。 ③ 幅広い道徳に関する現代的課題を自分事として捉え、その課題の持つ意味・意義を自分なりの言葉で表現することができる。 ④ 道徳学習当事者として自分自身の道徳的課題を見つけ、一定の知識や情報を基盤としながら、これらを論理的に説明することができる。 ⑤ 本授業における自身の学びを振り返り、自身にとって重要な変容点を分析、言語化することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、教職の学びとして「特別の教科 道徳」の内容理解を深めることと、一人の人間として道徳学習当事者としての態度形成を図ることの2側面をねらいとする。授業は講義形式による知識習得だけでなく、個々の調べ学習やグループ学習によるワーク形式など多様な学習形態で学びを深めるため、協働的学びへの積極参加を求める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、学習課題の確認</p> <p>第2回：道徳性の発達・成長—大学生の位置づけ</p> <p>第3回：「特別の教科 道徳」の内容項目（道徳的価値）</p> <p>第4回：道徳的問いのシェアと対話【グループワーク】</p> <p>第5回：道徳・倫理に関する現代的課題<概論></p>			

第6回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論①—ダイバーシティ&インクルージョン＞
 第7回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論②—生命倫理と科学技術、世代間倫理＞
 第8回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論③—不寛容社会＞
 第9回：社会課題と自己の接続
 第10回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論④—（受講生アンケートにより設定）＞
 第11回：大学生による道徳・倫理の「問い」づくり【グループワーク】
 第12回：大学生による道徳・倫理の「問い」づくり【グループワーク】
 第13回：大学生による道徳・倫理の「問い」【全体共有】
 第14回：大学生による道徳・倫理の「問い」への解説・補足
 第15回：ミニテスト（重要語句確認）と学びのふり返り【ワーク】
 学期末レポート

テキスト

なし

参考書・参考資料等

適宜授業内で紹介する。

学生に対する評価

- A. レポート【50%】…到達目標③④⑤
 - B. グループ課題の作成・発表【20%】…到達目標③④
 - C. ミニテスト【10%】…到達目標①②
 - D. コメントペーパー【15%】…到達目標⑤
 - E. その他各種提出物【5%】
- ・A～E各項目においてそれぞれ60%に満たない場合は不可とする。
 - ・3分の2以上出席しなければ、最終課題の提出資格を失う。

授業科目名： 教育統計 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西郡 大 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 1. 記述統計について正しく理解する 2. 統計的仮説検定の論理を理解し、具体的な検定のやり方を習得する 3. 教育活動において適切な統計手法を選択し、活用することができる			
授業の概要 教育における統計的考え方の必要性を理解し、社会科学の諸領域で用いられる統計的手法のうち基礎的なものを習得する。また、具体的な課題に対して、その数量的な把握と統計的な検討から適切な解決を導く基礎的な力を身につける。			
授業計画 第1回：教育分野における統計の意義 第2回：データ整理に必要な平均と割合，グラフの作成 第3回：学力検査の分析に必要な統計指標①（度数分布，ヒストグラム，代表値） 第4回：学力検査の分析に必要な統計指標②（四分位数，箱ひげ図，分散，標準偏差，歪度，尖度） 第5回：変数の変換：変数の線形変換と標準化，偏差値 第6回：2変数の関係性：共分散，ピアソンの相関係数 第7回：回帰分析（回帰式の性質） 第8回：学力検査の信頼性・妥当性，教育場面で活用される尺度水準 第9回：質的変数を用いた分析（スピアマンの相関係数，クロス表分析， ϕ 係数，クラメールの連関係数） 第10回：推測統計の考え方（2項分布，正規分布） 第11回：標本分布，推定と推定量，不偏性 第12回：統計的仮説検定の基礎 第13回：統計的仮説検定の演習 第14回：学校教育に関わるデータを用いた総合分析演習 第15回：まとめと小テスト（最終課題） 定期試験なし			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			

- ・ 『心理統計の技法』（渡辺洋著）福村出版
- ・ 『心理統計学の基礎』（南風原朝和著）有斐閣アルマ
- ・ 『本当に分かりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』（吉田寿夫著）北大路書房
- ・ 『統計分析のここが知りたい』（石井秀宗著）文光堂
- ・ 『すぐわかる統計解析』（石村貞夫著）東京図書

学生に対する評価

- [1] 平常点（毎回の課題）：50点・・・（到達目標1）
- [2] 中間小テスト：20点・・・（到達目標2）
- [3] 最終課題：30点・・・（到達目標3）

※ 平常点は、授業への参加状況、講義の最後に行う小レポート、課題提出の状況などを対象とする。

授業科目名：教育評価 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高崎 文子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 指導と評価の一体化という考え方を理解し、評価を教育実践に活かす具体的な方法を考えることができる			
授業の概要 教育評価の目的を問い直し、その歴史的な位置づけや機能や様々な評価方法の特徴について解説し、教育実践において評価を用いる意義や適切な評価方法について解説する			
授業計画 第1回：評価の経験と評価観 第2回：評価の目的 第3回：評価の歴史：戦前までの評価のあり方 第4回：評価の歴史：戦後における教育評価の変遷 第5回：評価の手法 第6回：評価の記録 第7回：評価のタイミング 第8回：評価のキジュン 第9回：ルーブリックを用いた評価 第10回：主体性の評価 第11回：適切な評価方法の選択 第12回：自己評価・相互評価 第13回：評価と学習意欲 第14回：評価の影響と個人差 第15回：全体のまとめ 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 「教育評価」梶田叡一著 有斐閣双書			

「よくわかる教育評価」田中耕治編 ミネルヴァ書房

「2019年改訂新学習指導要領と『資質・能力』をはぐくむ評価」市川伸一編著 ぎょうせい

学生に対する評価

論述試験を実施する。講義で学んだ知識をもとに、評価の目的とその適切な使い方について考え、評価実践について独自の考察を深めることを到達基準とする。

授業科目名： 人権教育論 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 苦野 一徳 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 以下のさまざまな観点から、現代日本の人権問題について考えながら、21世紀の人権教育及び共生社会のあり方を考える。			
授業の概要 ①人権の原理を知る、②人間の性と人権について知る、③定住外国人の人権について知る、④ハラスメントについて知る、⑤子どもの権利について知る。多様なゲスト・スピーカーを迎え、より具体的、実践的に人権教育について考えることができるようにする。			
授業計画 第1回：人権とは何か（1）（人権の哲学の歴史について） 第2回：人権とは何か（2）（価値人権論について） 第3回：人権とは何か（3）（ルール的人権論について） 第4回：人間の性と人権（1）（SOGIあるいはLGBTIQの基礎知識を知り、自己のセクシュアリティを振り返る） 第5回：人間の性と人権（2）（差別と解放の歴史について） 第6回：人間の性と人権（3）（LGBTの現状と課題について） 第7回：熊本の定住外国人に対する民間の支援について（コムスタカ～外国人と共に生きる会～の取り組み） 第8回：外国にルーツを持つ子どもたちの現状について（日本語習得の課題について） 第9回：熊本の定住外国人に対する生活支援について（熊本市国際交流事業団の取り組み） 第10回：相談窓口から見える身近な暴力・ハラスメント（1）（私的な場での支配～DV・デートDV・子ども虐待を考える） 第11回：相談窓口から見える身近な暴力・ハラスメント（2）（公的な場での支配～セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントを考える） 第12回：相談窓口から見える身近な暴力・ハラスメント（3）（最も見えづらい支配～モラルハラスメントを考える） 第13回：子どもの人権をめぐる諸問題（児童虐待・体罰・いじめ・不登校・「貧困」、「競争主義的な教育制度」など、子どもを苦しめている権利侵害の今日的諸問題を取り上げ、その背			

景や要因を考える。)

第14回：子どもの権利とは何か（「子どもの権利条約」と新しい子ども観（「子どもの権利条約」が生まれた歴史的意義をふまえながら、権利の行使主体としての子ども観とはどういうものかを、第12条「意見表明権」を切り口として学ぶ。）

第15回：子どもを支える社会と教育（子どもの命と人権を守るための「子どもオンブズパーソン」「チャイルドライン」などの取り組みのほか、条約の第15条（仲間と自治）や第31条（ゆとりと遊び・文化）の権利を豊かに発展させる地域や学校の実践に注目する。最後に、子ども自身の問題を含む人権教育の課題を確認する。）

定期試験は実施しない。

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

金泰明『人権は二つの顔を持つ』トランスビュー、2015年。

学生に対する評価

授業終了までの5回のレポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 教職保健 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼久美子、秋 月百合、長谷真 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 学級担任や教科担任として、成長発達期にある子どもの保健管理について説明できる。</p> <p>② 学校における健康教育を行う上で必要な知識を科学的に説明できる。</p> <p>③ 養護教諭や栄養教諭等と連携した健康教育を考えることができる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、学校保健および学校安全に関する法律や制度の概要、子どもの心身の健康の保持増進および健康や安全に関する医学的知識や情報、さらに健康安全に関する具体的かつ効果的な指導法や現代的健康課題への対応など、学校保健・学校安全に関する知識の修得とその活用を目指した授業実践や事例検討を行う。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（本授業の概要説明）（担当：大沼）			
第2回：学校保健の法制度（学校保健安全法の概要）（担当：大沼）			
第3回：学校保健及び学校安全について（担当：大沼）			
第4回：母子保健統計(担当：長谷)			
第5回：学校保健統計（担当：長谷）			
第6回：こどもの成長・発達(担当：大沼)			
第7回：学校で起こりやすい傷病とその対応（保健管理について）（担当：大沼）			
第8回：早期発見が極めて重要な思春期以降に増加する疾患群(担当：大沼)			
第9回：教員に必要な健康観察の視点と方法（担当：大沼）			
第10回：学校で行う応急手当（担当：大沼）			
第11回：思春期の性行動（担当：秋月）			
第12回：思春期・青年期の性と生殖の健康課題(担当：秋月)			
第13回：保健室の機能および養護教諭や栄養教諭等との連携（担当：大沼）			
第14回：学校における保健教育について（担当：大沼）			
第15回：振り返りとまとめ(担当：大沼)			
テキスト			

特になし

参考書・参考資料等

新訂版・学校保健実務必携(第一法規)

学生に対する評価

評価は各担当教員が示す課題レポート等の評価を総合したものである。

①事前学習、授業への積極的参加度、事後学習 (30%)

②レポート内容が講義の目標と講師の課題・意図と概ね合致する (70%)

授業科目名： 学校経営学 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 波多江 俊介 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>達成目標は、知識面では制度の仕組みや課題に関する事柄を理解し、自身で説明できるレベルへの到達を目標とする。実践面では、地域や家庭、関連機関との連携を可能にする要素を理解することや、判例等を読んで安全に配慮した教育指導計画が作成できる等、教育活動を行う上で適切な判断ができる力の修得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の3点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション：自身の教育体験を振り返る</p> <p>第2回：教育行政制度の変遷にみる教育委員会の業務</p> <p>第3回：公教育の原理と理念：「学校」に関する法規</p> <p>第4回：学校教育と政治</p> <p>第5回：学校教育と宗教</p> <p>第6回：子どもの教育を受ける権利：子どもの貧困と公教育の使命</p> <p>第7回：子どもの教育を受ける権利：権利条約からインクルーシブ教育まで</p> <p>第8回：学級経営上の課題と効果的な学級経営の方法</p> <p>第9回：学校保健安全：学校管理下における事故と予防・対応策</p> <p>第10回：災害下の学校安全：リスクマネジメントの視点から</p> <p>第11回：保護者・地域との連携の必要性：連携に関する諸制度の導入背景から実態まで</p> <p>第12回：公教育に関する教育関係の法体系のまとめ</p> <p>第13回：効果的な学校経営の運用実態と課題</p>			

第14回：教育関連法制度の問題点：制度の逆機能等

第15回：まとめ：近年の教育政策動向のおさらい

定期試験

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』2018年。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（100%）

授業科目名：道徳教育 の理論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（小学校、中学校、養 護） 選択科目（幼稚園、高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 伸和 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間との指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（小学校、中学校、養護） 大学が独自に設定する科目（幼稚園、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（小学校、中学校） 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容（養護）		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 ・ 日本の戦前・戦後の道徳教育を比較し、その変遷と課題を説明できる。 ・ 現代社会における道徳教育の課題として、いじめ、情報モラル、生命倫理、SDGsなどを例に挙げ、その問題点と解決策について議論できる。 ・ 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 ・ 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 ・ 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 ・ 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 			
授業の概要 <p>本授業科目は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定める「道徳の理論及び指導法」にあたり、学習指導要領に掲げる事項に即した内容について取り扱う。主な内容については以下の通りである。</p> <p>まず、道徳とは何かという基本的な問題について、印欧語族や日本語の「道徳」の語源に基づき、その意味や歴史的変遷を考察する。また、倫理学、心理学、社会学などの学問分野における道徳の捉え方について概説し、多角的な視点から道徳の本質に迫る。道徳教育の歴史については、日本の戦前と戦後の道徳教育を比較しつつ、その問題点を論じる。また現代的な課題については、生命倫理やSDGs、社会参画や情報化への対応等を検討する。道徳性の発達理論については、他律から自律へと至る過程について理解するため、ピアジェやフロイト等、種々の学説を取りあげる。道徳教育の目標・内容については、「よりよく生きる」ことについて中心に論じるとともに、道徳の内容項目における重要な概念を考究する。道徳教育の全体計画および道徳科の年間指導計画については、熊本市の事例をもとに、その内容と留意点を考察する。道徳科の評価については、基本的な考え方、評価の観点について検討する。</p>			
授業計画 第1回：道徳教育の意義と目的			

第2回：道徳教育の歴史

第3回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル、生命倫理、SDGs等）

第4回：子どもの発達と道徳性

第5回：学習指導要領と道徳教育

第6回：道徳教育の指導計画

第7回：教育活動全体を通じた道徳教育

第8回：道徳科の評価

レポート試験

テキスト

教科書は使用しない。適宜、レジュメ・資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説——特別の教科 道徳編』

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説——特別の教科 道徳編』

学生に対する評価

レポート試験（80%）、毎回授業中に提出する小レポート（20%）。それぞれの評価基準は以下のとおり。

- ・問題についての論理的で一貫した解決策を提示し、創造的な論述であると評価できる（90～100点）。
- ・新しい方向性や別の考え方を組み入れている（80～89点）。講義の内容を主体的に受け取り直し、自分なりの考えをわずかに含んで論述されている（70～79点）。
- ・講義内容の再現ができている（60～69点）。

授業科目名： 道徳教育の実践 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（小学校、中学校、養 護） 選択科目（幼稚園、高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名：足立 佳菜 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間との指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（小学校、中学校、養護） 大学が独自に設定する科目（幼稚園、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（小学校、中学校） 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容（養護）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、道徳教育を多面的に考える力、道徳授業を構想し改善する力、社会にあふれる 道徳的な問いに気づく力を修得し、自身の道徳観・道徳教育観の基盤を形成することを目的と し、以下の4点を到達目標とする。 ① 現代教育、道徳教育の方向性や諸課題を踏まえ、これからの子どもたちに育みたい道徳に関す る資質能力およびそれを育成する道徳授業に必要な要素を自分の言葉で説明できる。 ② 道徳の諸授業論を踏まえながら、基本的な学習指導案を作成することができる。 ③ 他者の学習指導案と比較検討したり他者からのレビューを踏まえて自身の学習指導案を分析し 、改善の視点を獲得することができる。 ④ 道徳教育に関する自身の学びを振り返り、自身にとって重要な変容点を分析、言語化すること ができる。			
授業の概要 本授業は、道徳・道徳教育に関する基礎的理解を踏まえたうえで、多様な道徳授業論・指導 法を学習し、道徳の学びとは何かという問いを軸にしながら道徳の実践方法の幅広さを学ぶ。 これらの知識理解の基、道徳授業の指導案作成やグループワーク・ピアレビューなどの協働的 な学びを通して、授業計画を吟味し改善する多様な視点を獲得。			
授業計画 第1回：授業目的・学習課題の確認、道徳・道徳教育の基礎的理解の確認 第2回：道徳教育・道徳科の目標、現代的動向と教師の役割 第3回：道徳科の方法①—指導法の見方・考え方と各種授業論 第4回：道徳科の方法②—代表的指導法の比較演習、発問 第5回：学習指導案の検討 第6回：グループ別模擬授業（学習指導案の発表） 第7回：学習指導案・模擬授業の解説と振り返り 第8回：筆記試験および学習の振り返り 学期末レポート			

テキスト

小学校／中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 *主免に合わせる

参考書・参考資料等

荒木寿友(2017)『ゼロから学べる道徳科授業づくり』明治図書

吉田誠・木原一彰(2018)『道徳科 初めての授業づくり -ねらいの8類型による分析と探究-』大学教育出版

学生に対する評価

A. 授業内筆記試験【10%】 …到達目標①

B. レポート【40%】 …到達目標①④

C. 指導案の作成・発表・点検【30%】 …到達目標②③

D. コメントペーパー、その他各種提出物、ワーク等の授業内活動【20%】 …到達目標①④

・ A～D各項目においてそれぞれ60%に満たない場合は不可とする。

・ 3分の2以上出席しなければ、筆記試験やレポート提出の資格を失う。

免許法施行規則第66条の6に定める科目：シラバス

授業科目名： 暮らしの中の憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳永 達哉 他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法は、個人の尊重を前提とする人権の保障を中心的価値とし、人権保障に最善とされる形に統治機構を構成しているとされるが、現実には多くの人権侵害など問題がある。本授業では、学生が日本国憲法の基本的な原理を理解し、現代社会の諸問題について憲法の基本的な知識を踏まえながら論理的に考えることができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>統治機構と人権論の基礎的問題を押さえた上で、日本国憲法の保障する個別具体的な人権の保障の現状について概観する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、法とは何か？</p> <p>第2回：憲法とは何か？</p> <p>第3回：国会の役割</p> <p>第4回：行政と裁判所の役割</p> <p>第5回：象徴天皇制と平和主義</p> <p>第6回：人権の意義</p> <p>第7回：どんな人権があるか（日本国憲法の保障する権利）概観</p> <p>第8回：個人の尊重、幸福追求権</p> <p>第9回：法の下での平等</p> <p>第10回：思想・良心の自由</p> <p>第11回：信教の自由・政教分離</p> <p>第12回：表現の自由</p> <p>第13回：社会権（生存権的人権）</p> <p>第14回：参政権（政治過程への参加権）</p> <p>第15回：講義のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>事前に配布するレジュメに基づき講義します。また、なんらかの六法をもって出席していることが望ましい。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>1. 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第8版）』岩波書店、2023年 これ以外の参考文献は、講義の中で紹介します。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>原則として試験によって評価を行います（試験：100%）。ただし、授業中にレポートや小テスト等を課した場合、評価に加味する場合があります。</p>			

授業科目名： 体育・スポーツ科学 a	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：井福裕俊、 大石康晴、伊藤雅浩、 末永祐介、坂本将基 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：体育・スポーツ科学の理論と実践</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの理論（歴史・施設・用具・ルール・戦術など）を個人ならびに対人種目を通して理解する。 2) 技術学習の計画を立案し、実践できるようになる。 3) 健康の維持増進に関する理解を深める 4) 予防医学としての運動療法や処方を理解する。 			
授業の概要			
<p>本授業は、実技と講義を交えて実施する。実技では、主に個人種目や対人種目を教材として扱い、それぞれの種目における技能の習得を目指すとともに、スポーツの意義や楽しさを学び、生涯にわたって運動を継続するための資質を養う。講義では、健康の維持増進に関する内容（特に、加齢や生活活動量の低下による生体機能の変化と生活習慣病との関り）を学び、予防医学の観点から運動の生理的効果を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、コース選択</p> <p>第2回：実技（個人および対人種目の基礎）</p> <p>第3回：実技（個人および対人種目の応用）</p> <p>第4回：講義（生体機能の基礎）</p> <p>第5回：講義（生活習慣病と運動）</p> <p>第6回：実技（個人および対人種目におけるゲーム展開の基礎）</p> <p>第7回：実技（個人および対人種目におけるゲーム展開の応用）</p> <p>第8回：講義（予防医学としての運動）</p>			
テキスト			
使用しない。必要に応じて資料を配布する			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業中に紹介する。			
学生に対する評価			
授業への取組み（40%）、技能の向上（20%）、課題への取組み（40%）から評価する。			

授業科目名： 体育・スポーツ科学b	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：井福裕俊、 大石康晴、伊藤雅浩、 末永祐介、坂本将基
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：体育・スポーツ科学の理論と実践</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの理論（歴史・施設・用具・ルール・戦術など）を集団種目を通して理解する。 2) 技術学習についての高度な計画を立案し、実践できるようになる。 3) 健康の維持増進に関する方法を習得する。 4) 予防医学としての運動療法や処方を習得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、実技と講義を交えて実施する。実技では、主に集団種目を教材として扱い、それぞれの種目における技能の習得を目指すとともに、スポーツの意義や楽しさを理解し、生涯にわたって運動を継続するための資質を養う。講義では、生活習慣の悪化と身体の適応、およびこれに関連する各種疾患について学び、適切な運動療法および処方の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、コース選択</p> <p>第2回：実技（集団種目の基礎）</p> <p>第3回：実技（集団種目の応用）</p> <p>第4回：講義（生体機能の応用）</p> <p>第5回：講義（生活習慣と身体の適応）</p> <p>第6回：講義（運動療法と運動処方）</p> <p>第7回：実技（集団種目におけるゲームの基礎）</p> <p>第8回：実技（集団種目におけるゲームの応用）</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。必要に応じて資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取組み（40%）、技能の向上（20%）、課題への取組み（40%）から評価する。</p>			

免許法施行規則第66条の6に定める科目：シラバス

授業科目名： 英語A-1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：イアン・アイズ マンガー 他 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める規則		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「話すこと」を中心に英語による基礎的なコミュニケーション能力を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス及びオリエンテーション</p> <p>第2回：英語の発音に関する諸領域(リズム、イントネーションや音声変化など)の理解と聞き取り</p> <p>第3回：文脈に応じた語彙や表現の意味及び文構造の理解と聞き取り</p> <p>第4回：広範な話題に関して話されることの概要や要点の理解</p> <p>第5回：自分が求める必要な情報の聞き取り</p> <p>第6回：言語の使用場面に注意し、話されている内容や相手の意図の確認</p> <p>第7回：英文の概要や要点の理解</p> <p>第8回：第7回までの内容をベースにした英語による基礎的なコミュニケーション活動の実践</p> <p>第9回：文脈に応じた語彙や表現の意味</p> <p>第10回：文脈に応じた文構造の理解</p> <p>第11回：段落の構成の理解</p> <p>第12回：主要な考えやサポートする考え、また具体例の区別</p> <p>第13回：第12回までの内容をベースにした英語によるコミュニケーション活動の応用</p> <p>第14回：辞書や文法書などを適切に使い、英文を理解する</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「一年次英語A・B使用教科書一覧」を参照のこと。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各授業で指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の取り組み、小テスト(40%)、定期試験(60%)で評価する。</p>			

免許法施行規則第66条の6に定める科目：シラバス

授業科目名： 英語A-2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：村里 泰昭 他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取ろうとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」を中心に英語による基礎的なコミュニケーション能力を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス及びオリエンテーション 第2回：英語の発音に関する諸領域（リズム、イントネーションや音声変化など）の理解と聞き取り 第3回：文脈に応じた語彙や表現の意味の理解と聞き取り 第4回：話されることの概要や要点の理解 第5回：話されることの概要や要点の聞き取り 第6回：求められた必要な情報の聞き取り 第7回：第7回までの内容をベースにした英語による基礎的なコミュニケーション活動の実践 第8回：言語の使用場面に注意し、話されている内容や相手の意図の理解 第9回：言語の使用場面に注意し、相手への質問及び確認 第10回：背景知識を適切に「聞くこと」へ活用 第11回：英語を「聞くこと」で学んだことを「話すこと」に応用 第12回：英語を「聞くこと」で学んだことを「書くこと」に応用 第13回：その他「聞くこと」に関する活動へ取り組む 第14回：第13回までの内容をベースにした英語によるコミュニケーション活動の応用 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「一年次英語A・B使用教科書一覧」を参照のこと。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各授業で指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の取り組み、小テスト（40%）、定期試験（60%）で評価する。</p>			

免許法施行規則第66条の6に定める科目：シラバス

授業科目名： ICTリテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 戸田真志、武蔵泰雄、久保田 真一郎、右田雅裕
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
大学生生活に必要なITスキルを身につけるとともに、ネットワーク社会で生きて行くための情報の収集・作成の基礎を修得することを到達目標とする。			
授業の概要			
大学生生活に必要なITスキルとして、パスワードの取り扱いを始めとする情報セキュリティの基礎や電子メール等のオンラインコミュニケーションにおけるネチケット、検索エンジン等用いた情報収集、著作権・知的財産権を理解した上での引用を学び、構造化された文書を作成する能力を身につける。また、情報セキュリティ・法律・情報倫理についても学ぶ。			
授業計画			
第1回：ICTリテラシー科目で目指すもの			
第2回：パソコンで使用する用語やその操作およびWeb検索			
第3回：ネットワークセキュリティと情報倫理			
第4回：ブロック課題とその提出方法について			
第5回：ワードプロセッサ			
第6回：ワードプロセッサによるレポート作成			
第7回：スプレッドシート			
第8回：スプレッドシート応用			
第9回：スプレッドシート総合演習			
第10回：ドロー			
第11回：プレゼンテーション			
第12回：プレゼンテーションスライドに表またはグラフを掲載する			
第13回：ICT活用（生成AI、ショートカット、圧縮、キャッシュ）			
第14回：相互評価			
第15回：振り返り			
テキスト			
Moodleにて独自に作成したテキスト（電子版）を配付する。			
参考書・参考資料等			

免許法施行規則第66条の6に定める科目：シラバス

必要に応じて適宜指示する。

学生に対する評価

講義課題の作成内容を11%、情報倫理に係るテストの成績を9%、総合課題の作成内容を80%の割合で評価する。総合評価で60点以上が合格である。

授業科目名： 教育原理A（理念及び思想） 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 苫野一徳 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
そもそも教育とは何か、どうあれば「よい」と言いうるかについて、哲学的・歴史的観点から考察・解明を行い、教育の実践や構想を原理的に力強く行っていく教員の養成を目指す。			
授業の概要			
そもそも教育とは何か、学校は何のためにあるのか、どのような教育であれば「よい」と言いうるか、教師は何のために存在し、どうあれば「よい」と言いうるか。本授業では、このような原理的、本質的問いに答え抜くことを通して、受講者の皆さんの教育観を数段深めることに寄与したいと思う。教育の古典的名著から、現代の最先端の教育実践まで、大量の情報のシャワーを浴びてもらいながら、自分がこれまでに受けてきた、当たり前だと思っていた学校観、教育観、授業観、子ども観等を見つめ直し、さらに鍛えていっていただきたいと思う。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（教育を原理的に考えるとどういうことか） 第2回：国内外の最先端の教育実践を知る①～その源流に流れる250年の思想 第3回：国内外の最先端の教育実践を知る②～その源流に流れる250年の思想 第4回：ジャン＝ジャック・ルソー『エミール』を読む①～「自然」な成長とは何か？ 第5回：ジャン＝ジャック・ルソー『エミール』を読む②～民主主義の土台としての教育 第6回：ジョン・デューイ『民主主義と教育』を読む①～教育の「目的」を再考する 第7回：ジョン・デューイ『民主主義と教育』を読む②～「成長」とは何か？ 第8回：再び、最先端の教育実践へ～過去の思想と実践を受け継ぎ、その先へ 定期試験			
テキスト			
苫野一徳『『エミール』を読む』岩波書店、2024年。 ジョン・デューイ『民主主義と教育』岩波書店、1975年。			
参考書・参考資料等			
苫野一徳『NHK100分de名著 苫野一徳特別授業ルソー『社会契約論』』NHK出版、2020年。			

井藤元・苫野一徳・小木曾由香『教育観を磨く-子どもが輝く学校をめぐる旅』日本能率協会
マネジメントセンター、2023年。

苫野一徳『どのような教育が「よい」教育か』講談社、2011年。

学生に対する評価

授業中の提出物40%、グループ及び全体ディスカッションにおける貢献度10%、最終成果物50%
%で評価する。

授業科目名： 教育原理B（歴史・制度） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：成松美枝 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 教育の思想と実践の変化を、日本と西洋諸国の教育の歴史に位置づけて考える。「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識を身につけ、現在の学校教育の原理との関わりを理解することを目的とする。			
授業の概要 西洋諸国と日本における、古代から現代に至るまでの教育の理念や思想、制度を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史の変遷について講義を行う。			
授業計画 第1回：教育の歴史1：西洋の教育の歴史 古代と中世の教育 第2回 教育の歴史2：西洋の近世の教育観 子どもの発見 第3回 教育の歴史3：産業革命と近代学校の誕生 第4回 教育の歴史4：新教育運動と進歩主義教育 第5回 教育の歴史5：現代の教育 福祉国家と公教育制度の発展 第6回 教育の歴史6：日本の中世・近世の教育史 第7回 教育の歴史7：日本の明治・大正期の公教育制度の成立と発展 第8回 教育の歴史8：日本の昭和・平成の時代の公教育制度の発展 定期試験			
テキスト 特になし。毎回の講義時にレジュメや資料を配布する。			
参考書・参考資料等 大田直子・黒崎勲著『学校をより良く理解するための教育学1 教育原理』学事出版 2000年、柴田義松『教育原理』有斐閣 2004年、森川輝紀・小玉重夫『教育史入門』放送大学教育振興会、2012年。			
学生に対する評価 毎回提出する提出課題50%、定期試験50%によって評価する。			

授業科目名： 幼児教育と保育の原理 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 名倉一美 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標：1. 日本の保育・幼児教育の理念や制度について説明することができる。2. 日本の保育・幼児教育の理念について現在に至るまでの歴史的背景を解説できる。3. 現代の日本の保育・幼児教育の課題を見つけ、自ら解決策を考えようとする意識を持つ。			
授業の概要：・現在の日本の保育・幼児教育の施設種や制度、基本的理念について解説を行うとともに、そこに至るまでの歴史的背景について講義する。また、子育て支援、小学校教育との接続、海外の保育等の現状を紹介し、保育・幼児教育の今後の課題について解説する。			
授業計画 第1回：日本の保育・幼児教育施設について一幼稚園・保育所・認定こども園 第2回：保育における「養護」と「教育」の考え方 第3回：子ども観・保育観の変遷 第4回：幼児教育・保育における子ども理解と発達 第5回：現在の日本の幼児教育・保育の理念 第6回：幼児教育・保育の目標と内容の変遷－6領域から5領域へ 第7回：保育の方法－環境を通じた保育 第8回：世界の保育の歴史－ペスタロッチ、オーエン、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育 第9回：日本の保育の歴史 幼稚園の歴史と倉橋惣三 第10回：日本の保育の歴史 保育所の歴史 第11回：近年の子育て環境の変化と現在の日本の子育て支援の現状 第12回：幼児教育と小学校教育の連携・接続の歴史 第13回：保育の専門性と保育者の研修 第14回：世界の保育の事情と日本の保育・幼児教育との比較 第15回：これからの保育・幼児教育の課題			
テキスト 適宜プリント資料を配布する。			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価 毎時行う各講義内課題（ワーク、ミニレポート、ミニテスト）にて評価する（100%）			

授業科目名： 教職入門 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成松 美枝 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義及び教育の役割、教員の職務内容、教員の労働条件と研修に関する基礎的知識・理解を身につけ、自分の理想とする教員像を明確にする。			
授業の概要 教職の意義や教員の職務内容、労働条件や研修について基礎的内容を学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解しながらこれから求められる教員の資質・能力について考え、自分の理想の教師像を確立して今後の教職科目の履修に活かせるようにする。			
授業計画 第1回：はじめに一教員になるために オリエンテーション:授業内容の概要 第2回：教員免許状の種類と教職課程で学ぶこと 第3回：理想の教師像と教職の特徴 第4回：教師の問題への対応と支援 第5回：学校教育の役割と教員の使命 第6回：職務内容： 学習指導と生活指導 第7回：教員の職務内容:小学校教諭 第8回：教員の権利と身分保障について： 服務規程 第9回： 教員の権利と身分保障について:懲戒と分限処分 第10回：教員の職務と力量形成： 現職小学校教諭の講演会 第11回：教員の職務と力量形成： 現職中学校教諭の講演会 第12回：教員の研修制度について 第13回：教育病理： いじめ・不登校・学級崩壊・暴力行為 第14回：教育病理とチーム学校運営への対応 第15回:授業のまとめー教師になるための重要事項の再確認 定期試験			
テキスト 特になし、毎回の講義時にレジュメや資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

藤本典裕編著『新版 改訂二版 教職入門—教師への道—』、図書文化社、2019年。大津尚志、坂田仰『初めて学ぶ教職の基礎』、協同出版、2006年。元兼正浩編著『教職論エッセンス』、九州大学大学院教育法制研究室、2017年。

学生に対する評価:

毎回の提出課題(50%)、定期試験(50%)で総合評価する。

授業科目名： 現代の教育と社会A 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 波多江 俊介 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 達成目標は、知識面では制度の仕組みや課題に関する事柄を理解し、自身で説明できるレベルへの到達を目標とする。実践面では、地域や家庭、関連機関との連携を可能にする要素を理解することや、判例等を読んで安全に配慮した教育指導計画が作成できる等、教育活動を行う上で適切な判断ができる力の修得を目指す。			
授業の概要 本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の3点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。			
第1回：オリエンテーション：公教育の原理と理念 第2回：教育行政制度の変遷にみる教育委員会の業務 第3回：保護者・地域との連携の必要性 第4回：学校教育と政治・宗教 第5回：子どもの教育を受ける権利：権利条約と子どもの貧困やインクルーシブ教育 第6回：学校保健安全：学校管理下における事故や災害に関わる予防・対応指導 第7回：効果的な学校経営の運用実態と課題 第8回：まとめ：近年の教育政策動向のおさらい			
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』2018年。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験（100%）			

授業科目名： 現代の教育と社会B 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 成松美枝
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標 公教育制度および教育行政の理念と仕組みを理解する。また、現在の学校を取り巻く問題とそれに対応する諸改革、学校安全の必要性と対応策について認識し理解を深める。			
授業の概要：全ての子どもに就学機会を保障する公教育の具体的な法制度と、現在の学校を取り巻く問題と改革、さらに学校管理下での安全を保障するための学校安全法制と取り組みについて講義を行う。			
授業計画 第1回：私教育と公教育 第2回：現代の公教育制度：日本と諸外国の学校体系 第3回：教育行政の組織と活動1：国の教育行政・文部科学省 第4回：教育行政の組織と活動2：教育委員会の制度と役割 第5回：学校経営と学級経営の仕組み 第6回：教育制度の改革1：学校評議員制度と学校運営協議会 第7回：学校と地域の連携：チーム学校とコミュニティースクール 第8回：教育制度の改革2 学校選択制度の実施 定期試験			
テキスト 配布資料に基づいて講義を進める。			
参考書・参考資料等 河野和清 編著：『教育行政学』ミネルヴァ書房 2006年 勝野正章・村上祐介編著：『教育行政と学校経営〔新訂〕』放送大学教育振興会、2020年 学生に対する評価：各回に課す提出課題(50%)と定期試験(50%)によって評価する。			

授業科目名：教育心理学A（学習） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：井邑 智哉 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、子どもへの支援の基礎となる心理学的な理解や考え方を学ぶ。			
授業の概要 子どもの行動のもつ意味を読み解くことができる力を養うために必要な心理学的知識や考え方を概説する。			
授業計画 第1回：学習のメカニズム：古典的条件付け、オペラント条件付け 第2回：記憶のメカニズム、記憶方略 第3回：やる気のメカニズム①自己決定理論 第4回：やる気のメカニズム②期待×価値理論 第5回：学習方略、自律的な学習を目指して 第6回：メタ認知と学習観 第7回：学級集団について、学級の機能、協同学習 第8回：まとめと定期試験 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 神藤貴昭・橋本憲（編）『新しい教職教育講座 教職教育編4 教育心理学』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 平常点（10%）、小レポート（30%）、定期試験（60%）。 平常点は、講義内レポートへの取り組み等を総合的に判断する。			

授業科目名：教育心理学B（発達） 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高崎文子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 幼児、児童及び生徒の発達段階に応じた特徴を理解し、学習や学校生活における適切な支援を考えることができるようになる			
授業の概要 子どもの発達の特徴を紹介し、環境要因としての教師の役割・関わり方について考える			
授業計画 第1回：発達と教育のとらえかた 第2回：発達段階とその特徴 第3回：認知発達と学習 第4回：自己・社会性・アイデンティティの発達 第5回：遺伝と環境の影響 第6回：動機づけの発達 第7回：子どもの発達を促す教師のはたらきかけ：ハードアプローチ 第8回：子どもの発達を促す教師のはたらきかけ：ソフトアプローチ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 鹿毛雅治・奈須雅裕（編）「学ぶこと・教えること」金子書房			
学生に対する評価 最終論述課題100% 最終論述課題（レポート）で評価します。子どもの発達への理解と教育実践への活用を深く考えられるようになったことを評価の観点とします。			

授業科目名： 特別支援教育の基礎 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 芳野 正昭 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する			
授業の概要 本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、各種の障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、特別支援教育とは 第2回：日本における障害児教育の歴史 第3回：各種障害等の理解と支援①：視覚障害及び聴覚障害 第4回：各種障害等の理解と支援②：知的障害 第5回：各種障害等の理解と支援③：肢体不自由 第6回：各種障害等の理解と支援④：病弱・身体虚弱、情緒障害 第7回：特別支援学校における教育の実際 第8回：自立活動と個別の指導計画と個別の教育支援計画 定期試験			
テキスト 「特別支援教育の基礎」 松山郁夫・芳野正昭編著 2020年 学文社			
参考書・参考資料等 適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。			
学生に対する評価 定期試験やレポートにより評価する。			

授業科目名： 特別支援教育の展開 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 菊池 哲平 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する			
授業の概要 本授業では、「特別支援教育の基礎」を受け、特に通常の学級における特別支援教育の展開を中心に、発達障害や通級による指導の実際、また通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりについて概説する。			
授業計画 第1回：インクルーシブ教育システムとは 第2回：発達障害の理解と支援①：発達障害とは 第3回：発達障害の理解と支援②：自閉症スペクトラム障害 第4回：発達障害の理解と支援③：ADHD 第5回：発達障害の理解と支援④：LD 第6回：通級による指導の実際・特別支援教育コーディネーターの役割 第7回：障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援 第8回：通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりの実際 定期試験			
テキスト 「特別支援教育の基礎」 松山郁夫・芳野正昭編著 2020年 学文社			
参考書・参考資料等 適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。			
学生に対する評価 定期試験やレポートによって評価する。			